《文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム》

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

平成27年度 事業実施成果報告書

新たな流れと広がりを
次代の波に変えていく。

平成 28（2016）年 3 月

まえがき

平成 26 年度からスタートした文部科学省の事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』に採択されたプログラム『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン』（認プロ）は、平成 27 年度が 2 年目に当たります。認プロは、①認知症医療の最先端の知識・診療技能、②地域において認知症の人や家族に対して幅広い支援ができる多職種連携力、③未来の認知症医療（予防を含む）を創造する研究力を備えた“認知症の真のプロフェッショナル”（認プロ！）の育成を目標とし、北陸医科系 4 大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）の拠点ネットワークを中核に関連医療機関等が連携して取り組んでおります。現在、認知症の人の急速な増加と共に認知症対策・診療の強化が急務となり、認知症施策推進総合戦略「新オレンジプラン」に基づき、認知症の予防から、認知症の初期、そして最終段階に至るまで、医療、行政など、さまざまな立場から、さまざまな対策がとられつつあります。その中で最も重要な課題は、それらを担う人材の育成であることは間違いありません。私達は認プロを推進する中で、そのニーズの高さ、本プログラムに対する期待を実感しております。

この 1 年間、私達は外部有識者からなるアドバイザリーボードによる外部評価、地域自治体や医師会関係者等からなる運営協議会からの助言を得ながら、本事業を推進してまいりました。履修者がいつでもどこでも学べるよう、認知症のあらゆる側面を網羅した e-learning 講義 40 コマを Web 上で用意し、テレビ会議システムを用いた症例検討会（毎月）、各種講演会、セミナー、シンポジウム等を開催し、啓発のための市民公開講座を実施し、さらに地域連携・多職種連携に向けた取り組みを積極的に行ってきました。たとえば、認プロは認知症のプロフェッショナル医、すなわち、優れた専門医を育成するプログラムとして出発しましたが、地域や多職種との連携をはかる中で、かかりつけ医や認知症サポート医、認知症に関わる様々な職種（看護、介護、リハビリ関係者、保健師、ソーシャルワーカー、薬剤師等）の教育・研修に認プロの e-learning 講義やテレビカンファレンスを役立たせるなど、より広範囲な活動へと展開してきております。今後、認プロをさらに拡大・発展させ、21 世紀半ばの超高齢社会における認知症診療・対策のリーダーとなる人材の育成のモデルとなるようにしたいと考えております。

認プロの推進にあたりましては、アドバイザリーボード他の委員会の方々、講演会、シンポジウム、セミナー等の講師の先生方、北陸の 4 大学、関連施設、自治体、医師会等の関係者など、多くの方々のご指導、ご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。

2016（平成 28）年 3 月

文部科学省・課題解決型高度医療医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
プロジェクトリーダー　山田 正仁
［金沢大学大学院医薬保健学総合研究科　脳老化・神経病態学（神経内科学）教授］

目　　次

まえがき
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
プロジェクトリーダー　山田　正仁

Ⅰ．事業説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
１．文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム・
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）の事業概要・・・・・　１
２．認プロの事業体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ．平成２７年度事業実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
１．平成２７年度における認プロの活動状況・・・・・・・・・・・・・・　３
２．平成２８年度以降の事業計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
３．平成２８年度教育コース履修者等の募集・・・・・・・・・・・・・・・１２

Ⅲ．アドバイザリーボードによる外部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
１．メンバー紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
２．平成２６年度のアドバイザリーボードによる外部評価への対応・・・・・・・１３
３．平成２７年度アドバイザリーボードによる評価結果・・・・・・・・・・・・１５

Ⅳ．参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
資料１　　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ・・２２

資料２　　事業推進委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

資料３　　教務委員会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

資料４　　運営協議会委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

資料５　　「平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」
及び工程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

資料６　　平成２７年度大学改革推進等補助金「課題解決型高度医療人材
養成プログラム」の交付内定通知・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

資料７　　平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）
交付申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

資料８　「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業
（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」交付決定通知書 ・・・・３７

資料９　第１回事業推進委員会議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

資料１０　第２回事業推進委員会議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

資料１１　第１回教務委員会議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８

資料１２　平成２７年度運営協議会議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１

資料１３　認知症プロフェッショナル科目　講義シラバス・・・・・・・・・・・・５４

資料１４　デメンシアカンファレンス（ＤＣ）の運営手順・・・・・・・・・・・・６５

資料１５　平成２７年度　デメンシアカンファレンス・・・・・・・・・・・・・・６７

資料１６　平成２７年度　認プロＦＤ講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０

資料１７　キャリアップ支援セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７２

資料１８　認知症チーム医療・ケアセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・７３

資料１９　認プロ第２回シンポジウム　プログラム・ポスター
・抄録抜粋・新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４

資料２０　認プロ第２回市民公開講座　ポスター・新聞記事・・・・・・・・・・８３

資料２１　「ＮＧＳＤプロジェクト・認プロ」合同フォーラム・・・・・・・・・８６

資料２２　「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成　第３回シンポジウム」
の共催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８８

資料２３　平成２８年度教育コース履修者募集要項・・・・・・・・・・・・・・・９０

Ⅰ．事　業　説　明

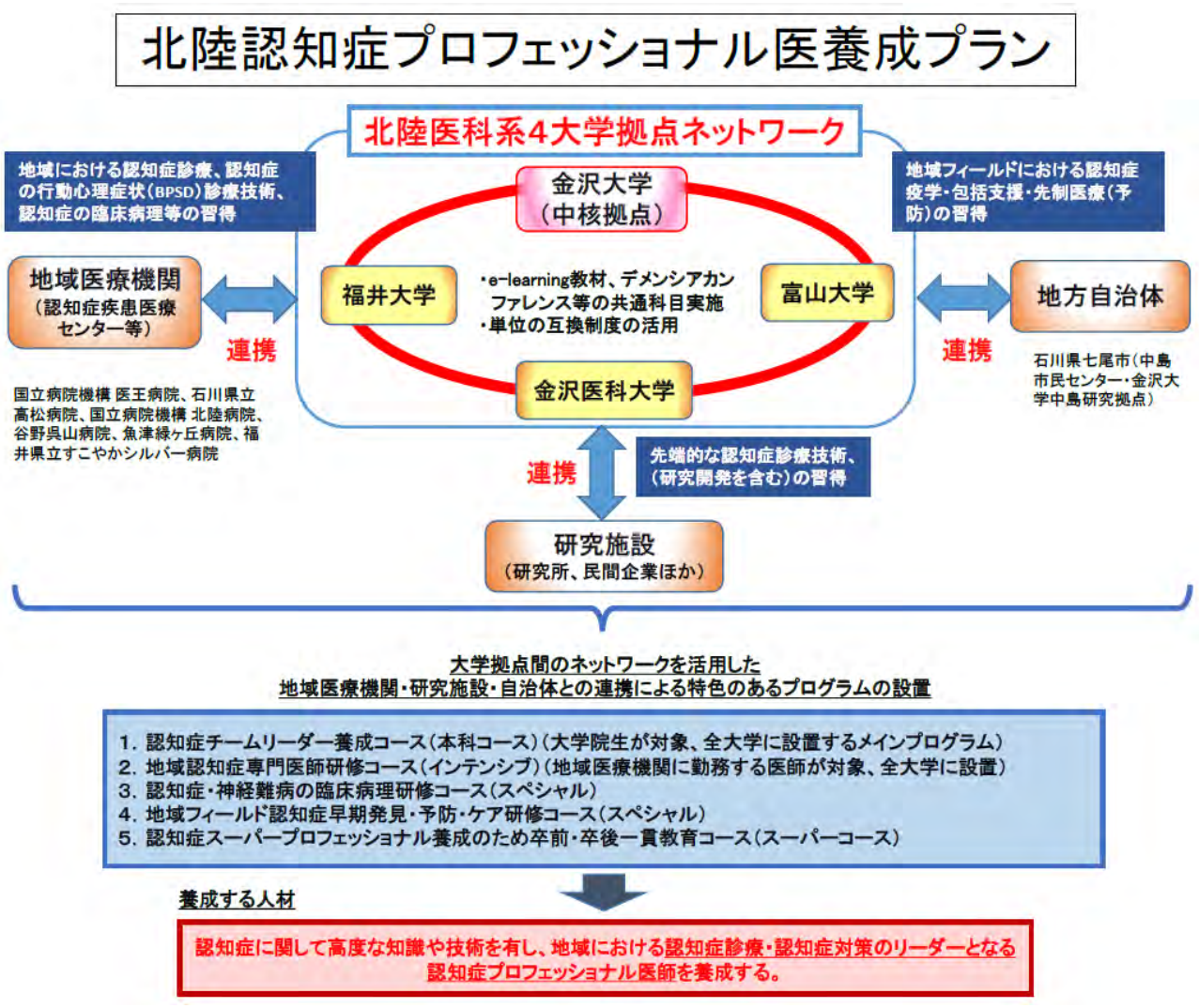
Ⅰ．事業説明

１．文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム・北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）の事業概要

このプログラムは、高度な教育力・技術力を有する大学が核となって教育プログラムを実践・展開することにより、わが国が抱える医療現場の課題に対して科学的根拠に基づいた医療が提供できる高度医療専門人材を育成し、課題を解決し健康立国・健康長寿社会を実現しようとするものである。

私達は、わが国の高齢化に伴う認知症の人の急増、認知症医療に携わる高度専門人材の不足の問題を解決し、最先端の知識・診療技能、地域において認知症の人や家族に対して幅広い支援ができる多職種連携力、未来の認知症医療・予防を創造する研究力を備えた真の認知症プロフェッショナル医師を養成するために、「医師・歯科医師を対象とする人材養成」の取組の中の「特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成：難治性疾患診断・治療領域」において、北陸医科系４大学の拠点ネットワークを構築して認知症に焦点を当てたプログラム「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）」を作成した。その概要を**認プロ概要図（図１）**に示す。

図１．認プロ概要図



２．認プロの事業体制

認プロの運営組織は「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ」〔**【資料１】（２２ページ）**〕に則り組織した。**認プロ運営組織図（図２）**に示す。

- ●事業推進委員会は認プロ事業の運営のための組織であり、認プロを構成する大学の主要メンバーである委員１０名よりなる〔**【資料２】（２５ページ）**〕。
- ●教務委員会は教育コース等を実施するための組織であり、構成大学や連携医療機関の委員３０名よりなる〔**【資料３】（２６ページ）**〕。
- ●運営協議会は認プロ事業の実施にあたり関係団体からの意見を求めるためのものであり、北陸各県の行政、医師会、関連地域医療機関などからの委員２３名よりなる〔**【資料４】（２７ページ）**〕。
- ●アドバイザリーボードは認プロの外部評価のための組織であり、認知症の専門家の立場、地域医療連携の立場、国民一般の立場等を代表する外部委員４名よりなる（**１３ページ**）。

図２．課題解決型高度医療人材養成プログラム・
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営組織

Ⅱ．平成２７年度事業実施報告

Ⅱ．平成２７年度事業実施報告

１．平成２７年度における認プロの活動状況

１）事業推進計画の策定及び推進

a. 平成２７年度の事業推進計画

平成２７年度の事業推進計画を、平成２６年１０月３０日開催の「事業推進準備委員会」及び平成２６年１２月２６日開催の「平成２６年度第１回教務委員会」における審議の結果に基づき策定した。それに基づき平成２７年２月２０日付けで、「平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」及び工程表〔**【資料５】（２８～３３ページ）**〕を作成し、文部科学省へ提出した。

b. 交付内定通知

平成２７年３月３０日付けで、文部科学省から交付内定通知〔**【資料６】（３４ページ）**〕を受けた。平成２７年４月１日から平成２７年度の「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）」の活動を開始した。

c. 交付申請・交付決定通知

平成２７年６月１８日付けで、交付申請書〔**【資料７】（３５・３６ページ）**〕を文部科学省へ提出した。平成２７年１０月６日付けで、文部科学大臣からのとおり交付決定通知〔**【資料８】（３７・３８ページ）**〕を受けた。補助金交付決定額は４０，９７０千円であった。

d. 事業推進委員会の開催

①平成２７年度第１回事業推進委員会（平成２７年７月９日）：

委員が所属する４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）をテレビ会議システムで結び開催した。平成２７年７月８日までの事業実施活動が報告され、その後の平成２７年度の事業計画（下記）について審議・決定した。審議結果の概要を〔**【資料９】（３９～４２ページ）**〕に示す。

・キャリアアップ支援セミナーの開催

・チーム医療・ケアセミナーの開催

・認プロ第２回市民公開講座の開催

・認プロ第２回シンポジウムの開催

・アドバイザリーボードの書面による外部評価

・平成２７年度運営協議会及び平成２７年度第２回事業推進委員会の開催

②平成２７年度第２回事業推進委員会（平成２８年２月７日・ホテル金沢）：

アドバイザリーボードによる評価及び平成２７年度運営協議会の意見を踏まえ、平成２８年度の事業実施計画について審議・策定した。審議の概要を〔**【資料１０】（４３～４７ページ）**〕に示す。

e. 教務委員会の開催

平成２７年１０月９日に、委員が所属する１０施設（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、国立病院機構医王病院、石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院、谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院）をテレビ会議システムで結び開催した。審議された主な事項は下記のとおりである。報告及び審議内容の概要を〔**【資料１１】（４８～５０ページ)**〕に示す。

(1)平成２８年度教育コース履修者募集要項

(2)教育コースの修了時期と修了証書の授与方法

(3)平成２８年度の行事実施計画：

- デメンシアカンファレンス及びＦＤ講演会の開催（継続）
- 認知症地域連携・多職種ワークショップの開催（新規）
- 認知症チーム医療・ケアセミナー及びキャリアアップ支援セミナーの開催（継続）
- 平成２８年度の認プロ第３回市民公開講座
- 平成２８年度のアドバイザリーボードの開催
- “ＮＧＳＤ”プロジェクトとの合同セミナーの開催の提案

f. アドバイザリーボードの開催

平成２７年度は、アドバイザリーボード委員による外部評価を、書面により平成２８年１月に実施した。評価の結果（**１５～１９ページ**）を、平成２８年２月７日開催の平成２７年度第２回事業推進委員会にて報告し、平成２８年度以降の事業計画に反映させた。

g. 運営協議会の開催

平成２８年２月７日にホテル金沢において、平成２７年度運営協議会を開催した。運営協議会では、北陸３県の自治体、医師会、地域医療機関等からの委員の指導、助言を受けた。議事の概要を〔**【資料１２】（５１～５３ページ）**〕に示す。その結果は、同日開催された平成２７年度第２回事業推進委員会における平成２８年度以降の事業計画策定のための審議に反映された〔**【資料１０】（４３～４７ページ）**〕。

２）教務関係の活動

a. 教育コース履修者の受入

平成２６年度末から金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学において募集を開始した。教育コースは、平成２７年１２月１日現在、４大学合計で募集人員２７名に対し２１名が履修中である**（表１）**。

コース別の履修者数は、【本科コース】１０名（募集人員９名）、【インテンシブコース】１０名（募集人員１３名）、【スペシャルコース】０名（募集人員４名）、【スーパーコース】１名（募集人員１名）であった。

表 1. 各教育コース募集人員および履修者数

大学名	教育コース名	募集人員	履修者数
金沢大学	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）	３名	５名
	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）	３名	１名
	認知症・神経難病の臨床神経病理研修コース（スペシャル）	大学院生１名、地域医療機関等に勤務する医師１名	０名
	地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）	大学院生１名、地域医療機関等に勤務する医師１名	０名
	認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）	１名	１名
富山大学	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）	１名	１名
	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）	２名	２名
福井大学	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）	２名	１名
	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）	５名	２名
金沢医科大学	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）	３名	３名
	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）	３名	５名
合　計		２７名	２１名

b. 認知症プロフェッショナル科目の作成と提供

認知症プロフェッショナル科目のうちe-learningによる講義科目は、確認テストを除き全４０コマを提供する。e-learning講義科目は講義シラバス〔**【資料１３】（５４～６４ページ)**〕に記載したとおりである。平成２６年度に作成した６コマに加え、３４コマを平成２７年度中に作成・提供する。平成２８年２月末日現在、７科目３２コマを収録済みである。うち２０コマが受講可能な状態である。

c. デメンシアカンファレンスの開催

平成２６年度末に策定した「デメンシアカンファレンス（ＤＣ）の運営手順」〔**【資料１４】（６５・６６ページ)**〕に基づき、１０施設（４大学と連携６病院）をテレビ会議システムで結んで、デメンシアカンファレンスを毎月１回開催している。デメンシアカンファレンスは、認知症プロフェッショナル科目の１コマ分に充当する。平成２７年４月１日より運用を開始し、平成２７年４月２８日に第１回デメンシアカンファレンスを開催、平成２８年３月１５日までに全１２回開催した**（表２）**。

表２．平成２７年度デメンシアカンファレンス

回	開催日	担当大学等	症例
第１回	4/28	金沢大学	小脳と脳幹の萎縮を伴った若年性認知症の一例

第２回	5/27	富山大学	長期間の経管栄養から離脱できたレビー小体病の一例
第３回	6/23	福井大学	亜急性の経過をたどった記憶障害の一例
第４回	7/30	金沢医科大学	抑うつ症状で発症し認知障害を呈した一例
第５回	8/18	金沢大学	近時記憶障害で発症した家族歴のある認知症の一例
第６回	9/17	富山大学	脳梗塞を繰り返し、認知機能低下が進行した一例
第７回	10/27	福井大学	気分変動を伴うレビー小体病の一例
第８回	11/20	石川県立高松病院	入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の１例−地域で支援体制を整えることの重要性−
		北陸病院	地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている幻覚、妄想のある認知症の症例
第９回	12/4	金沢医科大学	うつ病治療中に認知機能低下をきたした一例
第10回	1/12	金沢大学	進行性の認知機能障害を認めた若年男性の一例
第11回	2/23	富山大学	進行性失語が疑われる一例
第12回	3/15	福井大学	進行する認知機能低下を発症した炎症性脳アミロイド血管症の一例

第１１回までの開催で延べ６２２名の参加者があり、うち教育コース履修者は延べ９１名であった〔(**【資料１５】６７～７１ページ**)〕。各施設から診断や治療に難渋した症例が提示され、毎回、活発な議論が行われている**（図３）**。

図 3. 第１回デメンシアカンファレンス（2015.4.28）

d. ＦＤ講演会の開催

ＦＤ講演会は、認知症医療や研究等の第一線で活躍する講師を招いて教員やメディカルスタッフの資質向上と最新研究情報を得ることを目的としている。また、教育コースの認知症プロフェッショナル科目である。参加１０施設がテレビ会議システムを利用し講演会に参加し質疑応答を行っている。平成２７年度は、平成２８年２月１７日までに全７回開催した**（表３）**。

表３．平成２７年度ＦＤ講演会

回 (担当大学)	開催日	講演者	演題
第１回 (金沢大学)	5/18	福井大学医学部 内木宏延 教授 UCLA 医学部神経学教室 David B. Teplow 教授	“Molecular pathogenesis of amyloid fibril formation and deposition” “Amyloid β-protein oligomerization and the molecular pathogenesis of Alzheimer’s disease”
第２回 (富山大学)	11/13	大阪大学大学院医学系研究科 数井裕光 講師	認知症の治療－疾患別対応の重要性とその応用－
第３回 (金沢医科大学)	11/16	京都大学大学院医学研究科 木下彩栄 教授	アルツハイマー病の危険因子
第４回 (金沢医科大学)	12/7	新潟大学脳研究所 池内 健 教授	認知症の先制医療：バイオマーカーによる診断技術の進歩と予防的介入
第５回 (福井大学)	12/15	国立研究開発法人放射線医学総研究所 佐原 成彦 主任研究員	ヒトならびに動物モデルを用いたタウ PET イメージング：創薬ツールとしての可能性
第６回 (金沢医科大学)	2/10	聖マリアンナ医科大学 伊野 美幸 教授	認知症の患者・家族に対する多職種連携アプローチ
第７回 (金沢医科大学)	2/17	名古屋市立大学大学院医学研究科 道川 誠 教授	脳内脂質代謝変動とアルツハイマー病分子病態

各施設から多数の参加者があり、活発なディスカッションが行われた。第７回までに延３０４名の参加者があり、うち教育コース履修者は延３１名であった〔**【資料１６】（７０・７１ページ）**〕。

特に平成２７年５月１８日に開催した第１回認プロＦＤ講演会は、UCLAのDavid Teplow教授をお招きし、福井大学の内木宏延教授の講演を交え、国際セミナー形式で行われた**（図４）**。

図４．第１回認プロＦＤ講演会（2015.5.18）

e. キャリアップ支援セミナーの開催

認知症診療に携わるばかりではなく、様々な立場で認知症対策に貢献する道があることを示すことを目的に、平成２７年１０月１３日に第１回キャリアップ支援セミナーを開催した〔**【資料１７】（７２ページ）**〕。臨床医として活躍後、製薬メーカーで抗認知症薬の開発に携わり、現在は製薬メーカーで統括部長を務める藤本陽子先生をお招きし、「臨床医から製薬企業へのキャリアパス―抗認知症薬の開発に携わって―」と題して講演いただいた。セミナーでは藤本先生のキャリア形成の道筋が示され、参加者に感銘を与えた（**図５**）。セミナーには４８名の参加者があり、うち教育コース履修者は３名であった。

図５．キャリアアップ支援セミナー（2015.10.13）

f. 認知症チーム医療・ケアセミナーの開催

認知症医療において欠かせないチーム医療やケアについて学ぶことを目的として、平成２７年１１月２０日に、テレビ会議システムを利用して全１０施設を結び、第１回認知症チーム医療・ケアセミナーを開催した〔**【資料１８】（７３ページ）**〕。埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センターの丸木雄一センター長をお招きし、「地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割」と題して講演いただいた。さいたま市における認知症の地域ケアネットワークの構築に至る取り組みが示され大変参考になった。

同時に開催した第８回デメンシアカンファレンス（**表２**）において、参加施設のメディカルスタッフが地域での支援が重要であった症例を報告した〔**【資料１５】（６８ページ）**〕。開催に当たり医師だけでなくメディカルスタッフにも広く参加を呼びかけたところ、メディカル

スタッフを含む５６名の参加があり、看護師や事務職員などからも活発な発言があった**（図６）**。

図６．認知症チーム医療・ケアセミナー（2015.11.20）

３）教務関係以外の活動

a. 認プロ第２回シンポジウムの開催

平成２７年１２月１２日に、金沢市石川県立音楽堂・交流ホールにおいて第２０回日本神経精神医学会とのジョイント企画で「認知症診療のピットフォールと最近の進歩」をテーマに認プロ第２回シンポジウムを開催した〔**【資料１９】（７４～８２ページ)**〕。シンポジウムでは、日本神経精神医学会との連携のもとに、認知症のエキスパートである６人の講師（神経内科・精神科）が、認知症の診断から認知症の人の自動車運転問題まで、診療で問題となるポイントをテーマに講演した〔**【資料１９】（７６～８１ページ)**〕。医師、研究者をはじめメディカルスタッフ、学生、一般の方を含めて１５０名の参加者があり、大変盛況であった**（図７）**。本シンポジウムについて、新聞に報道された〔**【資料１９】（８２ページ)**〕。

図７．認プロ第２回シンポジウム（2015.12.12）

b. 認プロ第２回市民公開講座の開催

平成２７年１１月２２日に、福井市　福井新聞社　風の森ホールにおいて、「認プロ第２回市民公開講座－みんなで知ろう若年性アルツハイマー病－」（福井大学担当）を開催した〔**【資料２０】（８３～８５ページ)**〕。会場が満席となる約３００名の参加があった**（図８）**。第１部は、若年性認知症の人ご自身と地域支援団体代表者によるトークセッションであり、

認知症者が日々積極的に仕事に従事している様子や、就業を支援する支援団体の事業内容が語られた。第２部では、福井大学の濱野忠則准教授による「認プロ」の紹介の後、認知症者家族や多職種によるパネルディスカッションで、認知症者が笑顔で社会生活を営むための方策について討論された。最後の挨拶で、認プロの山田正仁プロジェクトリーダーは、市民一人一人が認知症のことを知って、自分の問題として考えることが大切であることを強調した。この市民講座について、新聞で報道された〔**【資料２０】（８５ページ）**〕。

図８．認プロ第２回市民公開講座（2015.11.22）

c. 「ＮＧＳＤプロジェクト」との合同フォーラムの開催

信州大学を代表とするプロジェクト「難病克服！次世代スーパードクターの育成（ＮＧＳＤプロジェクト）」は、文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム【取組１：医師・歯科医師を対象とした人材養成】〔１－（２)〕：特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成〕①難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）に、認プロと同時に平成２６年度から採択された。文部科学省の助言に基づき、認プロはＮＧＳＤプロジェクトとの連携を図った。

平成２７年５月１６日に、東京女子医科大学遺伝子医療センターにおいてＮＧＳＤ・認プロ合同フォーラムを開催した〔**【資料２１】（８６・８７ページ)〕(図９)**。合同フォーラムでは井関尚一事業推進責任者が「認プロ」を代表し開会の挨拶をし、山田正仁プロジェクトリーダーが「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）における人材養成」と題して講演した。両プロジェクトの内容について活発な質疑応答があり、連携の第一歩として有意義なものとなった。

図９．“ＮＧＳＤ”・“認プロ”合同フォーラム（2015.5.16）

d. 「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成　第３回シンポジウム」の共催

平成２５年度に採択された文部科学省・未来医療研究人材養成拠点形成事業「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成」プロジェクト（金沢大学）主催のシンポジウムが平成２７年１１月１２日に開催され、認プロが共催した〔**【資料２２】（８８・８９ページ)**〕。約１００名の参加者があった。日本医療研究開発機構・革新的医療技術創出拠点プロジェクト・ディレクターの猿田享男慶應義塾大学名誉教授による、「アカデミアにおける医学の基礎研究の実用化と動向」と題した特別講演があった。基礎研究の実用化についての総合的な講演であり、認知症領域への応用が考えられた。

２．平成２８年度以降の事業計画の策定

平成２７年度アドバイザリーボード（平成２８年１月に書面で開催）による外部評価の結果（**１６～１９ページ**）、平成２７年度運営協議会（平成２８年２月７日開催）における指導、助言〔**【資料１２】（５１～５３ページ)**〕を得て、平成２７年度第２回事業推進委員会（平成２８年２月７日開催）において平成２８年度以降の事業計画について審議し、平成２８年度の事業計画を策定した〔**【資料１０】（４３～４７ページ)**〕。

教育コース履修者に対する認知症プロフェッショナル科目の提供等の継続的な教務活動以外で、平成２８年度に予定している事業計画は以下のとおりである：

１）デメンシアカンファレンス(毎月１回)の開催（継続）（テレビ会議システム）
２）ＦＤ講演会(年４回以上)の開催（継続）（テレビ会議システム）
３）認知症地域連携・多職種ワークショップ（年１回）の開催（新規）（テレビ会議システム）
４）認知症チーム医療・ケアセミナー（年１回）の開催（継続）（テレビ会議システム）
５）キャリアアップ支援セミナー（年１回）の開催（継続）（テレビ会議システム）
６）第３回市民公開講座の開催（富山）
７）第３回認プロシンポジウム・ＮＧＳＤプロジェクトとの合同シンポジウムの開催（金沢）：「認知症と遺伝」をテーマに「難病克服！次世代スーパードクターの育成（ＮＧＳＤ）」プロジェクト（代表・信州大学）との合同シンポジウム開催を予定
８）アドバイザリーボードの開催（書面及び対面式会議）
９）事業推進委員会（年１回以上）の開催（対面式会議（１回）及びテレビ会議システム）
１０）教務委員会（適時）の開催（テレビ会議システム）
１１）運営協議会（年１回）の開催（対面式会議）

これに基づき、平成２８年３月１１日、「平成２８年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」等を文部科学省に提出した。

３．平成２８年度教育コース履修者等の募集

平成２７年度アドバイザリーボード（平成２８年１月に書面で開催）による外部評価の結果（**１６～１９ページ**）、平成２７年度運営協議会（平成２８年２月７日開催）における指導、助言〔**【資料１２】（５１～５３ページ）**〕、平成２７年度第２回事業推進委員会（平成２８年２月７日開催）での審議〔**【資料１０】（４３～４７ページ）**〕も踏まえ、「平成２８年度教育コース履修者募集要項」〔**【資料２３】（９０ページ）**〕を作成した。

平成２７年度の募集要項の内容に加え、地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）に関して、全国どの地域からでも履修可能であることや、募集対象者に歯科医師も含むことを明記した。平成２８年３月９日より、平成２８年度教育コース履修者の募集を開始した。

さらに、教育コースとは別に、認知症医療に携わる多職種の方が e-learning 講義を利用できるよう「認知症メディカルスタッフ e-learning 講座」を設置することを記載した。本講座は平成２８年４月より随時受講者を受け入れる。

Ⅲ．アドバイザリーボードによる
外　　部　　評　　価

Ⅲ. アドバイザリーボードよる外部評価

１．メンバー紹介

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」北陸認知症プロフェッショネル医養成プラン
アドバイザリーボード・委員

氏　　名	所属(研究科・専攻等)・職名	委員会 に お け る 役 割
中島 健二	鳥取大学脳神経医科学講座脳神経内科学分野 教授	認知症の専門家（神経内科領域）からの委員
天野 直二※	岡谷市民病院　病院長 信州大学 名誉教授	認知症の専門家（精神科領域）からの委員
沖野 惣一	おきの内科医院 院長 河北認知症を地域で考える会 代表	かかりつけ医の立場からの委員
矢島 ゆき子	ＮＨＫエデュケーショナル科学健康部　シニアプロデューサー	国民一般の立場からの委員

※ 委員長

２．平成２６年度のアドバイザリーボードによる外部評価への対応

平成２７年３月２２日に開催した、アドバイザリーボードによる外部評価において示された意見に対し、以下のように対応し、事業活動の改善を図った。

１）e-learningによる講義作成の進捗状況、全国への普及・共有化 ［沖野委員、矢島委員］

e-learningによる講義科目の作成は計画どおり進捗しており、平成２７年度末に全４０コマを収録し閲覧可能にする予定である。

平成２６年度末に委員の先生方からご指摘いただいたとおり、認プロのe-learning講義科目を認知症の勉強に使いたいといった問い合わせを、関東、関西など全国各地から、医師ばかりでなく、認知症に関わるメディカルスタッフや研究者からもいただき、Web上のe-learning講義科目などで認知症についてレベルの高い勉強をしたいというニーズが非常に高いことを実感している。

認プロのプログラムは、平成２６年度に『文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム【取組１：医師・歯科医師を対象とした人材養成】〔１－（２)〕：特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成』という事業として採択されたため、コース履修の対象者を「医師」としてスタートした。医師については、「平成２８年度教育コース履修者募集要項」〔**【資料２３】（９２ページ）**〕において、参加４大学が設置するインテンシブコース（地域の病院において認知症診療で活躍する医師が主な対象）は、認知症診療に携わる医師が全国どこからでも履修することが可能であることを明記した。

一方で、医師以外の職種については、徐々に対象を拡大していく計画である。上述したように、平成２７年度は認知症チーム医療・ケアセミナーを実施し、デメンシアカンファレンスでケアや地域連携上の問題例を取り上げ、メディカルスタッフの積極的な参加を得た。平成２８年度からは、「メディカルスタッフe-learning講座」を設置し、認知症に関わる職種の方は誰でもこの講座に登録をすれば、e-learning講義科目を自由に聴講できるようにする。それを「平成２８年度教育コース履修者募集要項」に明記した〔**【資料２３】（９２ページ）**〕。さらに、平成２９年度以降には、看護系大学等と連携して「認知症エキスパートナース養成」にコミットする道などを模索する。

将来的には看護、介護等領域の認知症プロフェッショナルを認定するコースも設置したいが、そのためには認プロの事業規模を拡大し看護や介護関係者が事業の主体に加わる必要がある。

認プロの教育活動で非常に重要な位置を占めるのは、遠隔システムを用いた多施設参加による症例検討会（デメンシアカンファレンス）やセミナーである。現在、セキュリティと画像解像度の問題から、認プロ参加施設間を結ぶ“閉ざされた”テレビ会議システムを使っている。しかし、認プロ参加施設以外や全国から参加するためには、Ｗｅｂ上で検討会やセミナーを行う必要があり、現在、それらの技術的な問題をクリアするために専門家と協議を行っている。平成２８年度は現在のテレビ会議システムを継続使用するが、それ以降、技術的な問題が解決されれば、なるべく早い段階でＷｅｂ上のシステムに移行したいと考えている。

２）介護等における他職種との連携、及び地域における連携の強化（医師会との関わり、新オレンジプラン、認知症初期集中支援チームなどへのコミットなどを含む）［天野委員］

ご指摘のように、認知症専門医は認知症対策においてチームのリーダーとしての役割を期待されており、認プロは「認知症チーム医療のリーダー」を養成すべき人材像としている。そのために必要な条件の一つは「多職種連携力・地域連携力」である。平成２７年度開催した「第１回認知症チーム医療・ケアセミナー」〔**【資料１８】（７３ページ）**〕を平成２８年度以降も継続して開催する。今年度の「認知症チーム医療・ケアセミナー」では、新オレンジプラン、認知症初期集中支援チームの取組が議論となり、こうした議論を通して履修者の理解が深まるものと思われる。さらに平成２８年度からは、ＩＰＥ（多職種連携）ワークショップも開催する予定である。また、e-learning講義科目である「認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理」などの履修を促進する。

新オレンジプランに基づく、認知症初期支援などの認知症支援体制の推進は、地域の行政や医師会等にとって大きな課題となっている。認プロ担当者は認知症の専門家として、そのための方策を検討する委員会の活動や、かかりつけ医等の認知症対応力向上のための研修等に関わっており、それらを通じて地域連携の強化を図っている。今後、地域における認知症対策・支援に認プロが積極的にコミットしていくための協議を行政等と行っている。Ｗｅｂ上の会議システムを活用することは非常に有効な方法であり、そのためにも上述したような技術的な問題点（セキュリティなど）への対応を検討している。

３）現場研修、それを補充する教育の用意［天野委員］・医療機関以外で認知症患者・家族に接する機会の用意［矢島委員］

認プロ履修者の多くは医療機関（大学病院や地域の基幹病院）に所属しており、e-learningによる講義科目を履修し、テレビ会議システムによるカンファレンスやセミナーに参加している。通常の医療現場では研修することが困難な領域を実習する機会を提供するため、認プロでは２つのスペシャルコースを用意した：①地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース、②認知症・神経難病の臨床病理研修コース。そのうち、①では地域における認知症に対する取組（予防～早期発見～介護まで）の現場に参加し研修する（戸別訪問などを含む）。

しかし、こうした研修に参加するためには、ある程度の期間、所属する医療機関を離れてフリーになる必要があり、実際には容易ではない。そのため、e-learning講義科目で関連する科目（生活支援・地域連携）を履修する、そうしたテーマのセミナー（「認知症チーム医療・ケアセミナー」〔**【資料１８】（７３ページ）**〕などに参加するなどの教育方法で補うことが重要と考え、そうした企画を一層充実していく方針である。

さらに、平成２７年度に実施した第２回市民公開講座「みんなで知ろう若年性アルツハイマー病」〔**【資料２０】（８３～８５ページ）**〕のように、認知症者自身や家族介護者も、一般市民も、医療・保健・福祉関係者も、認知症に関わる人全てが参加する機会を提供していくことも大切と考え、今後も同様の企画を継続していく予定である。

４）関連学会との連携（学会専門医との関係も含む）の模索［天野委員］

平成２７年度は、関連領域の学会との連携として、「第２０回日本神経精神医学会」とのジョイント企画で「認知症診療のピットフォールと最近の進歩」をテーマに「認プロ第２回シンポジウム」を開催した〔**【資料１９】（７４～８２ページ）**〕。「第２０回日本神経精神医学会」参加者と認プロ関係者との間で意見交換等の活発な交流が行われた。今後も、「日本認知症学会」（平成２９年に金沢で開催予定）等とのジョイント企画シンポジウム等の開催を検討する。

学会専門医との関係については、コース履修者はe-learning講義科目、デメンシアカンファレンス、セミナー等を通じて十分な研鑽を積むことにより、日本認知症学会や日本老年精神医学会の専門医の資格を取得する実力を養うことが可能であり、それを推奨していく。認プロとしては、真の実力を備えた認知症の専門医を育成するためには、認プロのような方式の人材養成の取組が非常に有用であることを示すこと、すなわち認プロの取り組みがモデルとなって全国に波及していくことを目指している。その実現の過程で、認知症関連学会における専門医育成のための教育プログラムとの連携等を検討し関連学会と協議できればと考えている。

５）事務局からの連絡や案内にもっと余裕が必要［沖野委員］

ご指摘のとおりであり、行事の連絡や案内が遅れる傾向にあることが問題である。事務局はその点を十分認識し、関係者にご迷惑をおかけしないように留意したい。

３．平成２７年度アドバイザリーボードによる評価結果

平成２７年度は、アドバイザリーボード委員による外部評価を、書面により平成２８年１月に実施した。評価の結果（評価表）を**１６～１９ページ**に示す。この外部評価および運営協議会における意見〔**【資料１２】（５１～５３ページ）**〕を踏まえて平成２７年度第２回事業推進委員会において平成２８年度の事業計画の審議を行い、平成２８年度の事業計画策定に反映させた。

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　2016 年　1 月　12 日

御所属　　鳥取大学医学部脳神経内科

氏　名　　中島　健二

総合評価
☑ 良い ☐ 一部問題や不十分な点がある ☐ 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある ☐ その他 ［　　］
評価できる点
1. 4 大学がそれぞれ積極的に参画し、デメンシアカンファレンスなども活発に開催されている。 2. 履修者募集に対し、多数の受講生の参加が得られている。 3. 1 県（施設）に集中しているのではなく、各県（施設）とも履修者が確保され、各施設で活発に活動されている点が評価できる。 4. 多数の講演・シンポジウムやカンファレンスなどが実施されている。 5. 順調に実施されていると判断する。
改善を期待する点
小生が資料を見落としているだけかもしれませんが、下記がどうかに関心を持ちました。 1. 大学院生（受講生）の評価をどのように行っているか。 2. 大学院生(受講生)からの本プログラムに対する評価や要望も聞いてみたい。 3. 座学以外の実際の診察などの実習をどのように指導しているか。

＊記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。

＊平成 28 年 1 月 25 日（月）までに、e-mail にてご提出くださいますようお願いいたします。

〔提出先〕認プロ運営事務局　e-mail : ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　２０１６　年　1月２５日

御所属　　岡谷市民病院

氏　名　天野　直二

総合評価
■　良い □　一部問題や不十分な点がある □　全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある □　その他 ［　　］
評価できる点
①　予定された行事が着実に進められている。デメンシアカンファランス及びFD講演会、認知症地域連携・多職種ワークショップの開催、認知症チーム医療・ケアセミナー及びキャリアアップ支援セミナーの開催、認プロ市民公開講座、信州大学のＮＧＳＤとの合同セミナー等。１年間を通じて全体を見直すと、それぞれの内容が豊富であり、企画がしっかりしている。委員長の思いと熱意、認プロの趣旨、目的が全体によく伝わっている。また、信州大学との合同カンファランスについては文科省からの勧めもあったかと思うが、実に有意義な交流になっている。テーマは異なるが、それを超えて人事交流のきっかけになると考えられる。 ②　募集人員が４大学で２７名というのは目標の高い数字である。１年目で２１名が履修中であることは実に望ましい結果と評価できる。認知症専門医の育成に貢献している。 ③　E-learningについては、領域別の項目をみると、全体の内容が基本的には網羅されている。今後は各先生の作成したテキストを拝見できればその内容が評価できると思う。 ④　ぜひ国際シンポジウムを成功させてほしい。 ⑤　職種を超えて学習、研修できるのがとても良い。
改善を期待する点
①　院生を指導していく側の評価はできるが、習得する側がどのように評価されるかを検討すべき時期にあると思う。すでに考えておられると思うが、その点の評価の手順、評価表があれば全体にある程度の統一が出てくるか。

＊記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。
＊平成 28 年 1 月 25 日（月）までに、e-mail にてご提出くださいますようお願いいたします。
〔提出先〕認プロ運営事務局　e-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　平成 28 年　1 月　13 日

所　属　おきの内科医院

氏　名　沖野　惣一

総合評価
■　良い □　一部問題や不十分な点がある □　全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある □　その他 ［　　］
評価できる点
・e-learning の内容が充実している. ・毎月のデメンシアカンファレンスと隔月以上の頻度で FD 講演会が実施され，ICT を利用した遠隔テレビ会議システムで多施設からの参加者がある. ・多職種・地域連携を重視した「認知症チーム医療・ケアセミナー」が企画された. ・「キャリアアップ支援セミナー」という目新しい観点の企画があった. ・シンポジウムの内容が，基礎から臨床・社会的問題まで網羅されていた.
改善を期待する点
・e-learning の講師の顔が見えない．終始スライドだけではなく，最初と最後くらいは直接話をする顔が見えた方が親近感をもてるのではないかと感じます. ・デメンシアカンファレンスの要約や質疑等を web site でみることができると，参加できなかった受講者・関係者にとっても有用だと思います. ・認プロについて，脳神経関係以外の臨床医や研修医，学生にも広く認知してもらえるような広報活動を進め，受講者の増加につなげていただきたい.

＊記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。

＊平成 28 年 1 月 25 日（月）までに、e-mail にてご提出くださいますようお願いいたします。

〔提出先〕認プロ運営事務局　e-mail : ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日 2016 年 1 月 25 日

御所属　　NHK エデュケーショナル

氏　名　　矢島　ゆき子

総合評価
□ (良い) □　一部問題や不十分な点がある □　全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある □　その他 ［　　］
評価できる点
●1 年間にわたり、本当に様々な活動を積み重ねられてきたことがよくわかり、ご苦労なことも多々あったと思います。 ●e-learning など具体的な進捗状況がわかりました。 ●e-learning を実際拝見しました。整理され、時間のあるときにいつでも受講できる便利さがあるとあらためて思いました。 e-learning の受講者の数は少ないようにも思われ、少し残念でした。講義内容についても拝見しましたが、きちんと制作され続けるのでしたら、将来、北陸に限らず、全国で使ってもらえるようなものになればとあらためて思いました。
改善を期待する点
●教育コースの受講者・イベント参加者などの感想などがわかれば、次年度への改善点などがさらに具体的にわかるかもしれないと思いました。(人材養成という意味で様々な活動があるのはとても有意義だと思いますが、その一方で、どのぐらいの活動が必要なのかがよくわかりませんでした。) ●教務関係で、教育コースの履修者が、コースによっては定員より少なかったのは意外な感じがしました。希望者が少なかったということなのでしょうか？

＊記入欄が不足する場合は、本様式の行を適宜増やしてください。

＊平成 28 年 1 月 25 日（月）までに、e-mail にてご提出くださいますようお願いいたします。

〔提出先〕認プロ運営事務局　e-mail : ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

Ⅳ. 参　考　資　料

Ⅳ. 参考資料

資料１　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ
（平成２６年１１月１日）

資料２　事業推進委員会委員名簿（平成２８年２月１日現在）

資料３　教務委員会委員名簿（平成２８年２月１日現在）

資料４　運営協議会委員名簿（平成２８年２月１日現在）

資料５　「平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」及び工程表
（平成２７年２月２０日）

資料６　平成２７年度大学改革推進等補助金「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の交付内定通知（平成２７年３月３０日）

資料７　平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）交付申請書
（平成２７年６月１８日）

資料８　「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」交付決定通知書（平成２７年１０月６日）

資料９　第１回事業推進委員会議事概要（平成２７年７月９日）

資料１０　第２回事業推進委員会議事概要（平成２８年２月７日）

資料１１　第１回教務委員会議事概要（平成２７年１０月９日）

資料１２　平成２７年度運営協議会議事概要（平成２７年３月２２日）

資料１３　認プロ e-learning 授業科目シラバス

資料１４　デメンシアカンファレンス（ＤＣ）の運営手順（平成２７年３月３１日）

資料１５　平成２７年度　デメンシアカンファレンス
（平成２７年４月２８日～平成２８年３月１５）

資料１６　平成２７年度　認プロＦＤ講演会（平成２７年５月１８日～平成２８年２月１７日）

資料１７　キャリアアップ支援セミナー（平成２７年１０月１３日）

資料１８　認知症チーム医療・ケアセミナー（平成２７年１１月２０日）

資料１９　認プロ第２回シンポジウム　プログラム・ポスター・抄録抜粋・新聞記事
（平成２７年１２月１２日）

資料２０　認プロ第２回市民公開講座　ポスター・新聞記事（平成２７年１１月２２日）

資料２１　「ＮＧＳＤプロジェクト・認プロ」合同フォーラム（平成２７年５月１６日）

資料２２　「第三の道：医療革新を専門とする医師の養成　第３回シンポジウム」の共催
（平成２７年１１月１２日）

資料２３　平成２８年度教育コース履修者募集要項（平成２８年３月）

北陸認知症プロフェショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ

（趣旨）

第１条　この申合せは，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン共同事業協定書第４条の規定に基づき，金沢大学，富山大学，福井大学及び金沢医科大学（以下，「構成大学」という。）において，北陸認知症プロフェショナル医養成プラン（以下「北陸認プロ」という。）の運営組織に関し，必要な事項を定める。

（北陸認プロ事業推進委員会）

第２条　構成大学間で北陸認プロの事業を運営するため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業推進委員会（以下「事業推進委員会」という。）を置く。

２　事業推進委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）北陸認プロの基本方針及び実施に関する事項

（２）北陸認プロの予算及び決算に関する事項

（３）北陸認プロの外部評価に関する事項

（４）その他北陸認プロの運営に関する必要な事項

３　事業推進委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）事業推進責任者（金沢大学医薬保健学域長）

（２）プロジェクトリーダー

（３）金沢大学各関連講座が選出する責任者

（４）富山大学各関連講座が選出する責任者

（５）福井大学各関連講座が選出する責任者

（６）金沢医科大学各関連講座が選出する責任者

（７）その他事業推進委員会が必要と認めた者

４　事業推進委員会に委員長を置き，プロジェクトリーダーをもって充てる。

５　事業推進委員会は，委員（海外渡航者及び休職者を除く。）の過半数が出欠しなければ，会議を開き，議決することができない。

６　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは委員長の決するところによる。

７　事業推進委員会は，必要あると認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。

（北陸認プロ教務委員会）

第３条　事業推進委員会の下に，構成大学間で北陸認プロの教育コースを実施するため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン教務委員会（以下「教務委員会」という。）を置く。

２　教務委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
（１）教育コースの開発・編成並びに募集・登録に係る企画及び立案，調整に関する事項
（２）教育コースの修了認定に関する事項
（３）市民公開講座及びシンポジウムの企画及び実施に関する事項
（４）ｅラーニングの企画及び実施に関する事項
（５）FD の企画及び実施に関する事項
（６）4 大学合同症例カンファレンスの企画及び実施に関する事項
（７）広報（ホームページを含む）に関する事項
（８）その他北陸認プロの教育コースの実施に関する必要な事項
３　教務委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）プロジェクトリーダー
（２）金沢大学各関連講座が選出する教務担当者
（３）富山大学各関連講座が選出する教務担当者
（４）福井大学各関連講座が選出する教務担当者
（５）金沢医科大学各関連講座が選出する教務担当者
（６）各構成大学が推薦する関連地域医療機関からの委員
（７）その他教務委員会が必要と認めた者
４　教務委員会に委員長を置き，プロジェクトリーダーをもって充てる。
５　教務委員会は，委員（海外渡航者及び休職者を除く。）の過半数が出欠しなければ，会議を開き，議決することができない。
６　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは委員長の決するところによる。
７　教務委員会は，必要あると認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。

（北陸認プロ運営協議会）
第５条　北陸認プロの事業を実施するにあたり関係団体からの意見を求めるため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。
２　運営協議会は事業推進委員会に指導，助言等を行うことができる。
３　運営協議会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（１）事業推進代表者（金沢大学長）
（２）第２条第３項第１号から第６号までに規定する者
（３）各大学が推薦する関連地域医療機関からの委員
（４）石川県医師会から推薦された委員
（５）富山県医師会から推薦された委員

（６）福井県医師会から推薦された委員
（７）石川県健康福祉部から推薦された委員
（８）富山県厚生部から推薦された委員
（９）福井県健康福祉部から推薦された委員
（10）その他運営協議会が必要と認めた者
４　運営協議会に委員長を置き，プロジェクトリーダーをもって充てる。

（北陸認プロアドバイザリーボード）
第３条　北陸認プロの事業に対する外部評価を行うため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プランアドバイザリーボード（以下「アドバイザリーボード」という。）を置く。
２　アドバイザリーボードは，外部の委員（認知症の専門家の立場，地域医療連携の立場，国民一般の立場等）若干名をもって組織する。
３　アドバイザリーボードに委員長を置き，委員の互選をもって充てる。
４　アドバイザリーボードは，原則として年１回北陸認プロの成果報告に基づき評価を行い，外部評価結果を作成する。
５　アドバイザリーボードの委員は事業推進責任者である金沢大学医薬保健学域長が委嘱する。

（北陸認プロ運営事務局）
第６条　金沢大学に北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営事務局（以下，「事務局」という。）を置く。
２　事務局は，北陸認プロの事業を行うために，構成大学間の調整を行う。
３　事務局は，金沢大学医薬保健系事務部学生課が中心となり，関係大学及び金沢大学医薬保健系事務部関係各課が協力するものとする。

（雑則）
第７条　この申合せに定めるもののほか，北陸認プロの運営に関し，必要な事項は，別に定める。

附　則
この申合せは，平成２６年１１月１日に施行する。

課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
事業推進委員会　委員名簿

	氏　名	所　　属
1	井関　尚一	金沢大学医薬保健学域長
2	山田　正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 教授
3	三邉　義雄	金沢大学大学院脳情報病態学 教授
4	鈴木　道雄	富山大学大学院神経精神医学 教授
5	田中 耕太郎	富山大学附属病院神経内科 教授
6	和田　有司	福井大学医学部附属病院 病院長
7	濱野　忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学（２） 准教授
8	森本　茂人	金沢医科大学高齢医学 教授
9	川﨑　康弘	金沢医科大学精神神経科学 教授
10	松井　真	金沢医科大学神経内科学 教授

平成２８年２月１日現在

【資料３】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教務委員会　委員名簿

	氏　名	所　属
1	山田　正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学　教授
2	濵口　毅	金沢大学附属病院神経内科　講師
3	坂井　健二	金沢大学附属病院神経内科　助教
4	池田　篤平	金沢大学附属病院神経内科　特任助教
5	篠原　もえ子	金沢大学大学院脳老化・神経病態学　助教
6	小松　潤史	金沢大学大学院脳老化・神経病態学　特任助教
7	橋本　隆紀	金沢大学大学院脳情報病態学　准教授
8	長澤　達也	金沢大学附属病院神経科精神科　講師
9	戸田　重誠	金沢大学附属病院神経科精神科　講師
10	高橋　努	富山大学大学院神経精神医学講座　准教授
11	高嶋　修太郎	富山大学附属病院神経内科　准教授
12	濱野　忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学（2）　准教授
13	山村　修	福井大学医学部地域医療推進　講師
14	林　浩嗣	福井大学医学部附属病院第2内科　助教
15	東間　正人	福井大学医学部病態制御医学精神医学　准教授
16	田中　悠二	福井大学医学部病態制御医学精神医学　助教
17	上野　幹二	福井大学医学部病態制御医学精神医学　助教
18	大黒　正志	金沢医科大学高齢医学　准教授
19	富岳　亮	金沢医科大学神経内科学　准教授
20	上原　隆	金沢医科大学精神神経科学　准教授
21	駒井　清暢	国立病院機構医王病院　副院長
22	石田　千穂	国立病院機構医王病院　臨床研究部　部長
23	北村　立	石川県立高松病院　院長
24	島崎　正夫	医療法人社団和敬会谷野呉山病院　診療部長
25	葛野　洋一	医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院　院長
26	細川　宗仁	国立病院機構北陸病院　医長
27	市川　俊介	国立病院機構北陸病院　医長
28	池田　真由美	国立病院機構北陸病院　医長
29	伊藤　達彦	福井県立すこやかシルバー病院　院長
30	村田　憲治	福井県立すこやかシルバー病院　医長

平成28年2月1日現在

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　運営協議会委員名簿

	氏　名	所　属
1	山崎　光悦	金沢大学　学長
2	井関　尚一	金沢大学医薬保健学域長
3	山田　正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学　教授
4	三邉　義雄	金沢大学大学院脳情報病態学　教授
5	鈴木　道雄	富山大学大学院神経精神医学　教授
6	田中 耕太郎	富山大学附属病院神経内科　教授
7	和田　有司	福井大学医学部附属病院　病院長
8	濱野　忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学(2)　准教授
9	森本　茂人	金沢医科大学高齢医学　教授
10	川﨑　康弘	金沢医科大学精神神経科学　教授
11	松井　真	金沢医科大学神経内科　教授
12	駒井　清暢	国立病院機構医王病院　副院長
13	北村　立	石川県立高松病院　院長
14	石倉　直美	医療法人社団和敬会谷野呉山病院　精神保健福祉士
15	葛野　洋一	医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院　院長
16	坂本　宏	国立病院機構北陸病院　院長
17	伊藤　達彦	福井県立すこやかシルバー病院　院長
18	菊地　修一	石川県健康福祉部　次長
19	井内　努	富山県厚生部　部長
20	長谷川　雅人	福井県健康福祉部　企画幹
21	洞庭　賢一	公益社団法人石川県医師会　理事
22	池端　幸彦	一般社団法人福井県医師会　副会長
23	渡辺　多恵	公益社団法人富山県医師会　理事 小矢部大家病院　院長

平成28年2月1日現在

【資料 5】

平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書

本調書は、平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）の交付（内定）を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、プログラムの申請書等の記載事項との整合性にも留意して記載して下さい。

１．大学名／設置者名	金沢大学　／　国立大学法人金沢大学 （富山大学、福井大学、金沢医科大学）
２．プログラム名	課題解決型高度医療人材養成プログラム
３．取組名称	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
４．選定年度	平成２６年度
５．事業推進代表者／ 事業推進責任者	（所属部局・職名・氏名） 事業推進代表者　学長　　山崎　光悦 事業推進責任者　医薬保健学域・研究域　域長　井関　尚一
６．事務担当者 内容等の問い合わせに適切に応対できる事務担当の方で、主担当、副担当を必ず１名ずつ記載して下さい。	主担当 （所属部局・職名・氏名） 医薬保健系事務部　学生課長　北村　浩一 ＴＥＬ　０７６－２６５－２１２６ ＦＡＸ　０７６－２３４－４０１６ E-mail　t-igaku1@adm.kanazawa-u.ac.jp
	副担当 医薬保健系事務部　学生課専門職員　穴倉　千恵 ＴＥＬ　０７６－２６５－２１２１ ＦＡＸ　０７６－２３４－４２０８ E-mail　t-igaku1@adm.kanazawa-u.ac.jp

７．選定取組の概要（４００字以内）

本事業は、特に高齢化が進む北陸地域におけるハイレベルの認知症専門医師の育成を推進する取り組みである。このプランは、北陸の医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施する。①本科コースを中心に、②インテンシブ研修コース、③スペシャル研修コース、及び④スーパーコースからなる。本科コースでは、高度の知識・技能と臨床研究力を有する認知症チーム医療リーダー医師養成、研修コースでは、地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修（インテンシブ）と認知症・神経難病の臨床・病理研修や地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修（スペシャル）、スーパーコースでは、卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成を行う。

８．補助事業の目的・必要性は、（別紙１）へ記載して下さい。

９．具体的な事業内容は、（別紙１）へ記載して下さい。

１０．本年度の補助事業実施計画は、（別紙１）へ記載して下さい。

１１．補助対象経費の明細は（別紙２）へ記載して下さい。

１２．設備備品費補足表は（別紙３）へ記載して下さい。

１３．平成２７年度 大学改革推進等補助金の配分予定　（※共同事業の場合に記載して下さい。）

（単位：千円）

大学名	申請額	補助金額		自己負担額
			うち共通分	
金沢大学	28,970	28,970	13,300	0
富山大学	3,000	3,000	0	0
福井大学	6,000	6,000	0	0
金沢医科大学	3,000	3,000	0	0
計	40,970	40,970	13,300	0

※補助金額欄の「うち共通分」には、連携校を含めて共有される経費分を計上すること。

１４．各年度の補助対象経費

（単位：千円）

年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
補助対象経費の総額(①+②)	40,970	50,000	50,000	50,000
補助金申請予定額(①)	40,970	50,000	50,000	50,000
自己収入等予定額(②)	0	0	0	0

１５．参考資料

平成２８年度以降の補助事業実施計画（事業のスケジュールについて、【１０．本年度の補助事業実施計画】と同様に記載）を記載してください。

【平成２８年度】

① ４月　４月期教育コース履修者の受け入れ
② ４月　デメンシアカンファレンスの開催（毎月）
③ ５月　ＦＤ講演会の開催（年４回以上）（各大学が各１回以上開催する。）
④ ６月　事業推進委員会・意見交換会の開催（事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議）
⑤ ９月　教務委員会の開催
⑥ ９月　キャリア支援セミナーの開催
⑦１０月　１０月期教育コース履修者の受け入れ
⑧１０月　医療スタッフセミナーの開催
⑨１０月　市民公開講座の開催
⑩１１月　IPE ワークショップの開催
⑪１１月　内部評価（中間）の実施
⑫１１月　シンポジウムの開催
⑬ ２月　外部評価（中間）の実施
⑭ ２月　平成２９年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施
⑮ ３月　アドバイザリーボードの開催
⑯ ３月　運営協議会の開催

【平成２９年度】

① ４月　４月期教育コース履修者の受け入れ

② ４月　デメンシアカンファレンスの開催（毎月）
③ ５月　ＦＤ講演会の開催（年４回以上）（各大学が各１回以上開催する。）
④ ６月　事業推進委員会・意見交換会の開催（事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議）
⑤ ９月　教務委員会の開催
⑥ ９月　キャリア支援セミナーの開催
⑦１０月　１０月期教育コース履修者の受け入れ
⑧１０月　医療スタッフセミナーの開催
⑨１０月　国際シンポジウムの開催
⑩１１月　IPE ワークショップの開催
⑪１１月　内部評価の実施
⑫１１月　市民公開講座の開催
⑬１２月　シンポジウムの開催
⑭ ２月　外部評価の実施
⑮ ２月　平成３０年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施
⑯ ３月　アドバイザリーボード開催
⑰ ３月　運営協議会の開催

【平成３０年度】
① ４月　４月期教育コース履修者の受け入れ
② ４月　デメンシアカンファレンスの開催（毎月）
③ ５月　ＦＤ講演会の開催（年４回以上）（各大学が各１回以上開催する。）
④ ６月　事業推進委員会・意見交換会の開催（事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議）
⑤ ９月　教務委員会の開催
⑥１０月　キャリア支援セミナーの開催
⑦１０月　１０月期教育コース履修者の受け入れ
⑧１０月　医療スタッフセミナーの開催
⑨１０月　市民公開講座の開催
⑩１１月　IPE ワークショップの開催
⑪１１月　内部評価（最終）の実施
⑫１１月　シンポジウムの開催
⑬ ２月　外部評価（最終）の実施
⑭ ２月　第１期生の学位審査・プログラム認定審査の実施
⑮ ２月　平成３１年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施
⑯ ３月　アドバイザリーボードの開催
⑰ ３月　運営協議会の開催
⑱ ３月　事業成果報告会の開催

【平成３１年度】（財政支援期間終了後）
① ４月　４月期教育コース履修者の受け入れ
② ４月　デメンシアカンファレンスの開催（毎月）
③ ６月　事業推進委員会・意見交換会の開催（事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議）
④ ９月　教務委員会の開催
⑤１０月　１０月期教育コース履修者の受け入れ
⑥ ２月　第２期生の学位審査・プログラム認定審査の実施
⑦ ２月　平成３２年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施
⑧ ３月　運営協議会の開催

8. 補助事業の目的・必要性

総論

（1）全体

我が国の認知症者数は、高齢化を背景に急増している。これまで行ってきた北陸のモデル地域における悉皆調査では、認知症あるいは軽度認知障害を有する人は65歳以上の高齢者の約3割に及んでいる。認知症専門医数は人口10万人あたり0．7名に過ぎず、認知症専門医資格を得るための十分な研修環境も整っていない施設が多数存在する。すなわち、地域で認知症チーム医療のリーダーとして活躍できるハイレベルの専門医師を養成するという社会的ニーズに、質、量ともに対応できていない。本補助事業の目的は、特に高齢化が進む北陸地域におけるハイレベルの認知症専門医師の育成を推進し、当該地域における認知症診療の向上に資するため、北陸4医科系大学のネットワークを中心に、北陸地域の認知症・神経難病専門医療機関、全国各地の地域拠点医療機関、研究機関、自治体、民間企業等との連携をもとに認知症に関して世界水準の知識や技能を有し、地域における認知症診療・認知症対策のリーダーとなる認知症プロフェッショナル医師の育成を推進し、北陸地域における認知症診療の向上、充実化を図る。

（2）本年度

本年度は、昨年度より立ち上げた本プログラムの一層の充実化を図る。具体的には、まず、認プロ・事業推進委員会を開催し、今後の事業計画、アクションプラン等を協議する。また、教育コース第一期生の受け入れを開始、各教育コース、e-learning教材の提供を開始、テレビ会議システムを使用したデメンシアカンファレンスを毎月開催する。平成28年度コースの学生募集を行い、第2期志願者書類審査及び面接試験を行う。平成27年5月にはテレビ会議システムを使用したFD講演会、平成28年11月にはテレビ会議システムを使用したキャリア支援セミナー、11月に市民公開講座、12月には日本神経精神医学会とのジョイントシンポジウムを開催する。平成28年3月には運営協議会、アドバイザリーボードを開催し、本プログラムのPDCAサイクルによる継続的な取組の円滑な運営を図る。

9. 具体的な事業内容

① 本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人を教育コース履修者として受け入れる。

② 大学院生等の自学自習を可能とするため、主たる講義科目についてe-learning教材の提供を行う。

③ エキスパート医師によるテレビ会議システムを使用したデメンシアカンファレンスを行う。認知症に関しての知識や技能を高めること、さらに、4大学及び関連地域医療機関の密な連携を図る。

④ 講師を招きFD講演会を開催する。（年4回以上）（各大学が各1回以上開催する。）

⑤ 事業推進委員会・意見交換会を開催し，事業計画を協議し、プログラムの編成を行うと同時に、他大学の進捗状況を把握し、問題点などの解決に努める。事業の実施体制の検討調整を行う。

⑥ 教務委員会を開催し，平成28年度教育コースの学生募集等について協議を行う。

⑦ 本科コース・インテンシブ研修コース・スペシャル研修コース・スーパーコースの10月期教育コース履修者を受け入れる。

⑧ 教育、臨床実地修練計画立案のため、学術調査（国内）を行う。

⑨ 市民公開講座を開催し、認知症治療についての現況紹介や、本プログラムの取り組みを紹介し、認知症に関する講演などを通じて、認知症への正しい理解が得られるよう啓発を行う。（福井大学が主催する。）

⑩ 認知症診療に関心のある医師のキャリア支援を図るためキャリア支援セミナーを開催する。

⑪ 認知症の理解を深めるため、神経精神医学会とのジョイントシンポジウムを開催し、エキスパート医師による最新のトピックスについて講演を行う。

⑫ 履修者募集のため、履修者募集要項・ポスターを作成し、説明会を開催する。志願者の選考を行い平成28年度教育コース履修者を決定する。

⑬ 第2回アドバイザリーボードを開催し，本年度事業の達成状況の外部評価、助言を得て、次年度以降の事業に反映させる。

⑭ 本年度事業の成果や実施体制について報告し、連携大学、関連地域医療機関、研究機関、自治体と連携する。

10. 本年度の補助事業実施計画

① 4月 4月期教育コース履修者の受け入れ
② 4月 eラーニング教材提供開始
③ 4月 デメンシアカンファレンスの開催（毎月）
④ 5月 FD講演会の開催（年4回以上）（各大学が各1回以上開催する。）
⑤ 6月 事業推進委員会・意見交換会の開催（事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議）
⑥ 9月 教務委員会の開催
⑦ 10月 10月期教育コース履修者の受け入れ
⑧ 10月 教育・臨床実地修練計画のための学術調査（国内）の実施
⑨ 11月 市民公開講座の開催（福井大学が主催）
⑩ 11月 キャリア支援セミナーの開催
⑪ 12月 ジョイントシンポジウムの開催
⑫ 2月 平成28年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施
⑬ 3月 アドバイザリーボードの開催
⑭ 3月 運営協議会の開催

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	**金沢大学**
連携大学名	**富山大学、福井大学、金沢医科大学**
事業名	**北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン**

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	本プランでは、①認知症チーム医療のリーダーとして活躍できる認知症専門医師の養成②地域医療に貢献できる地域認知症専門医師等の養成③国際的視野を持ち認知症に関する新たな診断・治療法などの開発研究等を担う、高度な研究能力を有するスーパープロフェッショナル医の養成を目標としている。 高齢化が進む北陸地域で北陸4医科系大学及び地域の認知症・神経難病専門医療機関、研究機関、自治体、民間企業等との連携をもとに、北陸地域における認知症診療の向上、充実化を図る。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス（投入、入力、活動、行動）	**定量的なもの**	・事業推進準備委員会、意見交換会開催（1回） ・運営組織設置（事業推進委員会10人、運営協議会24人、教務委員会31人、アドバイザリーボード4人） ・教務委員会開催（1回） ・運営協議会開催(1回) ・第1期大学院生選考・社会人コース受講者選考（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第1期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第2期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第3期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第4期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）
	定性的なもの	・事業計画、アクションプラン協議 ・特任教員の採用 ・金沢大学及び各連携大学に認プロ事務局を設置 ・関連地域医療機関へテレビ会議システム導入、ネットワーク環境の整備 ・平成27年度教育コースの学生募集	・事業計画、アクションプラン等協議 ・平成28年度コースの学生募集	・事業計画、アクションプラン等協議 ・平成29年度コースの学生募集	・事業計画、アクションプラン等協議 ・平成30年度コースの学生募集	・事業継続の検討、継続体制整備 ・平成31年度コースの学生募集
アウトプット（結果、出力）	**定量的なもの**	・キックオフ市民公開講座開催(1回) ・キックオフシンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1回)	・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催（1−2回） ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催（4回） ・国際セミナー開催/講演（1回） ・医療スタッフセミナー(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）	・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1−2回) ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催（4回） ・医療スタッフセミナー(1回) ・IPEワークショップ開催(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）	・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1−2回) ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催（4回） ・国際シンポジウム開催（1回） ・医療スタッフセミナー(1回) ・IPEワークショップ開催(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）	・事業成果報告会開催（1回） ・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1−2回) ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催（4回） ・医療スタッフセミナー(1回) ・IPEワークショップ開催(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）
	定性的なもの	・事業共同実施協定書締結 ・ホームページ公開 ・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・教育コース、e−learning講義内容の決定、作成 ・各教育コース関連規定等整備 ・連携大学及び関連地域医療機関との連携及び情報ネットワーク構築 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信	・第2期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・e−learning講義作成、完成	・第3期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・新規教育科目の考案、e−learning講義内容の改変	・第4期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・新規教育科目の考案、e−learning講義内容の改変	・第5期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・第１期生の学位審査・プログラム認定審査 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・新規教育科目の考案、e−learning講義内容の改変

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
アウトカム（成果、効果）	定量的なもの			・第1期インテンシブコース修了者（修了者見込、金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人） ・第1期スペシャル研修コース（修了者見込、金大4人）	・第2期インテンシブコース修了者（修了者見込、金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人） ・第1期スペシャル研修コース（修了者見込、金大4人）	第1期本科コース修了者（金沢大3人、富山大1人、福井大2人、金沢医科大3人） ・第3期インテンシブコース修了者（修了者見込金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人） ・第3期スペシャル研修コース（修了者見込、金沢大4人）
	定性的なもの	・教育コースの構築 ・連携大学及び関連地域医療機関の連携強化 ・本プランの周知 ・内部評価、外部評価を基にした検討、改善	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの周知 ・入学希望者の確保 ・チーム医療のリーダーの養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の養成 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の養成 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの周知 ・入学希望者の増加 ・チーム医療のリーダーの養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の養成 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の養成 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの周知 ・入学希望者の増加 ・チーム医療のリーダーの養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の養成 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の養成 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの継続基盤確保 ・本プランの周知 ・入学希望者の確保 ・チーム医療のリーダーの輩出 ・地域医療に貢献できる専門医師の輩出 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の輩出 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に繋がる取組や体制を構築すること。	PDCAサイクルを確実に推進するため、内部評価組織として運営協議会、外部評価組織としてアドバイザリーボードを設置、アウトプット、アウトカムを年度ごとに示し到達度の評価を受けて事業推進委員会が工程管理を行う。学生受入後は、教務委員会、アドバイザリーボードが中心となりプログラムの達成状況把握や評価・点検を実施し、次年度以降の事業に反映させる。教育コースは地域における認知症フィールド研修から、認知症の症侯学、最先端の検査法を含む診断学、分子病態・神経病理学、治療・予防学の研鑽、さらに新規診断法、予防・治療薬の開発研究法の習得に至るまで幅広い領域を包含し大学や地域医療機関に所属する各専門領域のエキスパートスタッフが認知症の臨床、基礎、研究について指導研修を展開する。また、本プランの教育コース履修者を含めた認知症関連医師のキャリアパス形成を支援するためセミナーを開催する。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	金沢大学学長を事業推進代表者，医薬保健学域長を事業推進責任者に置き、各連携大学、関連地域医療機関からの選出者等で構成する事業推進委員会、運営協議会、教務委員会を設置。また、認知症における有識者（認知症専門家の立場，かかりつけ医の立場，国民一般の立場）で構成するアドバイザリーボードを設けた。連携大学、関連地域医療機関、研究機関、自治体、民間企業等と密接に連携し、本プランを推進、実施していく。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	4大学連携により開講する授業科目を北陸地域の認知症教育のコンソーシアムの一環として位置づけ、予算、組織、人員の継続維持を計りながらプラン終了後も教育モデルとなるよう改善・発展させていく。地域社会への情報発信としては、市民公開講座や、医療従事者を対象にしたシンポジウムを開催し、認知症への理解と本プランの周知を図る。ホームページでは、本プランの活動や成果を継続的に発信していく。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント（改善を要する点、留意事項）	対応方針
認知症に関する臨床研究の推進や、社会医学的な面でのプログラムはやや具体性に乏しいのではないか。	認知症の臨床研修について直接指導する。
大学院コースにおける養成対象について、医師、看護師、その他の区別が不明な箇所がある。	本プランの大学院生コースにおける養成対象は医師のみとし、現段階では看護師、介護士等を対象としていないが、将来的には看護師、介護士も含めたプログラムに発展させていく。
キャリア教育・キャリア形成支援の欄が空欄であるが、事業を展開する上で履修者のキャリアパス支援は非常に重要であることから、検討いただきたい。	キャリア支援セミナーを開催し，本プランの教育コース履修者を含めた認知症関連医師のキャリアパス支援を行う。
認知症専門医のみでなく、認知症を理解するコメディカルの育成も必要と思われることから可能な範囲で検討いただきたい。	本プランの教育コースにおける養成対象は医師のみとし、現段階ではコメディカルを対象としていないが、コメディカルとの連携・育成も視野に入れたシンポジウムやセミナーも企画していく。さらに今後はコメディカル（看護師、介護士、保健師等）の育成も含めたプログラムに発展させていく。

⑤ 本事業ホームページURL（※ 提出時点でホームページが作成できていない場合は、作成見込年月を記入するとともに、完成次第URLのご連絡をお願いします。）

当該事業ホームページURL	http://ninpro.jp

【資料６】

26 文科高第 1049 号
平成 27 年 3 月 30 日

国立大学法人金沢大学長　殿

文部科学省高等教育局長
吉　田　大　輔

平成 27 年度大学改革推進等補助金「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の
交付内定について（通知）

標記のことについて、下記のとおり補助金の額を内定したので通知します。

ついては、「大学改革推進等補助金交付要綱（平成 17 年 4 月 1 日文部科学大臣決定）」等に従って、交付申請書等関係書類を作成し、文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室へ提出願います。

本補助金については、「補助金等にかかる予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）」等の適用を受けますので、補助金の取扱いについて遺漏のないようお願いします。

なお、平成27年度事業については、平成27年4月1日より事業を開始し、必要な契約等を行っていただいて差し支えありませんが、本内定通知は平成27年度本事業の予算の成立を前提としているため、予算が成立しなければ失効することとなり、各大学等で執行済みの費用を国費で負担することはできなくなることをあらかじめ御留意願います（予算が成立しない場合、上記の交付申請書等関係書類を提出いただく必要はありません。）。

また、交付決定額については、平成27年度予算成立後に予算の範囲内において決定するため、交付内定額と異なる場合があります。

なお、予算成立後の補助金の振り込み時期は６月以降を予定しているため、必要な経費は、補助金受領後に支出するか、大学等が立て替えて補助金受領後に精算してください。

記

事　業　名　称	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
補助対象経費の総額	40,970,000 円
補助金交付内定額	40,970,000 円

≪提出先≫
文部科学省高等教育局医学教育課
大学病院支援室　病院第二係
〒100-8959　東京都千代田区霞が関 3-2-2
TEL:03-6734-2578（直通）　FAX:03-6734-3390
E-mail：igabyoin@mext.go.jp

様式1（第4条関係）

〔別紙様式（三―一）〕

平成 27 年 6 月 18 日

文部科学大臣 殿

大学等の設置者	
（名 称）	国立大学法人金沢大学
（所在地）	石川県金沢市角間町ヌ7
（代表者氏名）	学長 山崎 光悦 （記名押印又は署名）
大学等名	金沢大学

平成27年度 大学改革推進等補助金
（大学改革推進事業） 交付申請書

大学改革推進等補助金交付要綱第4条第1項の規定により、次のとおり大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）の交付を申請します。

整理番号			
プログラム名称・選定年度	課題解決型高度医療人材養成プログラム		平成26年度
事業名称	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン		
国庫補助金交付申請額	40,970,000 円		
補助事業の目的・内容等	別紙のとおり		
補助事業の完了予定日	平成28年3月31日		
事業推進担当者	氏名	所属・職名	
事業推進代表者	山崎 光悦	学長	
事業推進責任者	井関 尚一	医薬保健学域長	
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先（電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）	
三宅 康寛	医薬保健系事務部会計課 経理係長	TEL	076－265－2115
		FAX	076－234－4206
		E-mail	t-keiri@adm.kanazawa-u.ac.jp

様式1（第4条関係）

補助事業の目的・ 必要性

総論

（1）全体

我が国の認知症者数は、高齢化を背景に急増している。これまで行ってきた北陸のモデル地域における悉皆調査では、認知症あるいは軽度認知障害を有する人は65歳以上の高齢者の約3割に及んでいる。認知症専門医数は人口10万人あたり0．7名に過ぎず、認知症専門医資格を得るための十分な研修環境も整っていない施設が多数存在する。すなわち、地域で認知症チーム医療のリーダーとして活躍できるハイレベルの専門医師を養成するという社会的ニーズに、質、量ともに対応できていない。本補助事業の目的は、特に高齢化が進む北陸地域におけるハイレベルの認知症専門医師の育成を推進し、当該地域における認知症診療の向上に資するため、北陸4医科系大学のネットワークを中心に、北陸地域の認知症・神経難病専門医療機関、全国各地の地域拠点医療機関、研究機関、自治体、民間企業等との連携をもとに認知症に関して世界水準の知識や技能を有し、地域における認知症診療・認知症対策のリーダーとなる認知症プロフェッショナル医師の育成を推進し、北陸地域における認知症診療の向上、充実化を図る。

（2）本年度

本年度は、昨年度より立ち上げた本プログラムの一層の充実化を図る。具体的には、まず、認プロ・事業推進委員会を開催し、今後の事業計画、アクションプラン等を協議する。また、教育コース第一期生の受け入れを開始、各教育コース、e-learning教材の提供を開始、テレビ会議システムを使用したデメンシアカンファレンスを毎月開催する。平成28年度コースの学生募集を行い、第2期志願者書類審査及び面接試験を行う。平成27年5月にはテレビ会議システムを使用したFD講演会、平成28年11月にはテレビ会議システムを使用したキャリア支援セミナー、11月に市民公開講座、12月には日本神経精神医学会とのジョイントシンポジウムを開催する。平成28年3月には運営協議会、アドバイザリーボードを開催し、本プログラムのPDCAサイクルによる継続的な取組の円滑な運営を図る。

具体的な事業内容

① 本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人を教育コース履修者として受け入れる。
② 大学院生等の自学自習を可能とするため、主たる講義科目についてe-learning教材の提供を行う。
③ エキスパート医師によるテレビ会議システムを使用したデメンシアカンファレンスを行う。認知症に関しての知識や技能を高めること、さらに、4大学及び関連地域医療機関の密な連携を図る。
④ 講師を招きFD講演会を開催する。（年4回以上）（各大学が各1回以上開催する。）
⑤ 事業推進委員会・意見交換会を開催し、事業計画を協議し、プログラムの編成を行うと同時に、他大学の進捗状況を把握し、問題点などの解決に努める。事業の実施体制の検討調整を行う。
⑥ 教務委員会を開催し，平成28年度教育コースの学生募集等について協議を行う。
⑦ 本科コース・インテンシブ研修コース・スペシャル研修コース・スーパーコースの10月期教育コース履修者を受け入れる。
⑧ 教育、臨床実地修練計画立案のため、学術調査（国内）を行う。
⑨ 市民公開講座を開催し、認知症治療についての現況紹介や、本プログラムの取り組みを紹介し、認知症に関する講演などを通じて、認知症への正しい理解が得られるよう啓発を行う。（福井大学が主催する。）
⑩ 認知症診療に関心のある医師のキャリア支援を図るためキャリア支援セミナーを開催する。
⑪ 認知症の理解を深めるため、神経精神医学会とのジョイントシンポジウムを開催し、エキスパート医師による最新のトピックスについて講演を行う。
⑫ 履修者募集のため、履修者募集要項・ポスターを作成し、説明会を開催する。志願者の選考を行い平成28年度教育コース履修者を決定する。
⑬ 第2回アドバイザリーボードを開催し、本年度事業の達成状況の外部評価、助言を得て、次年度以降の事業に反映させる。
⑭ 本年度事業の成果や実施体制について報告し、連携大学、関連地域医療機関、研究機関、自治体と連携する。

本年度の補助事業実施計画

① 4月 4月期教育コース履修者の受け入れ
② 4月 eラーニング教材提供開始
③ 4月 デメンシアカンファレンスの開催（毎月）
④ 5月 FD講演会の開催（年4回以上）（各大学が各1回以上開催する。）
⑤ 6月 事業推進委員会・意見交換会の開催（事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議）
⑥ 9月 教務委員会の開催
⑦ 10月 10月期教育コース履修者の受け入れ
⑧ 10月 教育・臨床実地修練計画のための学術調査（国内）の実施
⑨ 11月 市民公開講座の開催（福井大学が主催）
⑩ 11月 キャリア支援セミナーの開催
⑪ 12月 ジョイントシンポジウムの開催
⑫ 2月 平成28年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施
⑬ 3月 アドバイザリーボードの開催
⑭ 3月 運営協議会の開催

27 受文科高第 897 号

平成 27 年度大学改革推進等補助金「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」交付決定通知書

国立大学法人金沢大学長　殿

さきに交付申請のありました平成 27 年度大学改革推進等補助金「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」については、大学改革推進等補助金交付要綱第 5 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

平成 27 年 10 月 6 日

文部科学大臣　　下 村 博 文

記

1．補助金の交付の対象となる事業名称は次のとおりであり、その内容は交付申請書に記載のとおりとする。

事　業　名　称：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

2．補助対象経費及び補助金の額は次のとおりであり、各補助対象経費の額は交付申請書記載のとおりとする。

補助対象経費の総額：　40,970 千円
補助金交付決定額：　40,970 千円

3．補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号。以下「適正化法」という。）、同法施行令（昭和 30 年政令第 255 号）及び大学改革推進等補助金交付要綱（平成 17 年 4 月 1 日文部科学大臣決定）に従わなければならない。また、その他関係法令を遵守すること。

4．補助条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。

（1）補助事業の実施期間は、交付申請書に記載された補助事業の完了予定日までとする。

（2）補助事業者は、補助事業を遂行するため契約を締結し支払を行う場合は、公正かつ最小の費用で最大の効果を挙げるように経費の効率的使用に努めなければならない。

（3）補助事業者が、この補助金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内で補助金の返還を命ずることがある。

（4）補助事業者が、取得財産等を処分することにより、収入があり、又は収入があると見込まれるときは、交付した補助金の全部又は一部に相当する金額を国に納付させることができる。

（5）補助事業者は、補助事業の実施に当たり、法令、通知及び各大学等で定められた規定等により、承認・届出・確認等が必要な場合は所定の手続きを行わなければならない。

5．この交付決定の内容又はこれに付した条件に不服があることにより、補助金交付の申請を取り下げようとするときは、平成27年10月20日（火）までにその旨を記載した書面を文部科学大臣に提出すること。

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
北陸認知症プロフェショナル医養成プラン
平成２７年度第１回事業推進委員会・議事概要

日時：平成２７年７月９日（木）　１８：００～１８：５０
場所：各大学のテレビ会議システム設置室

出席者：【金沢大学】井関尚一（事業推進責任者）、山田正仁（委員長）、
橋本隆紀（三邉義雄：代理）
【富山大学】鈴木道雄、田中耕太郎
【福井大学】東間正人(和田有司：代理)、濱野忠則
【金沢医科大学】森本茂人、川﨑康弘、松井　真
【北陸認プロ運営事務局】池田篤平、牧野敏雄、宮岸由貴
【金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学の事務部陪席者】

※議事に先立ち、井関委員（事業推進責任者）から開会の挨拶があった。

議題
１．平成２６年度事業実施成果の報告
山田委員長から、事項毎の説明は北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事務局担当が行う旨の説明があり、同担当から事前配付資料「平成２６年度　事業実施成果報告書」に基づき、平成２６年度における北陸認知症プロフェッショナル医養成プランの活動状況、事業実施成果について報告があった。

２．平成２７年度事業実施計画
（１）平成２７年度事業実施計画
山田委員長から、スライド資料３に基づき、昨年度２月に文部科学省へ提出済みの実施計画事項について説明があった。また、実施計画から漏れた「国際セミナー」について、今後、ＦＤ講演会等で外国人講師を招聘する計画がある場合は「国際セミナー」として実施していただきたいとの依頼があった。

（２）運営協議会等の委員の変更

山田委員長から、スライド資料４、５に基づき、平成２７年度の運営協議会及び教務委員会における委員の変更について、報告があった。また、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営事務局の担当変更も併せて紹介があった。

（３）教育コース履修者の募集と応募状況

山田委員長から、スライド資料６に基づき今年度４月時点での教育コース履修者数の報告があった。また、今後も引き続き募集を続け、履修者の増員を図る旨の説明があった。

（４）e-learning 教材の作成

山田委員長から、スライド資料７、８に基づき現時点での教材作成進捗状況について報告があった。また、教材作成を担当される教員にあっては、教材作成への対応について、よろしくお願いしたい旨の依頼があった。

（５）デメンシアカンファレンスの開催

山田委員長から、スライド資料９及び参考資料「デメンシアカンファレンスの運営手順」に基づき、デメンシアカンファレンスの実施状況と実施計画について説明があり、今後も同手順に従い実施するよう依頼があった。

（６）“ＮＧＳＤ”“認プロ”合同フォーラムの開催

山田委員長から、信州大学の「ＮＧＳＤプロジェクト」と合同フォーラムを開催するに至った経緯の説明があり、スライド資料１０に基づき開催の報告があった。

（７）ＦＤ講演会の開催

山田委員長から、スライド資料１１に基づき金沢大学担当のＦＤ講演会の実施報告があり、今後、各大学においても年度内に１回は計画的に実施されるよう依頼があった。

（８）教務委員会の開催

山田委員長から、スライド資料１２に基づき今秋開催予定の「教務委員会」について審議事項、テレビ会議システムの利用等について説明があり、協議の結果、委員会の実施について了承された。

（９）キャリアアップ支援セミナーの開催

山田委員長から、スライド資料１３に基づき開催趣旨について説明があり、協議の結果、原案どおりファイザー株式会社クリニカル・リサーチ統括部　藤本陽子部長を講師として招聘し実施することが了承された。

(10) 医療スタッフセミナーの開催

山田委員長から、スライド資料１４に基づき「デメンシアカンファレンス」と合同で「チーム医療・ケア　セミナー」を同時開催することについて説明があり、協議の結果、原案どおり実施することが了承された。

(11) 第２回認プロ市民公開講座（担当：福井大学）の開催

山田委員長から、スライド資料１５に基づき「第２回認プロ市民公開講座」について説明があった。また、福井大学から企画、構成等について質問があり、協議の結果、「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」の紹介を企画に盛り込むことを条件に、各担当大学が実施する市民公開講座の企画、構成等は担当大学に一任することが了承された。

(12) 第２回認プロシンポジウム（担当：金沢大学）の開催

山田委員長から、スライド資料１６に基づき「第２０回日本神経精神医学会」とのジョイント企画であることの説明があり、協議の結果、原案どおり開催することが了承された。また、各大学に対し参加ご協力の依頼があった。

(13) アドバイザリーボードによる外部評価

山田委員長から、スライド資料１７に基づき、今年度のアドバイザリーボードによる外部評価は、書面のみにより実施する予定である旨の説明があり、協議の結果、了承された。

(14) 運営協議会及び第２回事業推進委員会の開催

山田委員長から、スライド資料１８に基づき、アドバイザリーボードによる外部評価結果を踏まえ、運営協議会及び第２回事業推進委員会を開催し、２月下旬に文部科学省へ提出する予定の「平成２８年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書」の中の平成２８年度の事業実施計画に反映させたいとの説明があり、協議の結果、了承された。

以上

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
平成２７年度第２回事業推進委員会
議事概要

日時：平成 28 年 2 月 7 日（日）15:05～15:50
場所：ホテル金沢　２階　ダイヤモンドルームＢ

事業推進委員会委員
（出席）：井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長、認プロ 事業推進責任者）、山田 正仁（金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授、認プロ プロジェクトリーダー）、三邉 義雄（金沢大学大学院脳情報病態学 教授）、高嶋 修太郎（富山大学附属病院神経内科 診療教授、田中 耕太郎教授代理）、東間 正人（福井大学医学部病態制御医学精神医学 准教授、和田有司病院長代理）、濱野 忠則（福井大学医学部病態制御医学内科学（２） 准教授）、大黒 正志（金沢医科大学高齢医学 准教授、森本 茂人主任教授代理）、川﨑 康弘（金沢医科大学精神神経科学 主任教授）、
（欠席）：鈴木 道雄（富山大学大学院神経精神医学 教授）、松井 真（金沢医科大学神経内科学講座 主任教授）

事務局：池田 篤平（金沢大学附属病院神経内科 特任助教）、 池端 良伸（金沢大学医薬保健系事務部 学生課長）、穴倉 千恵（金沢大学医薬保健系事務部学生課 専門職員）、村崎 美紀（富山大学医薬系学務課 課長補佐）、長谷川 恵（福井大学 認プロ事務局）、杉原 一良（金沢医科大学 大学院担当 副部長）、牧野 敏雄（金沢大学 認プロ運営事務局）、宮岸 由貴（金沢大学 認プロ運営事務局）

１.開会の挨拶

山田正仁プロジェクトリーダーから開会の挨拶があった。

２.報告事項

①平成２７年度事業実施報告

山田正仁プロジェクトリーダーから、本事業推進委員会の出席委員は、全員が直前に行われた運営協議会に出席されており、説明を割愛する旨が伝えられた。

②アドバイザリーボードによる平成２７年度外部評価の結果

事務局から資料に基づき、書面により提出いただいたアドバイザリーボード４名による平成２７年度の外部評価について報告された。

③平成２７年度運営協議会からの意見

事務局から直前に行われた運営協議会において出された意見について、その概要が口頭により報告された。

３.審議事項

①平成２８年度事業計画の策定

a. アドバイザリーボードによる平成２７年度外部評価に対する対応

事務局から、アドバイザリーボードによる意見の７項目が示され、それぞれについて次のとおり意見交換された。

（１）教育コース履修者やイベント参加者の当プログラムに対する評価や感想

［中島委員］、［矢島委員］

【山田正仁プロジェクトリーダー】

アンケートを実施して、それを評価し、結果を出していく。

（２）e-learning 講義の講師の顔が見えず親近感がもてない　［沖野委員］

【山田正仁プロジェクトリーダー】

現在の e-learning は音声のみであるため、平成２７年度中に講師の顔写真を見せる形で少しでも講義の雰囲気を出したい。

【三邉義雄委員】

e-learning を収録する現場で直接受講できる機会を作ってはどうか。

【井関尚一委員】

毎年、講師の授業をリアルタイムで聴くのは難しいであろうが極力聴講してもらい、難しい時には自宅で e-learning を視聴するやり方がいいのではないか。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

認プロの e-learning 授業は、講師に毎年金沢に来てもらって講義をしていただく手間を省くために、e-learning の形で提供することとした。そして、研究の進展などにより古くなった部分については、例えば１０分間分を差し替えることができるように工夫している。

【三邉義雄委員】

e-learning 授業の講師に対して、学生が対面して質問のできる機会を提供できればありがたい。

（３）脳神経関係以外の医師や学生に認知してもらえる広報活動が必要［沖野委員］

【三邉義雄委員】

脳神経関係以外の医師や学生に対しての広報やメディカルスタッフの e-learning をやっていることをもっとアピールしていくべきである。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

活動している内容について､積極的にホームページ等を通じてPRしていきたい。また、パンフレットを広く配布していきたい。医療関係の雑誌等により北陸でも様々な機関にPRしていきたい。

【高嶋修太郎（田中耕太郎委員の）代理】

臨床サポート医が５，０００人ほど居る。その人たちも視聴できるようにしてほしい。

【川﨑康弘委員】

サポート医に講義できる教員を知ってもらう、そんな情報が必要である。オレンジプランを考えると広がりをどこまでやるかが難しいところである。認知症に関してもっとサポートできるように使ってもらう配慮が必要である。

【三邉義雄委員】

文科省としては、学位をとってもらう形の人材養成が基本なのかもしれない。それとともに、インテンシブコースを広げることも考慮すればいい。多職種の教育についても文科省が力を入れてくれればいい。

【川﨑康弘委員】

一線を画しながら、どこまで広げるかは難しいことである。オファーと提供できるかどうかの関係もあるだろう。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

本格的に探って、糸口を見つけていきたい。

（４）教育コースに募集人員に充たないコースがある　［矢島委員］

【山田正仁プロジェクトリーダー】

履修者の受け入れで、金沢大学のスペシャルコースは残念ながら０名である。医師をやりながら他機関での研鑽というのは、なかなか難しいものである。４名の定員を２名に変更することも考慮し、しかし希望があれば受け入れる途を残しておきたいと考える。

【川﨑康弘委員】

それぞれの機関や教室で事情が異なる。認知症と神経科の両方をやるというケースもあるだろう。専門医制度が過渡期にあって分からない部分がある。専門医の資格をとることができるか、まだ不明確である。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

このコースの活動が知られ、ここで学べば認知症の専門医資格が取られるほどだと認めてもらえるようになれば嬉しい。専門医制度との関わりをさぐって、資

格を取ることができるようになれば、それが一番の近道となる。

（５）デメンシアカンファレンスの要約等の web site での閲覧　［沖野委員］

【山田正仁プロジェクトリーダー】

次年度 4 月からは、担当施設がＡ４・1 枚程度ににまとめて、ホームページ上に掲載することで対応したい。

（６）教育コース履修者の評価方法　［中島委員］、［天野委員］

【山田正仁プロジェクトリーダー】

e-learning の科目の確認テストによる評価と参加状況を踏まえて教務委員会で評価することとなる。

（７）診療現場での実習指導方法　［中島委員］

【山田正仁プロジェクトリーダー】

座学やカンファレンス参加による教育は行っている。しかし、現場を見るということはなかなか難しい。スペシャルコースでは、診療を学習のコースに入れる。４大学の専門外来に受講者が参加、見学するための許可手続などを調べて、プログラムに加えるなど、前向きにやっていきたい。

b. 平成２８年度事業計画

事務局から直前に開催された運営協議会の意見として、次の項目が改めて紹介、確認された。

（１） 地域連携多職種ワークショップなどにより、教育コース履修者たちが認知症を取り巻く周辺を幅広く学び、本プロジェクトも各方面で共用されるようにしたい。

（２） 学生のリクルートのために、現学生の背景や研究内容を紹介し、関心をもってもらうようにする。

（３） 院内のコメディカル・スタッフの教育において、本プログラムの e-learning 教材を活用できるようにしたい。

（４） 歯科医が参加できる途を探る。

以上のアドバイザリーボードによる平成２７年度外部評価に対する対応及び運営協議会の意見を踏まえ、平成２８年度の事業計画策定に向けて次の意見があった。

【高嶋修太郎（田中耕太郎委員の）代理】

e-learning の確認テスト問題の形式が固定化されすぎている。科目によって、確認する項目が大まかなものと細かいものとがある。科目に応じて問題をもっと多くするものがあっていいと思う。５つから２つを選ばせるなど、選択肢が少なすぎる。いろいろな形の問題があってもいい。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

統一したフォーマットのサンプルに合わせている。ソフトの調整でできるかもしれない。問題数を増やすことができるか確認したい。

【事務局・金沢医科大学（大学院担当）副部長 杉原一良】

平成２８年度予算額はどのようになるか。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

平成２８年度予算の総額は未定である。本日の要望が実現できるように予算を確保したいが、文部科学省が提示する額は不明である。

以上を踏まえ、山田正仁プロジェクトリーダーから、平成２８年度の事業計画については、本日の審議結果を踏まえ、提示した計画内容に沿った形で、プロジェクトリーダーの責任において策定させてほしい旨告げられ、了承された。

４．閉会の挨拶

山田正仁プロジェクトリーダーから閉会の挨拶があった。

以上

【資料 11】

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
北陸認知症プロフェショナル医養成プラン
平成２７年度第１回教務委員会・議事概要

日時：平成２７年１０月９日（金）　１８：００～１８：３５
場所：各大学及び地域連携病院のテレビ会議システム設置室

出席者：【金沢大学】山田正仁（委員長）、濵口　毅、坂井健二、篠原もえ子、
小松潤史、橋本隆紀、戸田重誠
【富山大学】高橋　努、高嶋修太郎
【福井大学】濱野忠則、東間正人、田中悠二
【金沢医科大学】大黒正志、富岳　亮、嶋田貴充（代理：上原　隆）
【国立病院機構医王病院】石田千穂
【石川県立高松病院】北村　立
【魚津緑ヶ丘病院】鳴河宗聡（代理：葛野洋一）
【国立病院機構北陸病院】市川俊介、池田真由美
【福井県立すこやかシルバー病院】伊藤達彦、村田賢治
【北陸認プロ運営事務局】牧野敏雄、宮岸由貴
金沢大学医薬保健系事務部学生課 穴倉千恵 外各施設の事務部陪席者
欠　席：【金沢大学】池田篤平、長澤達也【福井大学】山村　修、上野幹二
【国立病院機構医王病院】駒井清暢【谷野呉山病院】島崎正夫
【国立病院機構北陸病院】細川宗仁

議題

１．平成２７年度教育コース履修者募集状況の報告

山田委員長から、スライド資料２頁に基づき説明があり、平成２７年１０月１日現在で２７名の募集人員に対し１９名が履修中であるとの報告があった。

２．平成２８年度教育コース履修者募集要項

山田委員長から、スライド資料３頁から１１頁に基づき平成２８年度教育コース履修者募集要項（案）について説明があり、協議の結果、原案どおり

作成することが了承された。
　また、山田委員長から、教育コース履修者の募集にあたり出来る限り募集人員を充たすよう御協力をお願いしたい旨の依頼があった。

３．平成２７年度 e-learning 教材作成進捗状況の報告
　山田委員長から、スライド資料１２頁に基づき e-learning 教材作成進捗状況について、概ね計画どおり進行している旨の報告があった。

４．認知症プロフェッショナル科目【実習】の概要の報告
　山田委員長から、スライド資料１４頁・１５頁に基づき、未整備となっていた実習科目２科目を整備したこと及びその概要について報告があった。

５．教育コースの修了時期と修了証書の授与方法
　山田委員長から、スライド資料１６頁に基づき、修了時期、修了証書の発行・授与方法等について説明があり、協議の結果、原案どおり了承された。

６．平成２７年の実施済行事及び実施予定行事
　山田委員長から、スライド資料１７頁・１８頁に基づき、平成２７年度の実施済行事及び今後実施する予定の行事について報告があった。
　また、山田委員長から、ここまでデメンシアカンファレンスやＦＤ講演会等の行事が各施設の御協力により順調に進んでいることに対し謝辞があった。

７．平成２８年度の行事実施計画
（１）山田委員長から、スライド資料１９頁に基づき説明があり、平成２８年度のデメンシアカンファレンス、ＦＤ講演会については今年度同様に４大学の輪番制で実施することの提案があり、協議の結果、了承された。
（２）山田委員長から、スライド資料１９頁に基づき、平成２８年度に「認知症地域連携・多職種ワークショップ」を新たに、また、「認知症チーム医療・ケアセミナー」と「キャリアアップ支援セミナー」を引き続き開催することの提案があり、協議の結果、了承された。
（３）山田委員長から、スライド資料２０頁に基づき説明があり、平成２８年度の第３回市民公開講座を富山大学へお願いしたいとの提案があり、協議

の結果、了承された。

（４）山田委員長から、スライド資料２０頁に基づき説明があり、平成２８年度の第３回シンポジウムの担当希望について、後日、改めて各大学へ打診することとした。

（５）山田委員長から、スライド資料２０頁に基づき、平成２８年度のアドバイザリーボードについては、こちらへお越しいただき対面方式で実施したいとの提案があり、協議の結果、了承された。

（６）山田委員長から、スライド資料２０頁に基づき、信州大学の“ＮＧＳＤ”プロジェクトと合同で「認知症の遺伝子検査」をテーマにしたセミナーを平成２８年度に開催したいとの提案があり、協議の結果、了承された。

８．その他

（１）認プロ運営事務局から、市民公開講座、シンポジウム等の周知方法のルール化について提案があり、後日、各大学事務局間で相談することとした。

（２）富山大学委員から、市民公開講座の広告料について質問があり、経費の詳細については、事務局間で相談することとした。

以上

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
平成２７年度運営協議会
議事概要

日時：平成 28 年 2 月 7 日（日）14:00～14:50
場所：ホテル金沢　２階　ダイヤモンドルームＢ

運営協議会委員
（出席）：井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長、認プロ 事業推進責任者）、山田 正仁（金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授、認プロ プロジェクトリーダー）、三邉 義雄（金沢大学大学院脳情報病態学 教授）、高嶋 修太郎（富山大学附属病院神経内科 診療教授、田中 耕太郎教授代理）、東間 正人（福井大学医学部病態制御医学精神医学 准教授、和田有司病院長代理）、濱野 忠則（福井大学医学部病態制御医学内科学（２） 准教授）、大黒 正志（金沢医科大学高齢医学 准教授、森本 茂人主任教授代理）、川﨑 康弘（金沢医科大学精神神経科学 主任教授）、駒井 清暢（国立病院機構医王病院 副院長）、北村 立（石川県立高松病院 院長）、長谷川 雅人（福井県健康福祉部 企画幹）、洞庭 賢一（公益社団法人石川県医師会 理事）
（欠席）：山崎 光悦（金沢大学学長、認プロ 事業推進代表者）、鈴木 道雄（富山大学大学院神経精神医学 教授）、松井 真（金沢医科大学神経内科学講座 主任教授）、石倉 直美（医療法人社団和敬会谷野呉山病院 精神保健福祉士）、葛野 洋一（医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 院長）、坂本 宏（国立病院機構北陸病院 院長）、伊藤 達彦（福井県立すこやかシルバー病院 院長）、菊地 修一（石川県健康福祉部 次長）、井内 努（富山県厚生部 部長）、池端 幸彦（一般社団法人福井県医師会 副会長）、渡辺 多恵（公益社団法人富山県医師会 理事）

事務局：池田 篤平（金沢大学附属病院神経内科 特任助教）、 池端 良伸（金沢大学医薬保健系事務部 学生課長）、穴倉 千恵（金沢大学医薬保健系事務部学生課 専門職員）、村崎 美紀（富山大学医薬系学務課 課長補佐）、長谷川 恵（福井大学 認プロ事務局）、杉原 一良（金沢医科大学 大学院担当 副部長）、牧野 敏雄（金沢大学 認プロ運営事務局）、宮岸 由貴（金沢大学 認プロ運営事務局）
オブザーバー：坂下 正人（福井県健康福祉部長寿福祉課在宅ケア推進グループ 主任）

１.開会の挨拶

山田正仁プロジェクトリーダーから開会の挨拶があった。

２.挨拶

井関尚一事業推進責任者から挨拶があった。

３.運営協議会委員の紹介

事務局から出席委員の紹介があった。

４.平成 27 年度事業報告及び平成 28 年度事業計画（案）の説明

山田正仁プロジェクトリーダーから平成27年度の事業内容及び平成28年度事業計

画（案）がスライド及び配付資料を用いて説明された。

５.質疑応答、意見交換

次のとおり質疑・応答があった。

【長谷川雅人委員】

平成２７年度の事業費の使途や平成２８年度の事業費の総額や各大学への配分額が分かったら教えてほしい。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

平成２８年度の事業費については、まだ連絡を受けていない。平成２７年度の使途の概要については事務局から述べてもらう。

【事務局】

平成２８年度の事業総額は、４，０９７万円だった。予算額の大きいものとしては、e-learning 教材作成に係る費用であり、約１，２００万円であった。なお、各大学には、約３００万円～６００万円を分担金として配分させていただいた。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

平成２７年度の e-learning 教材作成に係る費用については、引用文献等に対する著作権費用の発生など未確定な部分も多く、現在、最終的な執行額は確定していない。収支をしっかり確定させてから平成２８年度の執行計画を立案したい。

【洞庭賢一委員】

国の施策として進められている「オレンジプラン」などからも分かるように、医療現場では認知症の人が随分増えていると実感している。我々も「認知症カフェ」の開催や看護師の方に認知症医療現場のお話を聞くなどの活動を行っているが、平成２７年度の「認知症チーム医療・ケアセミナー」の開催や平成２８年度に予定されている「地域連携・多職種ワークショップ」の開催などは、医療現場の状況を理解するためにも必要なことであり、このプロジェクトで育成される医師が積極的に参加されるよう進めていただきたい。

【三邉義雄委員】

このプログラムは専門医師の養成が中心であろうが、認知症に関しては厚生労働省をはじめ、たくさんの関係者が増えている。職種の枠や背景を乗り越えて実施する企画が必要だと考える。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

確かに重要なことである。ただ，予算の制限もあり，広げていくには限度というもの

がある。このプログラムばかりではなく，国の背策の方向としても将来はそのように広げていってほしい。

【川﨑康弘委員】
本科コースに入った大学院生はどのような背景をもって、現在どのようなユニークな研究をしているのかを紹介し、後輩たちが入学する上でのいいPRになるような企画を考えてほしい。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
本プログラムを知ってもらう上でもパンフレット等に紹介し、入学者の確保につながるようにPRしていきたい。現在、石川県立看護大学の教育においても、このプログラムのe-learningを活用したいとする要望があり、平成２８年度以降に可能であれば看護師養成の教育とうまく連携ができるように調整したいと考えている。
【川﨑康弘委員】
金沢医科大学としても石川県立看護大学との連携を図りたいと考えている。

【濱野忠則委員】
認知症に関係する者は大変多くなってきていると思われる。よく歯科医師からも認知症患者との接点が多く、学びたいと耳にする。このプログラムにおいても、歯科医師が学習できるようになればいい。
【駒井清暢委員】
歯科医師にはFD研修会も有効になると思われ、日程が決まったらぜひ教えてほしい。また、コメディカル・スタッフの専門ナースの教育としても、活用されるよう伝えていきたい。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
多くの貴重な御意見をいただいた。平成２８年度の事業計画策定に活かしていきたい。

６.閉会の挨拶
山田正仁プロジェクトリーダーから閉会の挨拶があった。

以上

認知症プロフェッショナル科目　講義シラバス

1.認知症基礎

認知症の基礎を理解するために、認知症の概念、疫学、神経病理学、分子遺伝学、神経化学、神経免疫学、アミロイドーシス分子機構を概説する。

【科目担当教員：金沢大学大学院脳老化・神経病態学　山田正仁】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症の概要と疫学	山田正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
2	認知症の病理学	坂井健二	金沢大学附属病院神経内科
3	認知症の分子遺伝学	浜口毅	金沢大学附属病院神経内科
4	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学	岩佐和夫	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
5	認知症の蛋白化学	小野賢二郎	昭和大学病院附属東病院神経内科
6	アミロイドーシスの分子機構	内木宏延	福井大学医学部分子病理学
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第１回	認知症の概要と疫学
講師	山田正仁
所属	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
講義内容	認知症の定義、原因疾患、疫学など、認知症についての概要を学ぶ。

第２回	認知症の病理学
講師	坂井健二
所属	金沢大学附属病院神経内科
講義内容	認知症を生じる疾患は多岐に渡り、神経変性疾患、血管障害や炎症性疾患などが挙げられる。確定診断には病理学的な検索が必要な場合が多い。病理学的な検索には肉眼的な観察、顕微鏡を用いた観察、特殊染色や免疫染色を利用した特徴的構造物や蓄積タンパク質の検索などがある。認知症を生じる疾患の病理について学ぶ。

第３回	認知症の分子遺伝学
講師	浜口毅
所属	金沢大学附属病院神経内科
講義内容	認知症発症に関連する遺伝子多型や認知症発症の原因となる遺伝子変異について学ぶ。

第４回	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学
講師	岩佐和夫
所属	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
講義内容	中枢神経伝達物質の種類と機能について理解し、認知症と神経伝達物質との関連について学ぶ。また、神経細胞の変性過程における神経免疫の関与について理解する。

第５回	認知症の蛋白化学
講師	小野賢二郎
所属	昭和大学病院附属東病院神経内科
講義内容	アルツハイマー病やレビー小体型認知症等の病態においてアミロイドβ蛋白やαシヌクレイン蛋白といった蛋白の凝集が深く関わっているとされている。本講義で蛋白凝集と病態に関して概説する。

第６回	アミロイドーシスの分子機構
講師	内木宏延
所属	福井大学医学部分子病理学
講義内容	初めにアミロイドーシスの概念、病理形態学、分類を概説した後、アミロイド線維形成を説明する重合核依存性重合モデルを解説し、このモデルを検証する実験系の概要を述べる。次いでアミロイド線維形成における生体分子の役割に関し、長期血液透析患者に発症するβ2-ミクログロブリンアミロイドーシス、およびアルツハイマー病に認められる脳血管アミロイド症をモデル疾患として解説する。

２.認知症症候学

ライフサイクルにおける老年期の特性をふまえて老年期の精神障害の発症機序を解説する。また老年期精神障害の特徴を述べ、そのことが障害の診断や治療において重要な手掛かりを提供しうることを解説する。

【科目担当教員：金沢医科大学精神神経科学　川崎康弘】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症の中核症状とBPSD	上原隆	金沢医科大学精神神経科学
2	老年期の精神障害と認知症	川崎康弘	金沢医科大学精神神経科学
3	老年期の気分障害と認知症	北村立	石川県立高松病院
4	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症	田中悠二	福井大学医学部病態制御医学精神医学
5	軽度認知障害	池田篤平	金沢大学附属病院神経内科
6	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応	大黒正志	金沢医科大学高齢医学
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

ライフサイクルにおける老年期の特性をふまえて老年期の精神障害の発症機序を解説する。また老年期精神障害の特徴を述べ、そのことが障害の診断や治療において重要な手掛かりを提供しうることを解説する。

第１回	認知症の中核症状とBPSD
講師	上原隆
所属	金沢医科大学精神神経科学
講義内容	認知症の中核症状（記憶障害、失語、失行、失認、実行機能障害などの認知症状）と認知症に伴う行動・心理症状（BPSD）について、その基本を学ぶ。

第２回	老年期の精神障害と認知症
講師	川﨑康弘
所属	金沢医科大学精神神経科学
講義内容	老年期は安定した精神状態にあるとされるが、他の年齢層に比較して精神障害の患者数が多いのも事実である。ライフサイクルにおける老年期の特性をふまえて老年期の精神障害の発症機序を解説する。また老年期精神障害の特徴を述べ、そのことが障害の診断や治療において重要な手掛かりを提供しうることを解説する。

第３回	老年期の気分障害と認知症
講師	北村立
所属	石川県立高松病院
講義内容	臨床でしばしば経験する、うつ病性仮性認知症、うつ病と認知症の中間的な状態、拒絶や介護抵抗として現れる抑うつ、アパシーと抑うつの見分け方、認知症に伴う躁状態について症例を示しながら解説する。

第４回	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症
講師	田中悠二
所属	福井大学医学部病態制御医学精神医学
講義内容	高齢者では、生理身体機能の低下、身体疾患に伴う心身機能の病的な減衰、離別や死別、社会的孤立、経済状況の変化といった多種多様な状況の変化が起こる。それに伴い不安症状や睡眠障害が多く見られる。高齢者の不安障害や睡眠障害について、他疾患との鑑別も含めて学ぶ。　高齢者では慢性的、潜在的に脳機能が低下しておりせん妄が生じやすい。せん妄の準備因子、促進因子、直接因子について、アセスメントと対応方法について学ぶ。

第５回	軽度認知障害
講師	池田篤平
所属	金沢大学附属病院神経内科
講義内容	軽度認知障害の概念を理解し、軽度認知障害の分類、その背景疾患について画像や生物学的マーカーを含めた診断、治療法の選択、認知症への移行について学ぶ。

第６回	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応
講師	大黒正志
所属	金沢医科大学高齢医学
講義内容	認知症高齢者に合併しやすい身体症状や周辺症状とその対応について学ぶ。

３.認知症検査・診断学

認知症の早期診断と進行段階の評価には、生物学的指標を用いて、認知機能障害とその基盤にある脳器質病変および機能異常を包括的に理解する必要がある。本授業では、神経心理学検査、神経画像、脳波、血液および脳脊髄液検査の特徴的所見について学び、各検査を有効に実施するための診断の手順を習得する。

【科目担当教員：福井大学精神医学　和田有司】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症診療に必要な神経心理検査	東間正人	福井大学医学部病態制御医学精神医学
2	認知症の画像検査1 （CT, MRI, MIBG, DAT imaging）	吉田光宏	独立行政法人　国立病院機構北陸病院
3	認知症の画像検査2（脳血流SPECT, FDG-PET, アミロイドPET）	松成一朗	埼玉医科大学病院核医学診療科
4	認知症の血液・脳脊髄液検査	篠原もえ子	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
5	認知症の神経生理検査－脳波－	東間正人	福井大学医学部病態制御医学精神医学
6	認知症診断のすすめ方	小野賢二郎	昭和大学病院附属東病院神経内科
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）or デメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第１回	認知症診療に必要な神経心理検査
講師	東間正人
所属	福井大学医学部病態制御医学精神医学
講義内容	認知機能低下を的確に評価するため、記憶、注意、言語、知覚、運動（行為）および実行機能など多領域の認知機能検査を体系的に実施する必要がある。各領域の代表的検査の実施法と評価・局在診断について学ぶ。簡易検査Mini-mental State Examination（MMSE）と改訂版長谷川式認知機能検査（HDS-R）の相違点を理解し、臨床現場での検査の選択と効率的な実施に関してその実践を学ぶ。

第２回	認知症の画像検査1（CT, MRI, MIBG, DAT imaging）
講師	吉田光宏
所属	独立行政法人　国立病院機構北陸病院
講義内容	認知症疾患におけるそれぞれの神経画像における特徴を学び、認知症の鑑別診断に役立てることができるようにする。

第３回	認知症の画像検査2（脳血流SPECT, FDG-PET, アミロイドPET）
講師	松成一朗
所属	埼玉医科大学病院核医学診療科
講義内容	正常加齢やアルツハイマー病に代表される認知症に伴う変化と画像診断の関係について、脳の神経活動生を見る検査であるFDG PETや脳血流SPECT、脳のアミロイド蛋白蓄積を見る検査であるアミロイドPETを中心に、最新の知見も取り入れ概説する。

第４回	認知症の血液・脳脊髄液検査
講師	篠原もえ子
所属	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
講義内容	内科疾患による認知症の鑑別に必要な血液検査や、脳脊髄液検査、およびアルツハイマー病等の診断に役立つ、脳脊髄液マーカー、血液マーカーについて学ぶ。

第５回	認知症の神経生理検査－脳波－
講師	東間正人
所属	福井大学医学部病態制御医学精神医学
講義内容	脳波は脳機能を反映した電気活動を直接計測する唯一の検査法である。脳波所見を理解する基本的知識について学ぶ。高齢者および認知症患者に関して、①認知症全般でみられる局在性あるいは全般性の基礎律動の徐波と認知機能低下の関連、②正常加齢でみられる非特異的な境界脳波所見、③代表的認知症疾患の特徴的所見、④認知症との鑑別を要するせん妄とてんかんの脳波所見について学ぶ。

第６回	認知症診断のすすめ方
講師	小野賢二郎
所属	昭和大学病院附属東病院神経内科
講義内容	医学の進歩により、たとえ認知症になっても早期に発見して適切な対処をすれば、症状の進行を抑えたり改善したりできる可能性が高まっている。本講義では早期診断に役立つ認知症診断の進め方を解説する。

４. 認知症治療・予防学

各種認知症の治療法について学習する。高認知症薬、周辺症状に対する治療薬、神経症状に対する治療薬、糖尿病、高血圧などの生活習慣病の予防・治療と認知症に対する関与、リハビリ、ケアの基本技術について学習する。

【科目担当教員：金沢医科大学高齢医学　森本茂人】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症の治療総論（薬物，ケア，リハビリ，終末期医療をふくむ）	森本茂人	金沢医科大学高齢医学
2	高齢者の薬物動態	森本茂人	金沢医科大学高齢医学
3	抗認知症薬	濱野忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学(2)
4	BPSDの治療	橋本隆紀	金沢大学大学院脳情報病態学
5	生活習慣と認知症予防	篠原もえ子	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
6	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第１回	認知症の治療総論（薬物，ケア，リハビリ，終末期医療をふくむ）
講師	森本茂人
所属	金沢医科大学高齢医学
講義内容	認知症の予防・治療・ケアにつき概説する。認知症発症の予防については、生活習慣病が認知症発症の危険因子となることから、中年期からの生活習慣病の予防・治療の重要性、身体活動、食習慣の改善、趣味や娯楽の重要性につき学習する。認知症の治療については各種認知症および周辺症状、神経症状への高認知症薬を含む治療法につき学習する。さらに、多職種連携による本人および家族への支援、ケア、リハビリなどにつき学習する。

第２回	高齢者の薬物動態
講師	森本茂人
所属	金沢医科大学高齢医学
講義内容	高齢者では薬物副作用が多発する。また、高齢者では臓器予備能や恒常性維持機能の低下がみられ、複数の合併症治療を考慮した薬物投与設計が必要となる。本項では薬物動態への加齢の影響、認知症に使用される代表的薬物の副作用の発現機序、認知機能に影響する抗コリン薬、譫妄の原因となりやすい薬物の種類と作用機序などにつき学習する。さらに高齢者、特に認知症例における服薬のアドヒアランスを上げる工夫につき学習する。

第３回	抗認知症薬
講師	濱野忠則
所属	福井大学医学部病態制御医学内科学（2）
講義内容	アルツハイマー病の認知機能障害には、コリンエステラーゼ阻害薬（ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミン）、およびNMDA受容体拮抗薬メマンチンが有効である。レビー小体型認知症の認知機能障害、BPSDの両者に対しドネペジルが有効である。血管性認知症に対してはニセルゴリンが有効である。前頭側頭葉型認知症の行動異常に対しては、SSRIの使用が推奨されている。これら薬剤を中心に作用機序も含め学習する。

第４回	BPSDの治療
講師	橋本隆紀
所属	金沢大学大学院脳情報病態学
講義内容	認知症では、中核症状である健忘や認知機能の障害の他に、衝動制御の低下、幻覚妄想、気分の障害、意欲低下などが認められBehavioral and Psychological Symptoms of Dementia (BPSD)と呼ばれる。BPSDは患者だけでなく、家族や介護者にとって大きな負担を強いるものであり、そのコントロールは認知症治療のもっとも重要な目的である。この授業では、BPSDの発症機序を踏まえたうえで、対応方法について扱う。

第５回	生活習慣と認知症予防
講師	篠原もえ子
所属	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
講義内容	食事・栄養、運動などの生活習慣に関する、認知症予防研究の現状や、糖尿病、高血圧症など生活習慣病と認知症との関連について学ぶ。

５.認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理

認知症患者に対しては、生活障害を改善し、地域の中で生活することを支援することが重要である。本授業では、認知症に対する適切なケア、リハビリテーションの基本について学ぶとともに、認知症患者を地域生活の中で支援する制度および実践、認知症診療に関わる法制度や倫理について理解する。

【科目担当教員：富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座　鈴木道雄】

回	テーマ	担当者	所属
1	認知症のケアとリハビリの基本・原則	木戸幹雄	富山大学附属病院神経精神科
2	認知症ケアの実践	島崎正夫	医療法人社団和敬会谷野呉山病院
3	認知症リハビリの実践	横川正美	金沢大学保健学系理学療法学
4	社会環境・資源1（認知症に関わる制度・政策）	北村立	石川県立高松病院
5	社会環境・資源2（生活支援と地域連携）	北村立	石川県立高松病院
6	認知症の人への配慮、法・倫理	北村立	石川県立高松病院
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）or デメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第１回	認知症のケアとリハビリの基本・原則
講師	木戸幹雄
所属	富山大学附属病院神経精神科
講義内容	認知症診療では薬物療法に加えて、生活障害の改善を目的としたケアと、生活能力とQOLの向上を目的とした非薬物療法が重要である。ケアの基本はpersonhood(その人らしさ)を維持することを重視したパーソンセンタードケアである。非薬物療法としては、回想法や現実見当識訓練、芸術療法等がある。認知症に対する非薬物療法は、残存機能を向上させることで二次的に認知機能を向上させることが期待される。

第２回	認知症ケアの実践
講師	島崎正夫
所属	医療法人社団和敬会谷野呉山病院
講義内容	不適切なケアがBPSDの悪化を招きます。 対応の仕方を工夫することで、認知症の方の不安が少なくなり、介護者の負担も軽減します。 認知症ケアの実践について学びます。

第３回	認知症リハビリの実践
講師	横川正美
所属	金沢大学保健学系理学療法学
講義内容	認知症に対するリハビリテーションの実践として、1)低下する認知機能に直接働きかける、2)残存機能を活かす、3)環境設定について学ぶ。

第４回	社会環境・資源1（認知症に関わる制度・政策）
講師	北村立
所属	石川県立高松病院
講義内容	新オレンジプランの概要を理解し、地域包括支援センターや初期集中支援チーム等の役割を学ぶ。介護保険制度の具体的なサービス内容を理解する。成年後見制度や障害年金制度について学ぶ。

第５回	社会環境・資源2（生活支援と地域連携）
講師	北村立
所属	石川県立高松病院
講義内容	ICF（国際生活機能分類）の概念を学び、生活機能障害という観点から認知症を理解する。認知症の人の生活支援を行うために必要な多職種チームのあり方や訪問看護の実践について学ぶ。

第６回	認知症の人への配慮、法・倫理
講師	北村立
所属	石川県立高松病院
講義内容	精神保健福祉法における入院手続きを理解する。身体拘束や経済的被害、虐待、自動車運転など認知症を取り巻く社会的問題について学ぶ。認知症の人の医療同意や意思決定について興味を持つ。

６.認知症各論Ⅰ

認知症を起こす疾患のうち、神経変性疾患について解説する。それらにはアルツハイマー病（AD)、レビー小体型認知症(DLB)、前頭側頭葉変性症　(FTLD)　、進行性核上性麻痺（PSP),、大脳皮質基底核変性症（CBD)、嗜銀顆粒性認知症(AGD)、神経原線維変化型老年期認知症（SD-NFT)を含む。

【科目担当教員：金沢大学大学院脳老化・神経病態学　山田正仁】

回	テーマ	担当者	所属
1	アルツハイマー病	山田正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
2	レビー小体型認知症	吉田光宏	独立行政法人　国立病院機構北陸病院
3	前頭側頭葉変性症	鈴木道雄	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座
4	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症	坂井健二	金沢大学附属病院神経内科
5	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症	山田正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
6	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）orデメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第１回	アルツハイマー病
講師	山田正仁
所属	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
講義内容	アルツハイマー病の定義、疫学、原因・危険因子、症候と経過、検査、診断、治療について解説する。さらに、新たらしい治療・予防法の開発についても触れる。

第２回	レビー小体型認知症
講師	吉田光宏
所属	独立行政法人　国立病院機構北陸病院
講義内容	レビー小体型認知症について、基本的事項、疫学、臨床症状、検査所見、診断基準、治療などについて総合的に学ぶ。

第３回	前頭側頭葉変性症
講師	鈴木道雄
所属	富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座
講義内容	前頭側頭葉変性症の分類、臨床症状、診断、検査所見、脳画像所見、脳病理所見、治療やケアについて学ぶ。

第４回	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症
講師	坂井健二
所属	金沢大学附属病院神経内科
講義内容	進行性核上性麻痺と大脳皮質基底核変性症は孤発性タウオパチーの代表疾患であり、臨床的にはパーキンソニズムと皮質下性認知症、様々な程度の大脳皮質症状を特徴とする。病理学的には神経細胞およびグリア細胞へのリン酸化タウ蛋白の蓄積が認められる。近年、臨床的には両者を区別できない症例が多数報告され、大脳皮質基底核症候群との概念が定着しつつある。両疾患の臨床および病理を解説する。

第５回	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症
講師	山田正仁
所属	金沢大学大学院脳老化・神経病態学
講義内容	アルツハイマー病と誤診されやすい嗜銀顆粒性認知症、神経原線維変化型老年期認知症などの高齢発症タウオパチーについて、概念、病理、臨床的特徴、診断のポイント、治療法開発の展望などについて解説する。

7. 認知症各論Ⅱ

本コースでは、認知機能低下を来し、かつ適切な治療によって認知機能の回復が可能な種々の重要な疾患を講義し、日常臨床上、認知症患者の鑑別診断と治療に有用となる知識を提供する。

【科目担当教員：富山大学附属病院神経内科　田中耕太郎】

回	テーマ	担当者	所属
1	血管性認知症	高嶋修太郎	富山大学附属病院神経内科
2	正常圧水頭症，慢性硬膜下血腫，頭部外傷	富岳亮	金沢医科大学神経内科学
3	代謝性疾患，炎症性疾患，その他	林浩嗣	福井大学医学部附属病院第２内科
4	プリオン病	浜口毅	金沢大学附属病院神経内科
5	認知症と鑑別すべき精神疾患	高橋努	富山大学大学院神経精神医学
6	若年性認知症	濱野忠則	福井大学医学部病態制御医学 内科学（2）
7	（認知症関連）学会orセミナー参加（1回）or デメンシアカンファレンス受講	単位認定教員	
8	確認テスト（必須）	単位認定教員	

※（認知症関連）学会及びセミナーの日程は認プロHPで周知

各講義の紹介

第１回	血管性認知症
講師	高嶋修太郎
所属	富山大学附属病院神経内科
講義内容	認知症患者の約3割を占める血管性認知症の臨床症状や検査所見など臨床的特徴を理解し、診断基準、危険因子、および予防法を含む治療法を学ぶ。また、Strategic single-infarct dementia（特異な単一梗塞による認知症）など、血管性認知症の分類に関する知見も習得する。

第２回	正常圧水頭症，慢性硬膜下血腫，頭部外傷
講師	富岳亮
所属	金沢医科大学神経内科学
講義内容	正常圧水頭症についてはその分類，診断，手術効果，アルツハイマー病との関係について学び。慢性硬膜下血腫については発生機序と診断ならびに治療について。外傷性脳障害についてはその病態と分類と症状について学ぶ。

第３回	代謝性疾患，炎症性疾患，その他
講師	林浩嗣
所属	福井大学医学部附属病院第２内科
講義内容	治療可能な認知症treatable dementiaの多くは、内分泌、代謝、栄養欠乏、中毒、感染、免疫性疾患など様々な内科疾患に起因することが知られている。認知症の10%が可逆性疾患に起因するものであったという報告があり、決して頻度は低くない。これらの治療可能な疾患は見逃すことはできず、鑑別診断は非常に重要である。本講では、治療可能な認知症をきたす代表的疾患の診断、治療法について学ぶ。

第４回	プリオン病
講師	浜口毅
所属	金沢大学附属病院神経内科
講義内容	プリオン病の病型に違いによる臨床症候や検査所見の違いを理解し、それぞれの病型のプリオン病の診断法を学ぶ。また、治療法の現状や介護や社会支援についても学習する。

第５回	認知症と鑑別すべき精神疾患
講師	高橋努
所属	富山大学大学院神経精神医学
講義内容	せん妄などの軽度の意識障害やうつ病などは、認知症と類似の症状を呈するが治療可能であることなどから鑑別が重要である。認知症との鑑別が必要な主な精神疾患について症例なども提示して概説する。

第６回	若年性認知症
講師	濱野忠則
所属	福井大学医学部病態制御医学内科学（2）
講義内容	若年性認知症は高齢者にみられる認知症と比較して血管性認知症、前頭側頭葉型認知症の割合が高く、アルツハイマー病やレビー小体型認知症の割合が比較的低い。若年性認知症は、就労可能な年代で発症することから、職業に支障が出るため、本人の病識も十分あり、精神的ストレスは大きい。また介護者の負担も大きく、重大な問題となっている。診断、治療法に加え、就労支援、家族の支援を含めた社会的ケアについても学習する。

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
デメンシアカンファレンス（DC）の運営手順

2015.3.31

北陸認プロ事務局

１．DC 主催施設の決定

- 基本的に金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学の順で主催（症例呈示）する。
- 大学以外の認プロ参加地域医療機関が主催を希望する場合は、金沢大学認プロ中央事務局（以下中央事務局）に申し出る。中央事務局は４ヶ月目以降の予定に組み入れる。

２．開催日の決定

- DC 主催施設の事務担当者は、DC 開催日について第１希望と第２希望の日時を中央事務局へ前々月下旬（例：5 月開催であれば３月下旬）までに申し出る。
- 中央事務局は、上記の開催希望日時をがんプロのキャンサーボードと重なっていないことをがんプロ事務局に確認し、重なっていた場合は再度希望を出してもらう。
- 中央事務局は、第１希望と第２希望の日時を事業推進委員会委員及び教務委員会委員、各施設事務担当者へ知らせる。事務担当者は、各施設の事業推進委員会委員及び教務委員会委員の都合をまとめ中央事務局へ連絡をする。
- 中央事務局は開催日時を決定し、DC 主催施設の事務担当者及びがんプロ事務局へ連絡する。

３．開催案内

- DC 主催施設の事務担当者は、DC 開催案内（チラシ）を作成し、他施設の事務担当者へ開催日の４週間前までにメールで送る。各施設の事務担当者は、当該施設の事業推進委員会委員及び教務委員会委員、その他に広く周知する。
- 中央事務局は認プロホームページに開催案内を掲載する。

４．DC の内容

- 時間は 90 分以内とする。症例呈示をベースにし、討論を含む。ミニレクチャー等を加えるなどしてもよい。
- 個人情報保護のため、患者氏名、患者イニシャル、患者ＩＤ 等は出さない。詳細は「臨床神経学」の投稿規定（www.neurology-jp.org/journal/kitei.html）に準拠する。

５．出席及び単位認定

- 医療関係者（学生を含む）は出席できる。
- 各施設の事務担当者は、受付で出席者に出席受付簿（所定様式）に記入してもらい、教育コース履修者には本人保管用の受講証明を渡す。
- 各施設の事務担当者は、DC の翌日までに記入済の出席受付簿をメールの添付（PDF）で中央事務局に提出する。中央事務局は、提出のあった出席受付簿により大学別のリストを作成し，各大学にメールの添付（PDF）で送る。教育コース履修者が記載した「受講する授業科目」は本人の申し出により後日修正することができる。

平成 27 年度　デメンシアカンファレンス

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第１回デメンシアカンファレンス

NINPRO

日時　2015 年 4 月 28 日（火）18:30～20:00

会場　認プロ参加施設テレビ会議システム設置室：
金沢大学（教育棟地下大多目的室）、富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）、福井大学（院生棟４階セミナー室）、金沢医科大学（基礎研究棟３階大学院セミナー室）、国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）、国立病院機構北陸病院（特殊診療棟２階小会議室）、石川県立高松病院（医局会議室）、谷野呉山病院（共有棟１階ミーティング室）、福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）

タイトル　小脳と脳幹の萎縮を伴った若年性認知症の１例

担当　金沢大学神経内科

対象　認プロ参加施設及び
その他の施設の医療関係者
（医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票をもらって検印を受けてください。

●お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町 13 番 1 号
TEL:076-265-2149　FAX:076-234-4208
e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:http://ninpro.jp/

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第２回デメンシアカンファレンス

NINPRO

日時　2015 年 5 月 27 日（水）18:30～20:00

会場　認プロ参加施設テレビ会議システム設置室：
金沢大学（教育棟地下大多目的室）、富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）、福井大学（院生棟４階セミナー室）、金沢医科大学（基礎研究棟３階大学院セミナー室）、国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）、国立病院機構北陸病院（特殊診療棟２階小会議室）、石川県立高松病院（医局会議室）、谷野呉山病院（共有棟１階ミーティング室）、福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）

タイトル　長期間の経管栄養から離脱できたレビー小体病の一例

担当　富山大学神経精神医学

対象　認プロ参加施設及び
その他の施設の医療関係者
（医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票をもらって検印を受けてください。

●お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町 13 番 1 号
TEL:076-265-2149　FAX:076-234-4208
e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:http://ninpro.jp/

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第３回デメンシアカンファレンス

NINPRO

日時　2015 年 6 月 23 日(火)18:30～20:00

会場　認プロ参加施設テレビ会議システム設置室：
金沢大学（医学類教育棟地下大多目的室）、富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）、福井大学（院生棟４階セミナー室）、金沢医科大学（基礎研究棟３階大学院セミナー室）、国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）、国立病院機構北陸病院（特殊診療棟 2 階小会議室及び副院長室）、石川県立高松病院（医局会議室）、谷野呉山病院（共有棟１階ミーティング室）、福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）

タイトル　「亜急性の経過をたどった記憶障害の一例」

担当　福井大学　内科学（2）

対象　認プロ参加施設及び
その他の施設の医療関係者
（医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先：北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町 13 番 1 号
tel. 076-265-2149　fax. 076-234-4208
e-mail. ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第４回デメンシアカンファレンス

NINPRO

日時　2015 年 7 月 30 日（木）18:30～20:00

会場　認プロ参加施設テレビ会議システム設置室：
金沢大学（医学類教育棟地下大多目的室）、富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）、福井大学（院生棟４階セミナー室）、金沢医科大学（基礎研究棟３階大学院セミナー室）、国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）、国立病院機構北陸病院（特殊診療棟 2 階小会議室及び副院長室）、石川県立高松病院（医局会議室）、谷野呉山病院（共有棟１階ミーティング室）、福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）

タイトル　「抑うつ症状で発症し認知障害を呈した一例」

担当　金沢医科大学　精神神経科学

対象　参加施設及び
その他の施設の医療関係者
（医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先：北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町 13 番 1 号
tel. 076-265-2149　fax. 076-234-4208
e-mail. ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

第5回

デメンシアカンファレンス

NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

＋症 例＋
近時記憶障害で発症した
家族歴のある認知症の一例

日 時	2015年8月18日（火） 18：30～20：00
会 場	認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所 ・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室） ・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム） ・福井大学（院生棟4階セミナー室） ・金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室） ・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室） ・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室及び副院長室） ・石川県立高松病院（医局会議室） ・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室） ・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）
担 当	金沢大学　神経内科
対 象	参加施設及びその他の施設の医療関係者 （医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先：北陸認プロ運営事務局
〒920－8640　金沢市宝町13番1号
TEL　076－265－2149　FAX　076－234－4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

第6回

デメンシアカンファレンス

NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

◎症 例◎
記憶障害を繰り返し、
認知機能低下が進行した一例

日 時	2015年9月17日（木） 18：30～20：00
会 場	認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所 ・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室） ・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム） ・福井大学（院生棟4階セミナー室） ・金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室） ・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室） ・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室及び副院長室） ・石川県立高松病院（医局会議室） ・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室） ・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）
担 当	富山大学　神経内科
対 象	参加施設及びその他の施設の医療関係者 （医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先：北陸認プロ運営事務局
〒920－8640　金沢市宝町13番1号
TEL　076－265－2149　FAX　076－234－4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL http://ninpro.jp

第7回

デメンシアカンファレンス

NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

症例
気分変動を伴う
レビー小体病の一例

日 時	2015年10月27日（火） 18：30～20：00
会 場	認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所 ・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室） ・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム2） ・福井大学（院生棟4階セミナー室） ・金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室） ・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室） ・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室及び副院長室） ・石川県立高松病院（医局会議室） ・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室） ・魚津緑ヶ丘病院（5階会議室） ・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）
担 当	福井大学　精神医学
対 象	参加施設及びその他の施設の医療関係者 （医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先：北陸認プロ運営事務局
〒920－8640　金沢市宝町13番1号
TEL　076－265－2149　FAX　076－234－4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL http://ninpro.jp

NINPRO
文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

『第8回 デメンシアカンファレンス』
&『認知症チーム医療・ケア セミナー』

－認知症医療における地域支援を中心としたケアについて－

入場無料
申込み不要

日　時：平成27年11月20日（金）17：30～

場　所：各施設のテレビ会議システム設置室
金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学
国立病院機構医王病院、石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院、谷野呉山病院
魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院

症例報告：石川県立高松病院
『入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の１例
－地域での支援体制を整えることの重要性－』

国立病院機構北陸病院
『地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている
幻覚、妄想のある認知症の症例』

講　演：丸木　雄一　先生
埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センター　センター長
『演題　地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割』

お問合せ　北陸認プロ運営事務局
〒920－8640　金沢市宝町13-1　TEL　076-265-2149　FAX 076-234-4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp　URL　http://ninpro.jp/

【 症　例 】
うつ病治療中に認知機能低下をきたした一例

第9回 デメンシアカンファレンス

NINPRO
文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

日　時	2015年12月4日（金） 18：30～20：00
会　場	認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所 ・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室） ・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム2） ・福井大学（院生棟4階セミナー室） ・金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室） ・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室） ・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室） ・石川県立高松病院（医局会議室） ・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室） ・魚津緑ヶ丘病院（5階会議室） ・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）
担　当	金沢医科大学　高齢医学
対　象	参加施設及びその他の施設の医療関係者 （医療系大学の学生を含む）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL 076-265-2149 FAX 076-234-4208
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:http://ninpro.jp/

【資料 16】

平成 27 年度　認プロ FD 講演会

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

NINPRO

第 1 回　認プロ FD 講演会

このたび、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）神経学教室　David B. Teplow 教授および福井大学分子病理学教室　内木宏延教授をお招きして、アミロイドに関するセミナーを下記のとおり開催します。Teplow 教授は、アミロイド研究の第一人者で、アミロイド凝集の基礎である重合核依存性重合モデルや早期凝集体オリゴマーの提唱者です。内木教授は、アミロイド研究で最も重要な実験方法であるチオフラビン色素法の発見者です。お二人とも世界を代表するアミロイド研究者であり、大変興味深いお話を拝聴できるものと思います。大学院生や学生の皆さんもお気軽に御参加ください。

記

担　当：金沢大学（開催及び発信）
日　時：平成 27 年 5 月 18 日（月）17 時～18 時 30 分
場　所：（開催場所）金沢大学教育棟地下大多目的室及び
認プロ参加施設テレビ会議システム設置室

（配信先）富山大学（附属病院 2 階カンファレンスルーム 2）、福井大学（院生棟 4 階セミナー室）、金沢医科大学（基礎研究棟 3 階大学院セミナー室）、国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）、国立病院機構北陸病院（特殊診療棟 2 階小会議室）、石川県立高松病院（医局会議室）、谷野呉山病院（共有棟 1 階ミーティング室）、福井県立すこやかシルバー病院（管理棟 2 階応接室）

Lecture 1. (17:00～17:30)
Prof. Hironobu Naiki
Division of Molecular Pathology, University of Fukui
"Molecular pathogenesis of amyloid fibril formation and deposition"

Lecture 2. (17:30～18:30)
Prof. David B. Teplow
Department of Neurology, David Geffen School of Medicine at UCLA
"Amyloid ß-protein oligomerization and the molecular pathogenesis of Alzheimer's disease"

※講演会は、質疑応答も含め英語で行われます。

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局　〒920-8640 金沢市宝町 13 番 1 号
tel. 076-265-2149　fax. 076-234-4208　email. ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

NINPRO

第2回　認プロFD講演会

講　師：大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
数井　裕光　先生

演　題：「認知症の治療−疾患別対応の重要性とその応用−」

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室の数井裕光先生をお招きし、「認知症の治療一疾患別対応の重要性とその応用一」と題する講演会を開催します。数井先生は神経心理学的手法により「脳とこころ」の関係を解明するために研究を行う一方で、認知症の医療とケアのための地域連携システムの充実を図るために、さまざまなユニークな取り組みをしておられます。また最近、特発性正常圧水頭症に対する腰部くも膜下腔腹腔脳脊髄液短絡術(L-Pシャント術)の有用性を立証されました(Lancet Neurology, 2015)。認知症患者への対応に有益な、大変興味深いお話を拝聴できるものと思います。学生の皆さんもお気軽にご参加ください。

担　当：富山大学（開催及び発信）
日　時：平成27年11月13日（金）
18:00～19:30
開催場所：富山大学附属病院2階カンファレンスルーム2
及び認プロ参加施設テレビ会議システム設置室

（配信先）金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）、福井大学（院生棟4階　セミナー室）、金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室）、国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）、国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室）、石川県立高松病院（医局会議室）、谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室）、魚津緑ヶ丘病院（5階会議室）、福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）

申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

●お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局　〒920−8640 金沢市宝町13番1号
Tel:076-265-2149　Fax:076-234-4208　E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL:http://ninpro.jp/

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

NINPRO

第３回 認プロFD講演会

2015年11月16日（月）18:00～19:30

『アルツハイマー病の危険因子』

【講師】京都大学医学研究科 人間健康科学系専攻
在宅医療看護学分野　木下　彩栄　教授

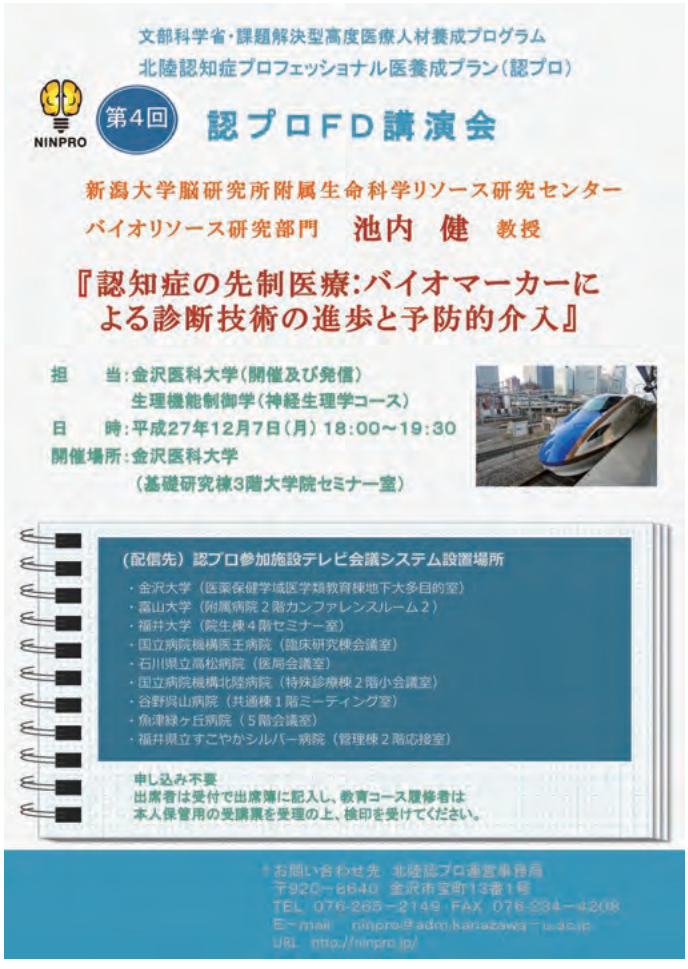
開催場所：金沢医科大学（基礎研究棟3階大学院セミナー室）

（配信先）認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所
・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）
・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム2）
・福井大学（院生棟4階セミナー室）
・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
・石川県立高松病院（医局会議室）
・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室）
・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室）
・魚津緑ヶ丘病院（5階会議室）
・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）

申し込み不要
出席者は受付で出席簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

担当：金沢医科大学（開催及び発信）
生理機能制御学（神経生理学コース）

＊お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局
〒920−8640　金沢市宝町13番1号
TEL　076−265−2149　FAX　076−234−4208
E−mail　ninpro@adm.kanazawa−u.ac.jp
URL　http://ninpro.jp/



文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

NINPRO　第4回

認プロFD講演会

新潟大学脳研究所附属生命科学リソース研究センター
バイオリソース研究部門　池内　健　教授

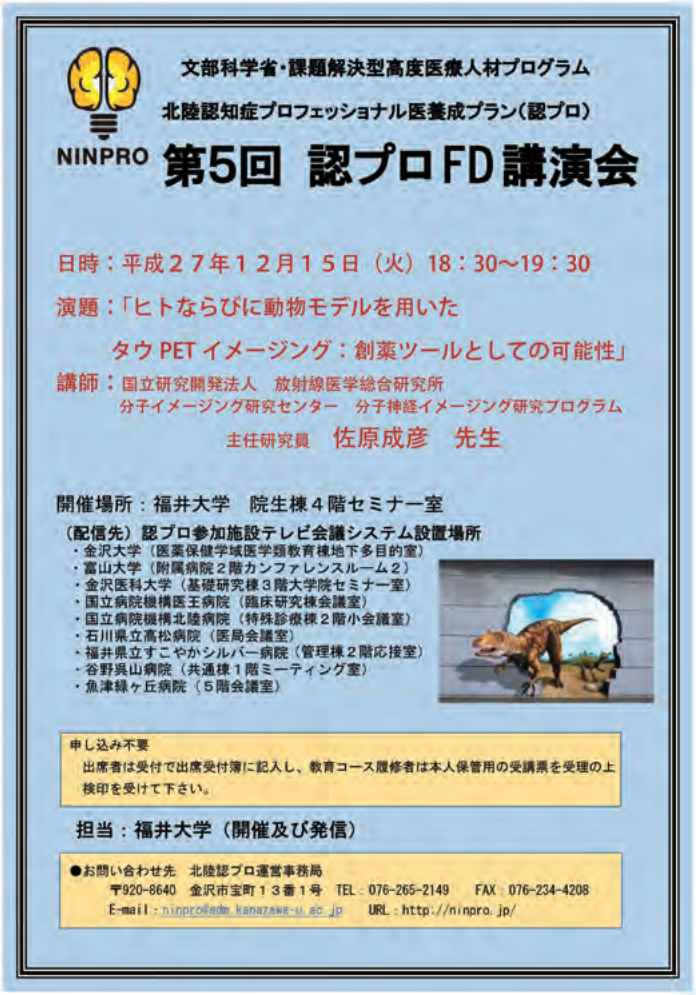
『認知症の先制医療:バイオマーカーによる診断技術の進歩と予防的介入』

担　当：金沢医科大学（開催及び発信）
生理機能制御学（神経生理学コース）
日　時：平成27年12月7日（月）18:00～19:30
開催場所：金沢医科大学
（基礎研究棟3階大学院セミナー室）

（配信先）認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所
・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）
・富山大学（附属病院2階カンファレンスルーム2）
・福井大学（院生棟4階セミナー室）
・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
・石川県立高松病院（医局会議室）
・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟2階小会議室）
・谷野呉山病院（共通棟1階ミーティング室）
・魚津緑ヶ丘病院（5階会議室）
・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟2階応接室）

申し込み不要
出席者は受付で出席簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。

＊お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局
〒920−8640　金沢市宝町13番1号
TEL　076−265−2149　FAX　076−234−4208
E−mail　ninpro@adm.kanazawa−u.ac.jp
URL　http://ninpro.jp/


NINPRO
文部科学省・課題解決型高度医療人材プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)
第5回 認プロFD講演会
日時：平成２７年１２月１５日（火）18：30～19：30
演題：「ヒトならびに動物モデルを用いた
タウ PET イメージング：創薬ツールとしての可能性」
講師：国立研究開発法人 放射線医学総合研究所
分子イメージング研究センター 分子神経イメージング研究プログラム
主任研究員 佐原成彦 先生
開催場所：福井大学 院生棟４階セミナー室
(配信先) 認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所
・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下多目的室）
・富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）
・金沢医科大学（基礎研究棟３階大学院セミナー室）
・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟２階小会議室）
・石川県立高松病院（医局会議室）
・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）
・谷野呉山病院（共通棟１階ミーティング室）
・魚津緑ヶ丘病院（５階会議室）
申し込み不要
出席者は受付で出席受付簿に記入し、教育コース履修者は本人保管用の受講票を受理の上検印を受けて下さい。
担当：福井大学（開催及び発信）
●お問い合わせ先 北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町１３番１号 TEL：076-265-2149 FAX：076-234-4208
E-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp URL：http://ninpro.jp/

NINPRO
文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
第６回 認プロFD講演会
聖マリアンナ医科大学 医学教育文化部門
医学教育研究分野
伊野 美幸 教授
認知症の患者・家族に対する
多職種連携アプローチ
担 当：金沢医科大学(開催及び発信)
医学教育学
日 時：平成28年2月10日(水)
18:00～19:30
開催場所：金沢医科大学
(基礎研究棟3階大学院セミナー室)
【配信先】認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所
・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）
・富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）
・福井大学（院生棟４階セミナー室）
・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
・石川県立高松病院（医局会議室）
・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟２階小会議室）
・谷野呉山病院（共通棟１階ミーティング室）
・魚津緑ヶ丘病院（５階会議室）
・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）
申し込み不要
出席者は受付で出席簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。
*お問い合わせ先 北陸認プロ運営事務局
〒 920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL 076-265-2149 FAX 076-234-4208
E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL http://ninpro.jp/

NINPRO
第1回 認プロFD講演会
名古屋市立大学大学院 医学研究科 病態生化学分野
道川 誠 教授
脳内脂質代謝変動と
アルツハイマー病分子病態
担 当：金沢医科大学(開催及び発信)
生理機能制御学(神経生理学コース)
日 時：平成28年2月17日(水)
18:00～19:30
開催場所：金沢医科大学
(基礎研究棟3階大学院セミナー室)
【配信先】認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所
・金沢大学（医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室）
・富山大学（附属病院２階カンファレンスルーム２）
・福井大学（院生棟４階セミナー室）
・国立病院機構医王病院（臨床研究棟会議室）
・石川県立高松病院（医局会議室）
・国立病院機構北陸病院（特殊診療棟２階小会議室）
・谷野呉山病院（共通棟１階ミーティング室）
・魚津緑ヶ丘病院（５階会議室）
・福井県立すこやかシルバー病院（管理棟２階応接室）
申し込み不要 出席者は受付で出席簿に記入し、教育コース履修者は
本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。
*お問い合わせ先 北陸認プロ運営事務局
〒 920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL 076-265-2149 FAX 076-234-4208
E-mail ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL http://ninpro.jp/

【資料 17】

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

入場無料
申込み不要

キャリアアップ支援セミナー

演題

『臨床医から製薬企業へのキャリアパス
―抗認知症薬の開発に携わって―』

PROFILE OF SPEAKER

藤本　陽子　先生

ファイザー株式会社 GEP メディカル・アフェアーズ統括部　統括部長

1992 年東京医科歯科大学医学部卒業後、同大学医学部附属病院神経内科、東京都立墨東病院、東京都立神経病院で医師として経験を積んだ後、1997 年米国 Duke 大学免疫学教室リサーチフェローとして研究活動を行い、2000 年東京医科歯科大学医学部付属病院神経内科医員として勤務

2001 年ファイザー株式会社入社。5 年間禁煙補助薬チャンピックス開発チームリーダーとして勤務。2006 年ファイザー米国研究所に赴任し、アルツハイマー病治療薬の臨床研究開発に携わる。2008 年神経疾患領域の開発部長としてアルツハイマー病治療薬開発チームをリードし、アルツハイマー病研究に携わる企業代表医師として、執筆・講演活動等を行う。2011 年循環器疾患、糖尿病、代謝疾患領域の開発部長を兼任。2013 年～現在まで、ファイザー株式会社 GEP メディカル・アフェアーズ統括部統括部長として活躍中。

【共催】文部科学省・未来医療研究人材養成拠点形成事業
第三の道：医療革新を専門とする医師の養成

平成２７年

10/13（火）

１８：００～１９：００

【場所】金沢大学医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室

（テレビ会議システムを利用し、他９施設で参加可能）

お問い合せ　北陸認プロ運営事務局
〒920-8640　金沢市宝町 13-1
TEL 076-265-2149　FAX 076-234-4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL　http://ninpro.jp/

【資料 18】

NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

『第8回 デメンシアカンファレンス』&
『第1回 認知症チーム医療・ケアセミナー』

―認知症医療における地域支援を中心としたケアについて―

入場無料
申込み不要

日　　時：平成２７年１１月２０日（金）１７：３０～

場　　所：金沢大学医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室
（テレビ会議システムを利用し、他９施設で参加可能）

症例報告：石川県立高松病院
『入院前の迷惑行動から対応困難とされたレビー小体型認知症の１例
―地域での支援体制を整えることの重要性―』

国立病院機構北陸病院
『地域支援事業者との連携により自宅療養が継続できている
幻覚、妄想のある認知症の症例』

講　　演：丸木　雄一　先生
埼玉精神神経センター・さいたま市認知症疾患医療センター　センター長
『演題　地域包括ケアシステムにおける認知症ケアネットワークの役割』

お問合せ　北陸認プロ運営事務局
〒920－8640　金沢市宝町 13-1　TEL　076-265-2149　FAX 076-234-4208
E-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp　URL　http://ninpro.jp/

【資料 19】

認プロ第２回シンポジウム
プログラム

14:15～14:20　開会挨拶　　井関 尚一　金沢大学医薬保健学域長
認プロ 事業推進責任者

14:20～14:50　**1.認知症の神経心理学**　　座長：松井 真（金沢医科大学）　Ｐ２
石合 純夫　札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座　教授

14:50～15:20　**2.アルツハイマー病とレビー小体型認知症の治療薬**　座長：森本 茂人（金沢医科大学）　Ｐ４
下濱 俊　　札幌医科大学医学部神経内科学講座　教授

15:20～15:50　**3.正常圧水頭症の病態と診断・治療**　　座長：濱野 忠則（福井大学）　Ｐ６
森 悦朗　　東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学　教授

15:50～16:00　休憩

16:00～16:30　**4.認知症地域連携・支援**　　座長：北村 立(石川県立高松病院）　Ｐ８
栗田 主一　　東京都健康長寿医療センター研究所　研究部長

16:30～17:00　**5.若年性認知症**　　座長：和田 有司（福井大学）　P10
新井 平伊　　順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学　教授

17:00～17:30　**6.高齢者と認知症の自動車運転**　　座長：三邉 義雄（金沢大学）　P12
三村 將　　慶應義塾大学医学部精神神経科学教室　教授

17:30～17:35　閉会挨拶　　山田 正仁　　金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授
認プロ プロジェクターリーダー

《文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム》

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）シンポジウム

第20回日本神経精神医学会・認プロ ジョイント企画

「認知症診療のピットフォールと最近の進歩」

日　時　2015年12月12日（土）午後（第20回日本神経精神医学会終了後）

場　所　石川県立音楽堂・交流ホール
石川県金沢市昭和町20-1 TEL.076-232-8111（代）

新たな風、新たな波の声を聴く。

1．「認知症の神経心理学」
石合 純夫（札幌医科大学 教授）

2．「アルツハイマー病とレビー小体型認知症の治療薬」
下濱 俊（札幌医科大学 教授）

3．「正常圧水頭症の病態と診断・治療」
森 悦朗（東北大学 教授）

4．「認知症地域連携・支援」
粟田 主一（東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長）

5．「若年性認知症」
新井 平伊（順天堂大学 教授）

6．「高齢者と認知症の自動車運転」
三村 將（慶応義塾大学 教授）

詳細・最新情報は
認プロホームページをご覧ください。
〈URL〉http://ninpro.jp/

入場無料
申込み不要

●お問合せ先／北陸認プロ運営事務局
担当：池田篤平、牧野敏雄、宮岸由貴
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL：076-265-2149　FAX：076-234-4208
E-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

NINPRO
symposium

●主催／北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）（金沢大学・富山大学・福井大学・金沢医科大学）　●事業推進責任者／井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長）●プロジェクトリーダー／山田 正仁（金沢大学大学院 教授）

『認知症の神経心理学』

札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座　教授

石合　純夫

略　歴

1983年　東京医科歯科大学医学部　卒業、同附属病院神経内科
1984年　埼玉県障害者リハビリテーションセンター
1987年　東京医科歯科大学医学部神経内科　助手
1988年　東京都神経科学総合研究所　2000年から部門長
2005年　札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座　教授

神経心理学とは、言語、行為、対象の認知、記憶、注意、遂行機能をはじめとする広義の認知機能と脳との関係を探求する学問である。変性性認知症は疾患により変性が初発しやすい部位と進行の方向性がほぼ決まっており、神経心理学の知見と対応する形で、認知領域の様々な症状が現れ進行する。アルツハイマー病では、海馬を中心とするPapezの回路の変性が先行して近時記憶障害が起こる。新皮質領域では、内側部で楔前部付近、外側部で側頭－頭頂－後頭接合部付近から機能低下が始まる。楔前部の機能低下では道順障害が起こる。側頭－頭頂－後頭接合部付近は、左半球では語想起、読み書き、行為と、右半球では空間性注意や視空間性能力と関連する。DSM-Ⅳ（Ⅴ）では、アルツハイマー病の認知領域の症状を「記憶障害・失語・失行・失認・実行機能の障害」と表現していが、脳卒中のような巣症状が前景に立つことは稀である。しかし、語想起の障害は高頻度にみられ、HDS-Rでは野菜名想起が低下する。家事等の手順を要する行為は困難となりやすいが、注意の容量低下をはじめとする複合的要因によると考えられ、失行とは呼び難い。左右の大脳半球の変性は非対称性に進むことがあり、言語症状が目立つ場合と軽度の半側空間無視等の視空間性障害が目立つ場合がある。

一方、認知症疾患による典型的巣症状は進行性失語が代表的である。タイプとしては、nonfluent/agrammatic variant、semantic variant、logopenic variantに分けられる。前2者は前頭側頭葉変性症のうち言語症状の強い型である。近年、これらについて、白質神経路の変性と言語症状との関連についての報告が増えている。Logopenic variantは、想定される障害部位から言えばアルツハイマー病に多いと考えられるが、喚語困難に加えて復唱障害を示す典型例は稀である。

認知症における認知領域の症状は、古典的な失語や失行といった名称にとらわれず、疾患による皮質・白質システムの変性パタンから神経心理学的に分析して捉えていくことが大切である。

『アルツハイマー病とレビー小体型認知症の治療薬』

札幌医科大学医学部神経内科学講座　教授

下濱　俊

略　歴

1981年　京都大学医学部　卒業
1987年　京都大学大学院医学研究科博士課程　修了
1987年　米国カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部神経科学部門　留学
2001年　京都大学大学院医学研究科臨床神経学領域　助教授
2006年　札幌医科大学医学部神経内科学講座　教授

認知症は本邦において高齢化の進展に伴い増加し、患者数は４６０万人以上と推定されている。原因としてアルツハイマー病（AD）が約６０－７０％、レビー小体型認知症（DLB）が約５－１０％を占める。

１９７０年代後半からの神経伝達物質の研究によりAD脳でのアセチルコリン（ACh）合成酵素（ChAT）活性やACh分解酵素（AChE）活性の低下およびニコチン性ＡＣｈ受容体（nAChR）数の減少が報告され、それらの変化がADの認知機能低下と相関していることが示された。また、大脳皮質や海馬に投射するAch作動性神経系の起始核である前脳基底部のAch含有神経細胞の顕著な脱落がAD脳で認められることが報告された。Ach作動性神経系の障害がADにおける認知症の中核症状発現の主因であるとするコリン仮説が提唱され、シナプス間隙のAch濃度を上昇させる目的で開発されたのがAChE阻害薬である。AChE阻害薬としてドネペジルに加え、２０１１年からガランタミンとリバスチグミンがAD治療薬として本邦でも承認された。その効能・効果はADにおける認知症症状の進行抑制作用である。また、ADにおける神経細胞死の機序としてグルタミン酸神経毒仮説が提唱され、中等度～重度のADに対してNMDA受容体拮抗薬のメマンチンが承認されている。

一方、DLBは日本で発見された疾患であり、病理学的には大脳と脳幹の神経細胞脱落とレビー小体の多数の出現を特徴とする変性性認知症である。神経化学的には、ADと同様に脳内コリン作動性神経障害を特徴としている。臨床試験によりドネペジルが本邦において新たにDLB治療薬として承認された。その効能・効果はDLBにおける認知症症状の進行抑制作用である。

本講演では、ADとDLB治療薬誕生の背景と治療薬の使い方について概説する。

『正常圧水頭症の病態と診断・治療』

東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学　教授
森　悦朗

略　歴

1977年　神戸大学医学部　卒業
1982年　兵庫県立姫路循環器病センター神経内科　医長
1990年　米国カリフォルニア州スクリプスクリニック　研究員
1993年　兵庫県立高齢者脳機能研究センター　診療部長兼臨床研究科長
2003年　東北大学大学院医学系研究科　教授

水頭症というのは、脳脊髄液が頭蓋内に貯留した状態をいうが、その中で頭蓋内圧が正常範囲内のものは正常圧水頭症と呼ばれる。その中にクモ膜下出血や髄膜炎に続発する二次性正常圧水頭症と、高齢者に生じて、明らかな先行疾患がなく緩徐に歩行障害や認知障害が進行する特発性正常圧水頭症（iNPH）がある。iNPHは認知症の原因の5%程度を占めると考えられ、決して稀ではない。認知症の中でiNPHが重要なのはこの頻度のためだけではない。薬物療法はほとんど無効で、脳脊髄液を除去するような手術、すなわち脳室腹腔シャント術あるいは腰部くも膜下腔腹腔シャント術がたいへん有効なこと、すなわち他とは治療法が大きく異なることである。診療ガイドラインが出版され、広く認識されるようになってきたが、未だに見逃されたり、他の疾患と誤られている例も少なくない。特徴的な歩行障害（遅く、不安定で、歩幅が小さく、股が開いたすり足の歩行）伴った認知症の場合はiNPHを疑ってみるべきだし、脳脊髄液貯留によって脳室が拡大し、シルビウス裂以下のくも膜下腔が拡大し、それより上、すなわち高位円蓋部および正中部のくも膜下腔は逆に押しつけられて縮小している特徴的な画像所見、すなわち「くも膜下腔の不均衡な拡大を伴う水頭症　(DESH) が頭部MRIやCTでみられることが診断上の大きな手がかりとなる。すなわち特徴的な症状と画像所見の両方が診断に重要である。また，腰椎穿刺で脳脊髄液を排除して、その前後で一時的に症状の改善が生じるかどうかをみる検査（タップテスト）も診断に有用である。正しくiNPHを診断し、早期に適切な治療を行うことが求められている。

『認知症地域連携・支援』

東京都健康長寿医療センター研究所　研究部長

粟田　主一

略　歴

1984年　山形大学医学部　卒業
1997年　東北大学医学部附属病院神経科精神科　講師
2001年　東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野　助教授
2005年　仙台市立病院神経科精神科・認知症疾患センター　科長
2009年　東京都健康長寿医療センター研究所　研究部長

２０１５年１月に閣議決定された認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の最も重要な特徴は、「認知症の人と家族の生活を支える地域包括ケアシステムの構築」という基本コンセプトの上に、「認知症の人と家族の視点を重視し、認知症高齢者等にやさしい地域をつくる」という考え方を重ねた点にある。Community-based Integrated CareとDementia-friendly Communityという２つのムーブメントの統合である。

新オレンジプランの第２の柱である「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」は、発症前から人生の最終段階に至るまで、そのステージに応じた予防・医療・介護・住まい・生活支援等のサービスを統合的に提供(Integrated Care)できる体制を、地域の特性に応じて(Community-based)創りだしていくことが目的である。かかりつけ医、認知症サポート医、認知症疾患医療センター、一般病院、精神科病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、介護保険サービスは、認知症の人と家族の生活を支える重要な社会資源であるが、これらは、Community-based Integrated Care System という文脈の中で機能することが求められる。それぞれの地域において、認知症のステージに応じて利用可能なサービスを可視化させる「認知症ケアパス」(ICP for Dementia)や多職種協働チームで診断へのアクセスと診断後支援を推進する「認知症初期集中支援チーム」(IPIST)は、この文脈を担保する象徴的な事業である。

しかし、医療機関で、認知症が早期に診断されても、その後、病状が進行し要介護認定を受けるまでの間は、実際に利用できるサービスがほとんど存在しないという現実がある。ある認知症の当事者は、このことを「空白の期間」と呼んだ。認知症の人が、認知症と診断された後も、希望と尊厳をもって生きていくためには、身近な場に居場所があり、相互に信頼し、助け合うことが出来る人と人との関係が必要である。そのような社会 Dementia-friendly Community を、さまざまな組織・団体が連携して、その地域の文化として創り出していくこと、それがこれからの認知症施策の方向性である。

『若年性認知症』

順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学　教授

新井　平伊

略　歴

1978年　順天堂大学医学部　卒業
1984年　順天堂大学大学院医学研究科　修了
1989年　順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学　講師
1997年　順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学　教授

若年性認知症は働き世代に発症するため、本人及び家族への心理的および経済的ダメージが大きい。このため、最近は医学的のみならず社会的にも注目され、若年性認知症対策は国家戦略である新オレンジプランの重点項目の一つとなっている。医学的にみると、若年性認知症の診断や治療においては、老年期の認知症と異なる様々な特徴を有している。そこで、それらの特徴をふまえ、若年性認知症医療の多面性を概説する。

【診断】

（1）頭部MRI検査はそれほど役立たない
　頭部CT、MRI検査及びVSRAD解析は若年性アルツハイマー病の診断には要注意

（2）うつ病や統合失調症の診断で片付けない
　初老期の気分障害や妄想性障害として診断基準に適合しても一件落着とはいかない

（3）飲酒歴の聴取は簡単ではない
　適度な飲酒は健康にも役立つといわれるが、健忘症の原因となるため簡単に済ませない

【治療】

（1）薬物療法ありきではない
　軽度認知障害（MCI）やアルツハイマー病初期では、まず非薬物療法の導入を考えるべき。また、外来治療では、薬物を処方するだけに終始していないか？

（2）BPSDの対応
　周囲との反応でBPSDを引き起こしやすいのか？また、その対策は？

（3）経済的ダメージに対して
　現存する様々な支援制度、補助制度を用いる必要がある

（4）心理的ダメージに対して
　本人のみならず、子供や親の世代への支援が必要である

（5）就労継続に関して
　仕事をいかに継続するか、経済的にもならず進行防止のためにも重要

（6）診断後の軽度認知症症例の支援
　「早期診断・早期絶望」に終わらせないために必要なこと

以上のような包括的支援により、家族を含めて診断後に続く長い人生の質をいかに充実させるかが、若年性認知症医療ではとくに重要となる。

『高齢者と認知症の自動車運転』

慶應義塾大学医学部精神神経科学教室　教授
三村　將

略　歴

1984 年　慶應義塾大学医学部　卒業
1990 年　慶應義塾大学医学部精神神経科　助手
1992 年　ボストン大学医学部行動神経学部門　研究員
1994 年　東京歯科大学市川総合病院精神神経科　講師
2000 年　昭和大学医学部精神医学教室　准教授
2011 年　慶應義塾大学医学部精神神経科学教室　教授

認知症の自動車運転については、そもそも道路交通法上ですべての回復困難な認知症が重症度に関わらず一律に運転を禁止されている一方（絶対的欠格事由）、高齢ドライバーの運転免許更新時の講習予備検査（認知症スクリーニング検査）で記憶力・判断力が低下している者（いわゆる第一分類）のうち、臨時適性検査で認知症と診断された場合のみ免許取り消しになるという、いわばダブルスタンダートが運用されている。実際の認知症ドライバーは数１０万人～数１００万人にのぼると推計される一方、実際に臨時適性検査で免許取り消しとなったのはこれまでわずか１２０人（平成２３年）であった。安全運転に必要な認知・予測・判断・操作が明らかに障害されていながら運転を中断しない認知症ドライバーの場合、今年から医師による任意届け出制度も利用できる。一方、実際に運転適性が問題となる軽度の患者（軽度認知障害～軽度認知症）においては、実車の評価を中心に、神経心理学検査やシミュレータを含めた複合的評価を実施すべきである。

北國新聞　２０１５年１２月１３日（日曜日）

認知症治療や地域支援学ぶ
金沢でシンポ

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）の第2回シンポジウムは12日、金沢市の石川県立音楽堂交流ホールで開かれ、約１２０人が認知症治療や地域支援の必要性などを学んだ。

日本神経精神医学会との合同企画として、「認知症診療のピットフォールと最近の進歩」をテーマに開催され、第一線の研究者6人が講演した。東京都健康長寿医療センター研究所の粟田主一研究部長は認知症の人とその家族を地域で連携して支える仕組みづくりについて解説した。

北陸中日新聞　２０１５年１２月１５日（火曜日）

診療や運転適性 認知症現状学ぶ
金沢でシンポ

認知症診療を考えるシンポジウムが、金沢市の石川県立音楽堂で開かれ、医療関係者や研究者ら約百五十人が参加し、診療の現状や課題を学んだ。

全国の大学や医療機関で認知症診療を研究する専門家六人が講演。自動車運転を研究する専門家は、高齢者ドライバーの置かれた環境や検査の実情を説明。「軽度の患者の場合、実車の評価を含めて運転適性を判断するべきだ」と述べた。

金沢大、富山大、福井大、金沢医科大でつくる「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）」が企画した。認プロは、地域の認知症診療や対策に率先して取り組める医師を養成する人材育成事業。（佐々木香理）

【資料20】

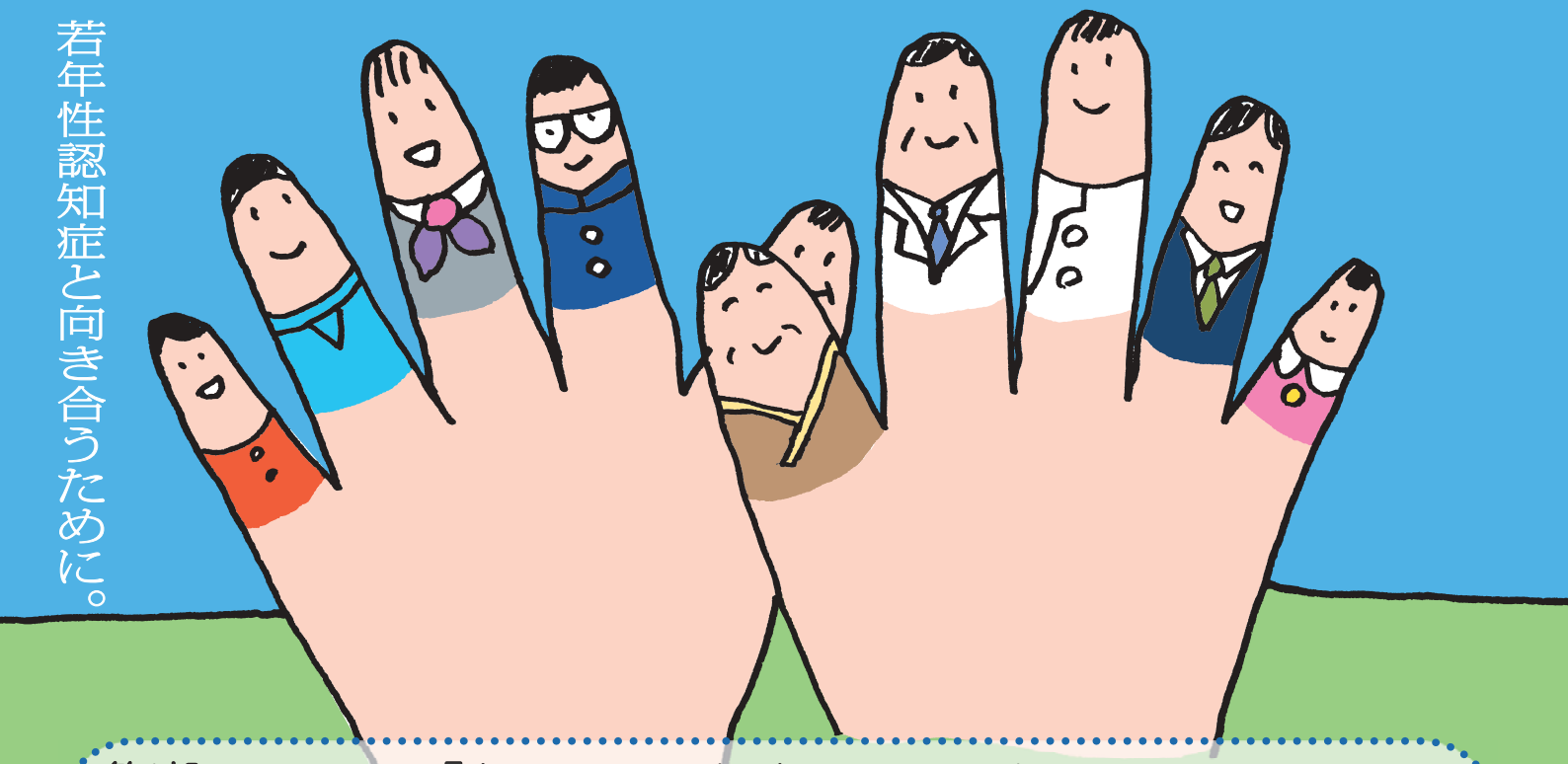
NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

市民公開講座

みんなで知ろう 若年性アルツハイマー病

若年性認知症と向き合うために。



第1部

講演「青山さんと認知症とBLG！＝生きる。」

語り手　青山　仁さん（NPO町田市つながりの開　DAYS　BLG！学童保育担当、洗車・営業担当）

聴き手　前田　隆行さん（NPO町田市つながりの開　DAYS　BLG！代表）

第2部

（1）「なぜ、今、『認プロ』なのか？」

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
『北陸認知症プロフェッショナル医
養成プラン（認プロ）』の紹介

濱野　忠則（福井大学・内科学（2）・准教授）

（2）パネルディスカッション
「若年性アルツハイマー病介護の現状」

司会　濱野　忠則（福井大学・内科学（2）・准教授）
　　東間　正人（福井大学・精神医学・准教授）

パネリスト　坂本　伸子（介護者）
　　横田　昌子（介護者）
　　越野　雄祐（医療法人　越仁会　こしの医院　院長）
　　松山　れい子（二の丸苑居宅介護支援事務所　介護支援専門員）
　　武田　径子（福井大学・地域医療連携部・ソーシャルワーカー）
　　山村　修（福井大学・地域医療推進講座・講師）

◎福井新聞社　風の森ホール（福井市大和田2-801）

◎平成27年11月22日（日）13：30～16：00（開場＝13：00）

お問い合わせ・お申し込み
福井大学松岡キャンパス総務室　総務・企画係　認プロ福井事務局
〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3　Tel.0776-61-8186
Fax.0776-61-8153　Eメール. n-pro@ml.u-fukui.ac.jp
※お申し込みいただいた方には聴講券をお送りします。

※駐車場台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関でご来場ください。

定員：300名

参加費無料

申込締切：11月13日（金）

主催：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）（福井大学・金沢大学・富山大学・金沢医科大学）
共催：福井新聞社　後援：福井県医師会、福井県看護協会、福井県社会福祉協議会、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井

創造力、実践力。
国立大学法人
福井大学

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
NINPRO 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

市民公開講座

みんなで知ろう 若年性アルツハイマー病

第1部　講演登壇者Profile

青山 仁（あおやま　ひとし）さん

NPO町田市つながりの開 DAYS BLG!
学童保育担当、洗車・営業担当

平成24年2月にアルツハイマー型認知症と診断。それまで、建設現場の作業員や建設機械の営業等で海外勤務もしていた。診断直後、一時は「死のう」と思ったが、周囲の支えがあり一歩前進することができた。今では学童保育クラブで子どもたちの遊び相手、HONDAでの洗車、講演会など精力的に毎日を過ごし、「僕は認知症になって良かったとは思えないですが、でも今は楽しくて幸せです」と言えるまでに。皆からは「青ちゃん」と呼ばれている。

前田 隆行（まえだ　たかゆき）さん

NPO町田市つながりの開 DAYS BLG!代表

通所介護事業所「DAYS BLG!」にて、当たり前のことを当たり前に、認知症を自分事として捉える次世代型のデイサービスを運営し、「働きたい」「役に立ちたい」「介護されるだけの存在から再び社会の一員として⇒利用者から生活者へ」等という想いをカタチにする活動をコンセプトとしている。

この他に特定非営利活動法人若年認知症サポートセンター理事、特定非営利活動法人認知症フレンドシップクラブ・アドバイザリーボード等を務める。

申込方法

申込締切：11月13日（金）※定員になり次第締め切らせていただきます。
※お申し込みいただいた方には聴講券をお送りします。

参加ご希望の方は、①FAX②Eメール③電話のいずれかでお申し込みください。

①FAXでお申し込み　Fax.0776-61-8153

下記に必要事項を記入し、このままFAXでご送信ください。

フリガナ お名前		男 女	年齢	
住　所	〒　　－		職業	
お電話	－　　－		参加希望人数	
質問欄　※質問に必ずお答え出来るとは限りません。きわめて個人的な質問はご遠慮ください。				

②Eメールでお申し込み　n-pro@ml.u-fukui.ac.jp

郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、性別、職業、電話番号、参加希望人数、認知症に関する質問を明記し、お申し込みください。

③電話でお申し込み

TEL.0776-61-8186

お問い合わせ
福井大学松岡キャンパス総務室　総務・企画係　認プロ福井事務局
〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3　Tel.0776-61-8186

※ご記入いただいた情報をもとに、今後北陸認知症プロフェッショナル医養成プランよりワークショップや講演会などの情報を提供させていただく場合があります。その他第三者に個人情報を提供することは一切ありません。

市民公開講座

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

みんなで知ろう若年性アルツハイマー病

認知症への関心が高まる中、若年性アルツハイマー型認知症について考えようというイベントが、11月22日、福井新聞社・風の森ホールで開かれました。福井大など4大学でつくる「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）」による市民公開講座で、患者の生の声や介護する家族とそれを手助けする専門家が、体験談や医療・介護の実情を発表。約300人の市民らが病気との付き合い方について理解を深めました。

主催：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
（福井大学・金沢大学・富山大学・金沢医科大学）
共催：福井新聞社　後援：福井県医師会、福井県看護協会、
福井県社会福祉協議会、FBC福井放送、福井テレビ、FM福井
お問い合わせ：福井大学松岡キャンパス総務室 総務・企画係 認プロ福井事務局
〒910-1193 永平寺町松岡下合月23-3
Tel.0776-61-8186　Fax.0776-61-8153　Eメール.n-pro@ml.u-fukui.ac.jp

創造力、実践力。
国立大学法人
福井大学

第1部

講演「青山さんと認知症とＢＬＧ－ｉｎ生きる。」

ＮＰＯ町田市つながりの開 ＤＡＹＳ ＢＬＧ－ｉの青山さんと前田さん

青山仁さん
建設関係の仕事に就いていた平成24年に、アルツハイマー型認知症と診断。現在は洗車の仕事や学童保育でのボランティア、講演会など精力的に過ごす。

前田隆行さん
通所介護事業所「DAYS　BLG！」代表。認知症であっても社会の一員として、働き、人の役に立つ生き方を実現する次世代型デイサービスを運営する。

前田：青山さんは洗車した謝礼で焼き鳥やビールを楽しんだり、近くの学童保育で子ども達と遊んだりしています。毎日どう？

青山：楽しいね。

前田：病気になる前と、何か変わった？

青山：普通。あまり変わらない。道に迷った時は、何度もコンビニで聞くから大丈夫。

前田：認知症は忘れる度合いが少し多いだけ。「大変なことになる」というのは、私たちの思い込みです。将来、誰もが認知症になる時代が来ます。認知症で死ぬか、事故か病気で死ぬかです。今は早期発見・診断ができるけれど、その先の対応ができていない。青山さんも落ち込んだ時期があったんだよね。

青山：うん。最初の所（デイケア）はみんな同じことして、同じもの食べて、嫌な感じだった。

前田：今は違うよね。お昼は外食やお弁当や、みんなで作って食べたりと、バラバラ。青山さんはいつも、スーパーで買い物するとお札を出すから、財布が小銭でいっぱい。何で？

青山：面倒くさいから。後ろに人が並んでゴチャゴチャ言われると、ね。

前田：ゆっくりなら払えるけど、周りが「早くしろ」というプレッシャーをかけてくる。時間がかかっても何も言われないシルバーレーンでもあれば、病気やケガや高齢の方も嬉しい。「認知症でも安心して暮らせる街」を掲げる所は多いけれど、医療や福祉など小さな世界を変えてもだめなんです。最近は企業も認知症への対応を研究しています。青山さん、いろいろ教えてあげてるんだよね。

青山：いや、僕はそんなに頭良くないから…（笑）。お風呂で何を使うのかとかは話すけど。

前田：誤飲などを防ぐためにどうしたらよいか、意見を聞いているんです。最後に、仕事があって、社会と交流できて、同じ仲間と楽しく過ごしている青山さんからメッセージを。

青山：苦しいこともあるだろうけど、くよくよせずに生きていこう！

第2部

「なぜ、今、『認プロ』なのか？福井大学からの提言」

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）」の紹介

濱野 忠則（福井大学・内科学（2）・准教授）

超高齢化社会をむかえ、認知症は増え続け、２０２５年には７００万人になると予想されます。現在県内では少なくとも3万人と推計されますが、日本認知症学会の専門医はわずか8人。そこで金沢大を中核拠点に北陸の４つの医科系大学をネットワーク化し、認知症の専門医師を養成するプランが昨年からスタートしました。未来の医療を支えるために、予防薬や発生を予防する生活習慣などの研究も進めています。

もうひとつの課題は介護の問題です。特に若年性認知症は経済的な問題があり、親世代の介護の時期とも重なって、配偶者に介護が集中しがちです。こうした負担を軽減するためにも、認知症患者に優しい社会を目指すことが重要です。

第2部

パネルディスカッション「若年性アルツハイマー病介護の現状」

司会　濱野 忠則
（福井大学・内科学(2)・准教授）

司会　東間 正人
（福井大学・精神医学・准教授）

―まず、介護する家族の方にお話を伺いましょう。

坂本：夫は要介護５、今夏身体障害者１級にも認定された在宅療養中ですが、私たち夫婦は楽しく暮らしています。それは人とのつながりがあるからです。

坂本 伸子（介護者）

主治医の先生やケアマネさん、訪問看護師さん、ヘルパーさん、デイサービスの方々、福祉用具専門相談員からなる「チーム坂本」、素晴らしい彼らに支えられ今の私たちの生活があります。職場やご近所、周囲の理解を得ると周囲は温かい味方です。女子会や歌のレッスンなど自分の好きな時間は気持ちを明るくしてくれます。そして発想の転換。病気の進行は止められなくても、自分の考えは自由に変えられます。「認知症は恥ずかしい病気なの？カッコいい病気って何？」「守られているのは夫を守っているつもりの私ではないか」と今は思います。家を一番居心地よい空間にすることも大事。介護日記で夫をネタに多少つらいことも面白おかしく綴ります。日々の生活の何気ないことに幸せを見いだすことが明日につながります。

―それでは、坂本さんの主治医の越野先生にお願いします。

越野 雄祐
（医療法人 越仁会
こしの医院 院長）

越野：私は主に糖尿病の治療で関わっており、今は2週間に1回の訪問診療をしています。皮膚のトラブルもあったので、同じ町内の皮膚科の医師にも診てもらっています。こうした患者さんにとって重要なのは、看護師や介護士、デイサービスなどコメディカルの方々で、僕はお手伝いという感覚です。坂本さんは、多職種の人たちが関わって1人の患者を支えるという、国が目指す「地域包括ケア」のモデルケースだと思います。お伝えしたいのは、認知症でもすべてがわからなくなる訳ではないということ。車から降りようとしなかったり、血液検査で抵抗されることもありましたが、今は、ゆっくり声をかけてやさしく言えば従ってくれます。諦めず時間をかけることが大事なのです。当初は歩いて来られるほどでしたが、病気が進行して車椅子に。しかし今は、比較的落ち着いています。今後も、私のできることを精一杯やっていきたいと思います。

―在宅介護のホームドクターの役割と、地域包括ケアの具体的ケースで勉強になりました。ではもうお一人の介護者のお話を。

横田：夫は大学在職中の6年前に発症し、先日67歳で急逝しました。この間、通院途中ではぐれ、丸1日行方不明になって遠方で発見されたり、他の病気を併発的な問題が発生します。支援制度は、自立支援医療、精神障害者保健福祉手帳、傷病手当金、障害年金などがあり、それぞれ窓口や申請可能な時期、支給の条件が違います。診断後すぐ申請できる自立支援医療は、デイケアなども含む精神通院医療の費用が1割負担になります。1年6カ月を過ぎると支給される障害年金は、障害の程度と加入する保険によって支給額が違います。申請書類には本人や家族が作成するものもあるので、受診前や受診後の経過、就労状況、日常生活で困難なことなどを書き留めておくと役に立ちます。休職により支給される傷病手当は、退職時にすでに受給していて要件を満たせば、期間満了まで支給されます。制度の利用については、ソーシャルワーカーや相談員に相談してください。

武田 径子
（福井大学・地域医療連携部・
ソーシャルワーカー）

―では、地域連携と認知症についてお願いします。

山村：認知症の方のケアは生活場所であるご自宅をメインに、施設、病院がチームで進める必要があります。これまでは三者の連携が不十分でしたが、現在では退院前に病院側と在宅ケアのスタッフが話し合いの場を持つなど、認知症の勉強会などで現場の理解も進んでいます。人口減少により、一番深刻なのが独居問題です。最近は、高齢者の見守りシステムも開発されています。無事確認のほか、居場所を感知するセンサーで安否確認を行うだけでなく、徘徊などの異常をキャッチすることも可能です。生産年齢人口の減少にこうしたシステムは有効ですが、「見守り」と「監視」の境界をどこに置くかという悩みもあります。見張られて生活するのは嫌ですし、人によってニーズも違います。宅配業者の方から高齢者見守りの提案をいただいたこともありますが、今後は医療介護の関係者だけでなく、地域のすべての力を結集することが必要になるでしょう。

（敬称略）

山村 修
（福井大学・地域医療推進
講座・講師）

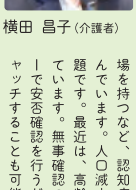
―認知症の方が身体疾患の合併症を起こすと、現状では入院することも困難です。こうした方専用の病棟（ＢＰＳＤ病棟）がぜひとも必要です。それでは介護支援専門員の立場から、お願いします。

松山：認知症になったＴさん（58歳）の事例ですが、アルツハイマー型認知症（要介護4）の寝たきりの母親とアパートで二人暮らし。クレーンオペレーターとして勤続30年の優秀な社員でしたが、運転ができなくなり退職。親族からの金銭・介護の援助も望めない状況でした。傷病手当受給中に成年後見制度を申請し、金銭管理を依頼し、訪問看護・ヘルパーの支援を受けて生活しています。一番にお母様の心配をされるＴさんの意向を尊重し、母子の生活環境を整え、各関係機関と「なじみの関係」を築くことで、服薬管理や入浴も習慣化しました。味覚障害や短期記憶障害・失認・失行が顕著になり、その都度サービスの調整は必要ですが、表情も明るく穏やかに過ごされています。今後も、母子で住み慣れた地域で暮らしていくためには、地域の方々や医療機関、専門職、介護サービス事業所などの連携が重要です。

松山 れい子
（この丸苑居宅介護支援
事業所 介護支援専門員）

―若い方ゆえに、サービスや個人への対応の面で苦慮されているのがわかります。次は、医療費や診断後のサービスについてです。

武田：65歳未満で発症する若年性認知症の場合、一家の家計を支えている人も多く、休職や退職により経済しているのに見過ごして重症化したりと、いくつもつらい出来事がありました。私が介護で不安になりますと、夫はその気持ちを敏感に感じ取り、不測の事態や体調不良を引き起こしました。デイサービスで、他の利用者に病名を話していいかと聞かれることもあります。それがどんなに残酷なことか。夫は理解できる部分も多く、喜怒哀楽の感情もありました。医療関係者の方に、病気を深く理解していただき、若年性認知症者のデイサービスが近くになかったのも残念です。介護者が私だけでなければ、公的支援を活用できていたら、夫は自宅にいて充実した生活がもっと送れたのではないかという後悔もあります。本人は最後までウオーキングなど運動をして、残さず食べて、懸命に人生を全うしました。



横田 昌子（介護者）

認プロへのＱ＆Ａ

Ｑ　アルツハイマーは発症20年前から異変が出るといいますが、20代でも脳は衰えますか？

Ａ　認知症になる20年前からアミロイドベータ（脳のゴミ）が溜まります。40代発症の場合、20代から溜る可能性は理論上あります。過度の心配は不要ですが、気になる時は専門医にご相談下さい。福井大病院では必要に応じてアミロイドＰＥＴ検査も受けられます。

Ｑ　認知症の病名告知にはどのような配慮が必要ですか？

Ａ　精神的苦痛や本当の意味で病気を受け入れるまでの間の精神的サポートを行うことを念頭におくべきです。認知症のマイナス面だけでなく、希望を持って生きている青山さんのような方々がいることも同時に伝え、適切な医療や福祉サービスがあることを医療者は伝えていくことが大切で、今以上に多職種連携を構築すべきだと思います。何よりも、一般の人が認知症への正しい知識を持ち、社会の認知症に対する偏見をなくしていかなくてはいけません。

課題解決型高度医療人材養成プログラム
取組１－（２）特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
①難治性疾患診断・治療領域

「難病克服！　次世代スーパードクターの育成」キックオフ および“NGSD”・“認プロ”合同フォーラム

NGSD:　難病克服！　次世代スーパードクターの育成
認プロ：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

日時：2015 年 5 月 16 日（土）13:00-16:00
場所：東京女子医科大学　中央校舎４階　400 号

13:00-13:15

主催者挨拶	信州大学長	山沢清人
	信州大学医学部長	池田修一
認プロ代表挨拶	金沢大学医薬保健学域長	井関尚一
来賓挨拶	厚生労働省大臣官房厚生科学課	

13:15-14:45　テーマ１：人材養成（“NGSD”・“認プロ”合同フォーラム）

1）課題解決型高度医療人材養成プログラムについて（15 分）
斎藤雅彦　（文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室）

2）NGSD プロジェクト（45 分）

概要説明	福嶋義光	（信州大学）
連携校の取組	櫻井晃洋	（札幌医科大学）
	松下一之	（千葉大学）
	斎藤加代子	（東京女子医科大学）
	小杉眞司	（京都大学）
	難波栄二	（鳥取大学）
外部評価委員会	玉置知子	（兵庫医科大学）

3）北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）における人材養成　（30 分）
山田正仁　（金沢大学）

14:45-15:00　休憩

15:00-16:00　テーマ２：ゲノム時代の難治性疾患マネジメント（60 分）

特別講演 1）
難治性疾患のゲノム解析　松原洋一（国立成育医療研究センター研究所長）

特別講演 2）
遺伝カウンセリングの重要性　川目 裕（東北大学東北メディカルメガバンク機構教授）

16:00　閉会

■ 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム
取組１―（２）特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成　①難治性疾患診断・治療領域

参加無料／申込不要

ゲノム時代の難治性疾患マネジメントを担う
オールラウンド臨床遺伝専門医の育成と
全国遺伝子医療部門連絡会議を介した全国展開

「難病克服！（通称：NGSDプロジェクト）次世代スーパードクターの育成」キックオフ
および
“NGSD”・“認プロ” 合同フォーラム

（NGSD：難病克服！　次世代スーパードクターの育成
認プロ：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン）

日時 2015年5月16日(土)
13:00～16:00

場所 東京女子医科大学
中央校舎4階 400号
（東京都新宿区河田町8-1）

フォーラムテーマ 1 人材養成（“NGSD”・“認プロ”合同フォーラム）

① 課題解決型高度医療人材養成プログラムについて

② NGSDプロジェクト 概要説明・連携校の取組

福嶋　義光（信州大学）　櫻井　晃洋（札幌医科大学）　松下　一之（千葉大学）
斎藤加代子（東京女子医科大学）　小杉　眞司（京都大学）　難波　栄二（鳥取大学）

③ 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）における人材養成

山田　正仁 先生（金沢大学）

フォーラムテーマ 2 ゲノム時代の難治性疾患マネジメント

特別講演① 難治性疾患のゲノム解析

松原　洋一 先生（国立成育医療研究センター研究所長）

特別講演② 遺伝カウンセリングの重要性

川目　裕 先生（東北大学東北メディカルメガバンク機構教授）

お問合せ
事務局 ■ 信州大学医学部 遺伝医学・予防医学
0263-37-2618（内線）5208　jisedai@shinshu-u.ac.jp
http://www.ngsd-project.jp/

【資料 22】

金沢大学
KANAZAWA UNIVERSITY

文部科学省　未来医療研究人材養成拠点形成事業
「メディカル・イノベーション推進人材の養成」

第3回シンポジウム

第三の道：医療革新を専門とする医師の養成

2015. 11/12 (木) 17:00～

金沢大学附属病院外来診療棟4階宝ホール
(石川県金沢市宝町13番1号)

16：30 ［ 受付開始 ］　学生によるポスター展示

17：00 ［ 開会挨拶 ］　山崎　光悦 (金沢大学長)

17：10 ［ 事業説明 ］　井関　尚一 (医薬保健学域長・研究域長/事業推進責任者)

17：30 ［ 特別講演 ］　座長：絹谷　清剛 (バイオトレーサ診療学教授/プログラムマネージメント室長)

「アカデミアにおける医学の基礎研究の実用化と動向」

猿田　享男
(日本医療研究開発機構：革新的医療技術創出拠点プロジェクトディレクター/慶應義塾大学医学部名誉教授)

18：30 ［ 質疑応答 ］

18：45 ［ 閉会挨拶 ］　山本　博 (金沢大学理事 (国際・附属病院・同窓会担当)・副学長)

入場無料

※医学類メディカルリサーチトレーニング (MRT) プログラム　※大学院 up to date セミナー (全専攻対象・0.2単位) として認定

■主催：金沢大学医薬保健研究域
■共催：金沢大学附属病院先端医療開発センター、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム・北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン (認プロ)

［お問い合せ先］ メディカル・イノベーションコース プログラムマネージメント室
〒920−8640 石川県金沢市宝町13番1号　医薬保健系事務部学生課医学学務係 (F棟1階)　TEL：076-265-2869　FAX：076-234-4208　E-mail：t-mirai@adm.kanazawa-u.ac.jp

第三の道：医療革新を専門とする医師の養成

第３回シンポジウム

特別講演

「アカデミアにおける医学の基礎研究の実用化と動向」

講　師　猿田（さるた） 亨男（たかお） 氏

（日本医療研究開発機構：革新的医療技術創出拠点プロジェクトディレクター／慶應義塾大学医学部名誉教授）

［ Profile ］

平成17年４月　慶應義塾大学名誉教授
平成19年４月　公益法人医療研修推進財団　理事長（平成26年6月迄7月～顧問）
平成23年４月　一般社団法人日本臨床内科医会　会長

＜文部科学省＞
橋渡し研究支援推進プログラム プログラムディレクター（平成19年5月～平成27年3月）
未来医療研究人材養成推進委員会副委員長（平成25年4月～現在）

＜厚生労働省＞
厚生労働省早期・探索的臨床試験拠点整備事業ディレクター（平成23年6月～平成27年3月）
厚生労働省臨床研究中核病院整備事業ディレクター（平成24年6月～現在）
厚生労働省日本主導型グローバル臨床研究体制事業ディレクター（平成24年4月～平成27年3月）
保健医療専門審査官先進医療専門家会議座長（平成17年4月～現在）
厚生労働省先進医療技術会議座長（平成24年10月～現在）

＜日本医療研究開発機構＞
革新的医療技術創出拠点プロジェクト・ディレクター（平成27年4月～現在）

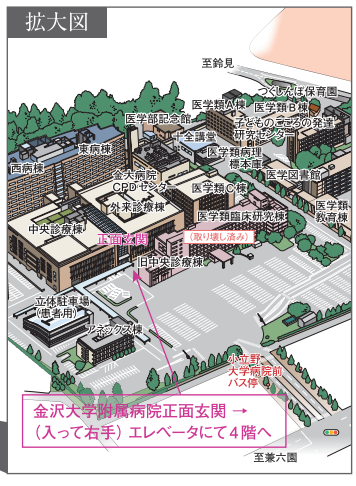
第３回シンポジウム参加申込書

ご参加申し込み：メールかFAXにて　1.ご氏名　2.ふりがな　3.所属・役職　4.ご連絡先　5.メールアドレスをご記入の上、下記までお申込みをお願いします。

FAX：076-234-4208　　E-mail：t-mirai@adm.kanazawa-u.ac.jp

ふりがな	
氏　名	
所属・役職	
住　所	〒
ＴＥＬ	
E-mail	@

※上記名簿は今回のシンポジウム以外には使用いたしません。ただ、今後のイベント等のお知らせをご希望の場合は、Yes □ に✓をお願いします。　Yes □



［お問い合せ先］メディカル・イノベーションコース プログラムマネージメント室
〒920−8640　石川県金沢市宝町13番1号　医薬保健系事務部学生課医学学務係（Ｆ棟1階）
TEL：076-265-2869　FAX：076-234-4208　E-mail：t-mirai@adm.kanazawa-u.ac.jp

【資料 23】

NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム（医師養成プログラム）

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

平成28年度

教育コース履修者募集要項

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科

富山大学大学院医学薬学教育部

福井大学大学院医学系研究科

金沢医科大学大学院医学研究科

目　　次

・ 教育コース履修者の募集について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

・ 北陸認知症プロフェッショナル医養成プランについて ・・・・・・・・・・・・・ 2

・ 教育コースの概要

〇認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）

金沢大学 ・・ 3

富山大学 ・・ 4

福井大学 ・・ 5

金沢医科大学 ・・・ 6

〇地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）

金沢大学 ・・ 7

富山大学 ・・ 8

福井大学 ・・ 9

金沢医科大学 ・・・ 10

〇認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）

金沢大学 ・・ 11

〇地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）

金沢大学 ・・ 12

〇認知症スーパープロフェッショナル養成のための

卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）

金沢大学 ・・ 13

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム（医師養成プログラム）
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教育コース履修者の募集について

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）は、超高齢化社会を背景に認知症の分野で特に高度な知識・技術を有する医師が求められていることから、ハイレベルの認知症専門医師の育成を目的として設置されたプログラムです。

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）は、北陸の医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施しています。

教育コースには、認知症チーム医療のリーダーとして活躍できる認知症専門医師を養成する「認知症チーム医療リーダー養成コース」（本科コース）を中心に、五つのコースを設置しています。インテンシブコースは、医師の方であれば全国どの地域にお住まいでも履修可能です。

なお、医師以外で認知症に関わる職種の方を対象に「メディカルスタッフ e-learning 講座」を設置しますので、e-learning 講義科目の聴講が可能です（随時受入）。詳細は、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営事務局へお問い合わせください。

１．募集教育コース

① 認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
（高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師の養成）
募集大学【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】

② 地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
（地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修）
募集大学【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】

③ 認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）
（認知症・神経難病の臨床・病理研修）
募集大学【金沢大学】

④ 地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）
（地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修）
募集大学【金沢大学】

⑤ 認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
（卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医の養成）
募集大学【金沢大学】

２．募集人員，対象者
本要項に掲載の教育コースの概要でご確認ください。

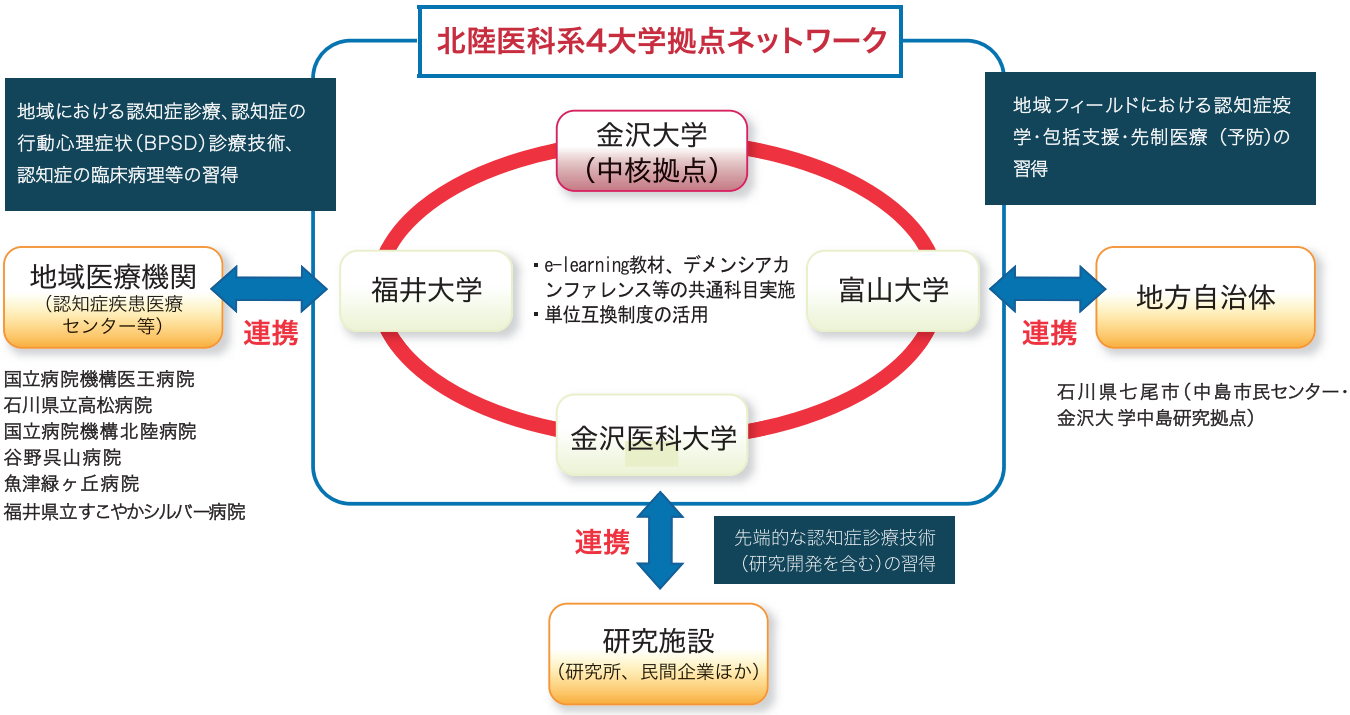
３．受講料
無料（大学院生又は大学生は，別途大学院又は大学の授業料を納付ください。）

４．受け入れ時期
本科コース　４月又は１０月（他のコースは随時）

５．申請書類
・北陸認知症プロフェショナル医養成プラン（認プロ）履修申請書（所定様式）
・卒業証明書（本科コース，スーパーコース申請者は不要）
※「履修申請書」は申請する大学の事務担当（本要項裏面に記載）までご請求ください。

６．修了時期
全コース　９月又は３月

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン



大学拠点間のネットワークを活用した
地域医療機関・研究施設・自治体との連携による特色のあるプログラムの設置

1. 認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）（大学院生が対象、全大学に設置するメインプログラム）
2. 地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）（地域医療機関に勤務する医師が対象、全大学に設置）
3. 認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）
4. 地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）
5. 認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）

養成する人材

認知症に関して高度な知識や技能を有し、地域における認知症診療・認知症対策のリーダーとなる認知症プロフェッショナル医師を養成する。

教育コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	国際的視野を有し、認知症診療に関する幅広い知識・技術を有する認知症診療専門医師、認知症チーム医療のリーダー
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。 デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでは、地域医療機関等との連携のもとに、認知症性疾患の理解、ハイレベルの認知症診療能力育成に必須の認知症関連授業科目を履修し単位を取得し、併せて認知症関連論文を学位論文として完成させる。認知症関連授業科目の教育内容は、疾患修飾薬臨床試験（金沢大学附属病院）等の先端的認知症診療技術の習得、地域（七尾市との共同で認知症地域プロジェクトを実施中）における認知症疫学・先制医療・包括支援の習得、多数の剖検を実施している神経難病専門施設（国立病院機構医王病院）との連携による神経病理学的基盤の理解、認知症専門施設（石川県立高松病院、国立病院機構北陸病院）との連携による認知症の行動心理症状（BPSD）及び重度認知症の診療技術の習得などの特色を有し、学会認定教育病院における研修を要件とする認知症専門医取得のために要求される研修内容を遥かに超えた教育内容を備えている。
指導体制	大学および連携機関に所属する認知症の各領域のエキスパートであるスタッフが、認知症の臨床、基礎、研究について直接指導する体制をとる。具体的には、金沢大学の認知症専門医師・研究者を中心に、当地域の認知症疾患医療センターである石川県立高松病院及び国立病院機構北陸病院（地域認知症・BPSD 診療）、国立病院機構医王病院[神経難病・神経病理研修（日本神経病理学会認定施設）]、石川県七尾市（金沢大学との連携による認知症早期発見、予防、地域包括支援）、横河電機・金沢事業所（MEG 検査）において指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、認知症診療に関する世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフや地域における認知症診療のリーダーとして認知症診療向上、認知症チーム医療推進に貢献する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	３名

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学薬学教育部生命・臨床医学専攻および生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	認知症高度診療専門医師（認知症チーム医療リーダー）
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。 デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	認知症の臨床研究等に精通した専門医を育成する。多職種連携教育を推進し、チーム医療の中心となる人材を育成する。
指導体制	認知症専門家であるスタッフ等が、認知症の臨床、基礎、研究について直接指導する。具体的には富山大学の医師を中心に、当地域の認知症疾患医療センターである谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院および国立病院機構北陸病院とも連携して指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	認知症診療・教育・研究の中心となって、チーム医療リーダーとして認知症医療・医学の質の向上に貢献する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	１名

大学名等	福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学系研究科先端応用医学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	認知症診療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたＰＥＴ、ＭＲＩの機能画像診断を用いた卓越した臨床研究活動が可能な医師
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。 デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸認知症プロ養成プログラム・北陸認知症プロチーム養成基盤形成プランの科目（以下、北陸認プロ科目）を履修すると共に、本学医科学専攻の機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、認知症画像診断の最先端の知識・技能を修得することを特色とする。
指導体制	大学院教員を中心とした直接指導、デメンシアカンファレンス等による広汎な研修を組み合わせた指導体制をとる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	認知症診療・研究のリーダーとなる卓越した認知症専門医師が育成され、アカデミアや中核医療機関のスタッフとして活躍する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	２名

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	「認知症患者の視点」に立った「視野の広い、且つ高い品格」のある「認知症医療」を担うリーダーとなる専門医師を養成する。
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） 認プロホームページでご案内いたします。 デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域における学会、セミナー、研究会等への出席、CPC への出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高い臨床能力と研究能力を併せ持つ認知症専門医養成のための融合型教育システムの構築を特色とする。
指導体制	精神科、神経内科、高齢医学科の３科に所属するスタッフが、それぞれの専門性を活かした指導体制をとる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域における高度の知識・技能を有する専門医師として、全人的認知症医療を行い、認知症の早期発見・都市部の専門病院との地域連携を促進する医師として活躍する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	３名

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
対象者	地域で認知症診療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域における認知症診療について病病連携、病診連携ができる優れた認知症診療能力を有する医師（認知症診療推進病院・協力病院・その他の病院・診療所に勤務する医師）
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目４単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち４単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	認知症疾患の病態・神経病理、認知症診断学、放射線・核医学、治療薬、BPSD 治療、地域包括支援・ケアに関して、e-learning クラウド等を利用して自己学習を行うと共に、デメンシアカンファレンスへの出席による演習を行う。また適宜、講師の派遣による出張演習も行う。 e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	大学および連携機関に所属する認知症の各領域のエキスパートであるスタッフ（本科コースの指導体制を参照）が、認知症とその原因疾患の診断・治療について、e-learning やデメンシアカンファレンス等を活用して幅広く能率的に指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースを修了した医師は、認知症について水準以上の知識・技能を有する医師として地域医療機関で活躍し、地域における認知症診療の均てん化、適切な連携に基づく病院機能分担の促進に貢献する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	３名

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域医療機関などで認知症医療に携わる医師が、より専門性の高い教育を受けることにより、地域認知症医療の中心的役割を果たす。
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目４単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち４単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高齢化が進む過疎地域の医療機関に勤務する医師にも受講を容易にするためのシステムを構築し、能率よく認知症に関する適切な知識や技能を身につけることが可能になる。 e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	大学や地域医療機関等の認知症エキスパート医師による直接指導、e-learning およびテレビ会議システム等を通じた指導を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了により、地域における地域全体の認知症医療の質の向上と均てん化を図るとともに、認知症医療人の地域への定着を推進する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	２名

大学名等	福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域の病院や診療所において、高水準の認知症診療、地域連携、在宅医療等を行うことができる医師
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目４単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち４単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	認知症診療の基本から、BPSD の対策、終末期医療まで、認知症の各病期に対応した、幅広い全人的医療を習得することができる。e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	認知症エキスパート医師による指導、e-learning およびデメンシアカンファレンス等を通じた学習を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域において認知症の診療、地域連携、ケア等を適切に行うことのできる医師として活躍する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	５名

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師養成コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師（歯科医師を含む。）
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域医療機関で高水準の認知症診療を行うことができる医師を養成する。
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目４単位以上の取得。（デメンシアカンファレンス、e-learning 授業、当プログラム公認の学会、セミナー、研究会等への参加による単位を含む。）
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち４単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ＩＣＴの活用とスクーリングによる各特論の受講と、テレビ会議システム活用によりデメンシアカンファレンス参加や各演習科目の履修を行い、効率的な学習を可能とする。 e-learning での自己学習や学会参加等での単位取得により、居住地を問わず履修が可能である。
指導体制	認知症エキスパート医師による指導、e-learning およびデメンシアカンファレンスシステム等を通じた学習を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、大学病院等と緊密な連携をとって地域における認知症診療を向上させていくことができる「認知症プロフェッショナル医」として活躍する。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	３名

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻 （国立病院機構医王病院と連携）	
教育プログラム・コース名	認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）	
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻（社会人）大学院生（平成２７年度以前の入学者は、脳医科学専攻）ほか	
修業年限（期間）	１年（延長可）	
養成すべき人材像	認知症・神経難病の臨床神経病理の基礎を身につけた専門医師	
修了要件・履修方法	認知症・神経難病の臨床神経病理に関わる科目等（下記）を４単位以上の履修	
履修科目等	認知症・神経難病の臨床病理実習：国立病院機構医王病院における臨床・神経病理実習（３単位）（必修） 認知症プロフェッショナル科目(『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）について、デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域での学会、セミナー、研究会等への参加、e-learning 授業等に参加。（１単位以上の取得を義務づける。）	
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースにおいては、社会人大学院生として国立病院機構医王病院における実習（臨床・神経病理研修）を義務化し、認知症の原因となる神経難病の臨床及び神経病理（分子病態を含む）を習得するために必要な教育を行う。国立病院機構医王病院・臨床研究部では認知症疾患を含む神経難病の剖検の実績があり、剖検率は約 50%である。	
指導体制	認知症・神経難病の臨床（日本神経学会及び認知症学会の専門医）及び神経病理の専門家（日本神経病理学会の評議員で学会認定施設である金沢大学、医王病院に所属）が指導者として、直接指導にあたる。	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、神経難病・認知症の臨床病理の基礎を身につけた専門家として認知症の臨床現場のリーダー（認知症・神経難病の専門医師）あるいは大学や研究機関の研究者として活躍する。	
受入開始時期	平成２８年４月	
募集人員	大学院生	１名
	地域医療機関等に勤務する医師	１名

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻	
教育プログラム・コース名	地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）	
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院生（平成２７年度以前の入学者は、脳医科学専攻）ほか	
修業年限（期間）	１年（延長可）	
養成すべき人材像	地域フィールドにおいて認知症疫学、早期発見、予防、ケア等に関する幅広い知識・技能を有する専門医師	
修了要件・履修方法	認知症疫学・予防・ケア等に関わる科目等（下記）を４単位以上履修	
履修科目等	地域認知症疫学・予防・ケア実習（３単位）（必修） 認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）について、デメンシアカンファレンス、当プログラム公認の地域での学会、セミナー、研究会等への参加、e-learning授業等に参加。（１単位以上の取得を義務づける。）	
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢大学は七尾市との連携により七尾市中島町をフィールドとする認知症地域プロジェクト（なかじまプロジェクト）の実績があり、七尾市中島市民センターに金沢大学中島研究拠点を設置している。本コースは、中島町を地域フィールドとして認知症調査、予防、認知症ケア・包括支援等に関する実習を行う独自のプログラムである。	
指導体制	金沢大学において当該地域フィールド認知症研究を行っている教員（金沢大学革新予防医科学共同大学院において認知症先制医療学を担当予定の教員を含む。）、保健師等の地域自治体職員、当該地域の医療機関スタッフ等が一体となって実習指導にあたる。	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースの修了者は、認知症診療ばかりでなく、地域で急増する認知症に対する対策の立案（予防介入実践、認知症になっても笑顔で暮らせる地域など）等の幅広い領域で活躍する認知症プロフェッショナル医師となる素地をつくることができる。	
受入開始時期	平成２８年４月	
募集人員	大学院生	１名
	地域医療機関等に勤務する医師	１名

大学名等	金沢大学医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
対象者	金沢大学医薬保健学域医学類学生～医薬保健学総合研究科医学専攻大学院生の一貫コース
修業年限（期間）	４年（医学類在学）＋４年（大学院在学）
養成すべき人材像	高度の認知症診療力ばかりでなく、国際的に活躍できる研究能力を有する認知症専門医師
修了要件・履修方法	卒前研究（Medical Research Training（MRT)プログラム等）及び大学院課程による。（MD-PhD コースを含む。）大学院では認知症プロフェッショナル授業科目１０単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	卒前：MRT プログラム等における認知症関連研究（必修） 卒後：認知症プロフェッショナル授業科目＊（１０単位以上取得が必須。e-learning 授業やデメンシアカンファレンス受講による単位認定を含む。） ＊認知症プロフェッショナル科目：認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）の記述を参照。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	卒前の MRT プログラム（金沢大学医薬保健学域医学類学生のためのリサーチプログラム）や MD-PhD コースにおいて、認知症に関する研究マインドを植付け、基礎から臨床までの幅広い研究活動[試験管内研究やモデル動物を用いた基礎研究から、神経病理学的研究、臨床研究、モデル地域における疫学研究や予防介入研究（なかじまプロジェクト）]に従事し、卒後臨床研修期間中も研究を継続できる、高い認知症研究能力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒後一貫教育コースであり、認知症に関する高度かつ広範囲な領域をカバーする独自のプログラムである。
指導体制	大学、地域医療機関、研究機関、地域自治体等において、大学教員が中心となって、学類学生～初期研修～大学院生に渡る一貫した指導体制をとる。（本科コースの指導体制を参照。）その間、海外の一流の研究者をカンファレンス等に招き、必要に応じ短期海外留学を行い、国際一流学術誌に論文が掲載されるよう指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	国際的に活躍する認知症専門家、研究者として、アカデミアを中心として活躍し、２１世紀の超高齢化社会における認知症医療・医学を指導する立場となる。
受入開始時期	平成２８年４月
募集人員	１名

各大学事務担当

【金沢大学】
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営事務局
〒920-8640　石川県金沢市宝町 13 番 1 号　金沢大学医薬保健学域医学類B棟 2 階
e-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

【富山大学】
医薬系学務課大学院教務チーム
〒930-0194　富山県富山市杉谷 2630 番地
e-mail　mpin@adm.u-toyama.ac.jp

【福井大学】
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）福井事務局
〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23 番 3 号
e-mail　n-pro@ml.u-fukui.ac.jp

【金沢医科大学】
金沢医科大学教学課（大学院担当）
〒920−0293　石川県河北郡内灘町大学 1 丁目 1 番地
e-mail　d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

平成２７年度　事業実施成果報告書
平成２８（２０１６）年３月

編集・発行
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
北陸認プロ運営事務局
〒920-8640　石川県金沢市宝町１３番１号
金沢大学医薬保健学域　医学類Ｂ棟
TEL:076-265-2149　FAX:076-234-4208
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://ninpro.jp/

NINPRO